

# Oracle9i Lite

パブリッシュおよびデプロイ・ガイド

リリース 5.0

2001 年 7 月

部品番号 : J04363-01

ORACLE®

---

Oracle9i Lite パブリッシュおよびディプロイ・ガイド, リリース 5.0

部品番号 : J04363-01

原本名 : Oracle9i Lite Publishing, Managing, and Deploying Guide, Release 5.0

原本部品番号 : A90111-01

Copyright © 1996, 2001, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム (ソフトウェアおよびドキュメントを含む) の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

\* オラクル社とは、Oracle Corporation (米国オラクル) または日本オラクル株式会社 (日本オラクル) を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation (米国オラクル) およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

---

# 目次

はじめに .....	xi
<b>1 概要</b>	
Mobile サーバーとは .....	1-2
概念と用語 .....	1-2
実装のためのチュートリアル .....	1-2
詳しい実装方法 .....	1-3
<b>2 概念</b>	
Web-to-Go .....	2-2
Mobile サーバー環境 .....	2-2
Mobile クライアント .....	2-3
Web-to-Go の Mobile クライアント .....	2-4
Mobile サーバー .....	2-4
データベース・サーバー .....	2-4
ワークスペース .....	2-4
同期の概念 .....	2-5
データ同期 .....	2-5
データおよびアプリケーションの同期 .....	2-6
パッケージ・ウィザード .....	2-6
アクセス制御の管理 .....	2-6
Mobile サーバー・コントロール・センター .....	2-7

### 3 Mobile アプリケーションの管理

概要 .....	3-2
アクセス・コントロール・リストの管理 .....	3-2
Web-to-Go ロールの割当て .....	3-2
レプリケーションとスナップショットの管理 .....	3-3
スナップショット .....	3-3
データベース表の作成 .....	3-4
パッケージ・ウィザードによるスナップショットの定義 .....	3-4
スナップショット・テンプレート .....	3-5
クライアント・サイトの追跡 .....	3-6
サーバーのランタイム・レポート .....	3-7
外部認証の使用 .....	3-8
Mobile サーバー・コントロール・センターによるアプリケーションの管理 .....	3-10
ログイン .....	3-10
Mobile サーバー・コントロール・センターの概要 .....	3-12
Mobile サーバーの管理タスク .....	3-13
ユーザーの作成 .....	3-15
ユーザーの変更または削除 .....	3-17
グループの作成 .....	3-21
グループの変更または削除 .....	3-23
ユーザーまたはグループに対するアプリケーション・アクセス権の付与または取消し .....	3-24
グループ・レベル・アクセスでのユーザーの包含と除外 .....	3-26
ユーザーに対する Mobile サーバー・ロールの付与または取消し .....	3-27
グループに対するアプリケーション・ロールの付与または取消し .....	3-29
パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択 .....	3-30
データ・サブセッティング・パラメータの変更 .....	3-32
レジストリ・エントリの変更 .....	3-35
アプリケーション・プロパティの変更 .....	3-37
Mobile サーバーからのアプリケーションの削除 .....	3-40
アプリケーションの一時停止 .....	3-41
アプリケーションの再開 .....	3-42
Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード .....	3-43
システム・ブックマークの作成 .....	3-44
サイト詳細のリスト .....	3-48
Mobile サーバーからのサイトの消去 .....	3-49

サイト詳細の表示 .....	3-50
サーバーのシステム・ステータス・レポートの表示 .....	3-51
サーバーの一時停止 .....	3-53
サーバーの再開 .....	3-54
アクティブなユーザー・セッションの表示 .....	3-55
Mobile サーバー・リポジトリへの SSL サーバー証明書のアップロード .....	3-55
Message Generator and Processor (MGP) の起動 .....	3-56
Message Generator and Processor (MGP) の停止 .....	3-57
<b>データ同期ジョブのスケジュール .....</b>	<b>3-58</b>
データ同期ジョブのスケジュールの表示 .....	3-58
新しいデータ同期ジョブの作成 .....	3-59
データ同期ジョブの編集 .....	3-61
データ同期ジョブの削除 .....	3-61

## 4 Web-to-Go の Mobile クライアントの使用

<b>概要 .....</b>	<b>4-2</b>
<b>Web-to-Go の Mobile クライアントのインストール .....</b>	<b>4-2</b>
ハードウェア要件 .....	4-2
ソフトウェア要件 .....	4-2
インストール .....	4-2
<b>ワークスペースの使用 .....</b>	<b>4-4</b>
<b>Web-to-Go へのログオン .....</b>	<b>4-6</b>
<b>アプリケーションのアクセス .....</b>	<b>4-7</b>
<b>アプリケーションの実行 .....</b>	<b>4-8</b>
<b>Web-to-Go ワークスペースの構成 .....</b>	<b>4-8</b>
オフライン・モード・オプション .....	4-10
<b>アプリケーション設定の構成 .....</b>	<b>4-10</b>
<b>パスワードの変更 .....</b>	<b>4-12</b>
<b>ユーザーのブックマークの作成と編集 .....</b>	<b>4-13</b>
ユーザーのブックマークの作成 .....	4-13
<b>ブックマークのアクセス .....</b>	<b>4-16</b>
<b>データ同期ジョブのスケジュール .....</b>	<b>4-17</b>
データ同期ジョブの表示 .....	4-18
新しいデータ同期ジョブの作成 .....	4-19
データ同期ジョブの編集 .....	4-21
データ同期ジョブの削除 .....	4-21

アプリケーションの切替え .....	4-22
パブリック・ファイルのダウンロード .....	4-22
Web-to-Go からのログオフ .....	4-23

## A    **トラブルシューティングのための FAQ**

Mobile サーバー・リポジトリに含まれるファイルの検査 .....	A-2
デバッグ・モードでの Mobile サーバーの実行 .....	A-3

## B    **Mobile サーバー構成パラメータ**

[WEBTOGO] .....	B-2
[FILESYSTEM] .....	B-5
[DEBUG] .....	B-6
[PUBLIC] .....	B-6
[SERVLET_PARAMETERS] .....	B-7
[CONSOLIDATOR] .....	B-7

## C    **init.ora での Consolidator 要件**

関連パラメータ同士の関係 .....	C-2
PROCESSES および DML_LOCKS の値 .....	C-2

## D    **Secure Sockets Layer (SSL) のサポート**

サーバー側の構成 .....	D-2
スタンドアロン・モードの Mobile サーバー .....	D-2
Oracle9iAS と Apache Server の構成 .....	D-2
Mobile サーバー構成 .....	D-3
CA 証明書の設定 .....	D-4
クライアント側の構成 .....	D-4
Mobile クライアントと Mobile サーバーの間の通信 .....	D-4
ブラウザと Web-to-Go の Mobile クライアントの間の接続 .....	D-4
非 SSL の Mobile クライアントのサポート .....	D-5

**E   Mobile サーバーのスクリプト言語**

構文の説明 .....	E-2
スクリプト INI ファイルの実行方法 .....	E-6
例 .....	E-6
アクセス権の作成、追加および付与 .....	E-6
アクセス権の削除および取消し .....	E-8

**F   プロキシ・サーバーのバイパス**

**用語集**

**索引**







2-1	Mobile サーバー環境 .....	2-3
2-2	ワークスペース .....	2-5
3-1	Mobile サーバー・コントロール・センターの web ページへのログオン .....	3-10
3-2	Mobile サーバー・コントロール・センターのリンク .....	3-11
3-3	Mobile サーバー・コントロール・センター .....	3-12
3-4	ユーザーの作成 .....	3-17
3-5	ユーザーの変更または削除 .....	3-19
3-6	ユーザー・サイトの表示 .....	3-20
3-7	グループの作成 .....	3-22
3-8	グループの変更または削除 .....	3-24
3-9	アプリケーション・アクセス権の付与または取消し .....	3-26
3-10	ユーザーのロールの取消し .....	3-29
3-11	パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択 .....	3-31
3-12	データ・サブセッティング・パラメータの変更 .....	3-33
3-13	データ・サブセッティング・パラメータの参照 .....	3-34
3-14	レジストリ・エントリの変更 .....	3-36
3-15	ユーザーの名前と値のペアの変更 .....	3-37
3-16	アプリケーション・プロパティの変更 .....	3-39
3-17	データベース接続情報の変更 .....	3-40
3-18	アプリケーションの削除 .....	3-41
3-19	アプリケーションの一時停止 .....	3-42
3-20	アプリケーションの再開 .....	3-42
3-21	Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード .....	3-43
3-22	システム・ブックマークの作成 .....	3-44
3-23	「ブックマーク・プロパティ」パネル .....	3-45
3-24	鉛筆アイコン .....	3-46
3-25	「イメージのローディング」パネル .....	3-48
3-26	サイトの削除 .....	3-49
3-27	サーバーの一時停止 .....	3-53
3-28	サーバーの一時停止の警告ダイアログ・ボックス .....	3-54
3-29	サーバー再開の警告ダイアログ・ボックス .....	3-54
3-30	SSL サーバー証明書のアップロード .....	3-56
3-31	MGP を起動中 .....	3-57
3-32	MGP を停止 .....	3-58
3-33	「ジョブの作成」パネル .....	3-60
3-34	スケジュール済みのジョブのリスト .....	3-61
4-1	Web-to-Go の Mobile クライアントのダウンロード .....	4-3
4-2	ワークスペースの機能タブ .....	4-4
4-3	Web-to-Go のログオン・ページ .....	4-7
4-4	ワークスペースの構成 .....	4-9
4-5	アプリケーション設定の構成 .....	4-11
4-6	パスワードの変更 .....	4-12
4-7	ユーザーのブックマークの作成 .....	4-13

4-8	ブックマーク・アイコンの編集 .....	4-16
4-9	ブックマークのアクセス .....	4-17
4-10	データ同期ジョブの表示 .....	4-19
4-11	「ジョブの作成」パネル .....	4-20
4-12	アプリケーションの選択後 .....	4-22
4-13	「接続」タブ .....	F-2
4-14	ローカル エリア ネットワーク (LAN) の設定 .....	F-3
4-15	「プロキシの設定」ダイアログ・ボックス .....	F-4

## 表

4-1	WEBTOGO パラメータ .....	B-2
4-2	FILESYSTEM パラメータ .....	B-5
4-3	DEBUG パラメータ .....	B-6
4-4	PUBLIC パラメータ .....	B-6
4-5	SERVLET パラメータ .....	B-7
4-6	レプリケーション・パラメータ .....	B-7
4-7	パラメータの設定 .....	C-2



---

# はじめに

このマニュアルでは、**Oracle9i Lite**を使用したアプリケーションのパブリッシュ、管理およびディプロイの方法に関する情報をデータベース管理者に提供します。

このマニュアルの内容は、次のとおりです。

## 第 1 章「概要」

**Mobile** サーバーを紹介し、このマニュアルの使用方法を説明します。

## 第 2 章「概念」

**Mobile** サーバーの機能と用語を理解するための概念的なフレームワークを提供します。

## 第 3 章「**Mobile** アプリケーションの管理」

**Mobile** サーバー・アプリケーションの管理方法に関する情報を提供します。

## 第 4 章「**Web-to-Go** の **Mobile** クライアントの使用」

**Web-to-Go** の **Mobile** クライアントのインストールおよび使用方法を説明します。

## 付録 A「トラブルシューティングのための FAQ」

**Mobile** サーバーのトラブルシューティングについて、よくある質問とその回答を提供します。

## 付録 B「**Mobile** サーバー構成パラメータ」

**webtogo.ora** ファイルに含まれている構成パラメータを定義します。

## 付録 C「**init.ora** での **Consolidator** 要件」

**init.ora** における、**Oracle8** および **Oracle8i** のパラメータ設定に必要な **Consolidator** の要件を説明します。

## 付録 D「**Secure Sockets Layer (SSL)** のサポート」

**Mobile** サーバーがサポートする **Secure Sockets Layer (SSL)** 通信プロトコルを説明します。

## 付録 E「**Mobile** サーバーのスクリプト言語」

**Mobile** サーバーのスクリプト言語について説明します。スクリプトを使用して、頻繁に実行する管理作業をバッチ処理できます。

## 付録 F「プロキシ・サーバーのバイパス」

プロキシ・サーバーをバイパスするようにクライアント・マシンを構成する方法を説明します。



このマニュアルでは、アプリケーションのパブリッシュ、管理およびディプロイの処理について説明します。

この章では、Mobile サーバーの概要を紹介します。内容は次のとおりです。

- [Mobile サーバーとは](#)
- [概念と用語](#)
- [実装のためのチュートリアル](#)
- [詳しい実装方法](#)

## Mobile サーバーとは

Mobile サーバーを使用すると、管理者は様々なデバイス・プラットフォームに Mobile アプリケーションをパブリッシュ、管理およびディプロイできます。Mobile サーバーは、データとアプリケーションの両方を Mobile クライアントと同期します。

管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して Mobile サーバーを管理します。このツールを使用することで、管理者はユーザーを作成、削除または変更し、アプリケーションにアクセス権限を割り当て、スナップショット・テンプレート変数を設定できます。

Mobile アプリケーションを Mobile サーバー・リポジトリに登録するには、パッケージ・ウィザードを使用してそのアプリケーションをパッケージする必要があります。この処理には、アプリケーションの説明、アプリケーションの一部となるファイルのリスト作成、および Mobile アプリケーションに必要なスナップショット（パブリケーション項目）の作成が含まれます。この後、アプリケーションを jar ファイルに保存できます。これらの作業は、通常アプリケーションの開発者によって実行されます。

管理者がアプリケーションをパブリッシュすると、パブリケーションおよびパブリケーション項目が Mobile サーバー・リポジトリに自動的に作成されます。パブリケーションは、アプリケーションがサポートするプラットフォームごとに作成されます。パブリケーション項目は、自動的に作成されてパブリケーションに追加されます。パブリケーションとパブリケーション項目の情報はアプリケーション定義の一部で、開発者が指定し、jar ファイルに保存されます。

開発者はパッケージ・ウィザードを使用してアプリケーションをパッケージ（または定義）し、パブリケーションおよびパブリケーション項目の情報を指定します。アプリケーションがパッケージされると、管理者は Mobile サーバー・コントロール・センターを使用してそのアプリケーションを Mobile サーバー・リポジトリにパブリッシュできます。パッケージ・ウィザードの詳細は、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』を参照してください。Mobile サーバー・コントロール・センターの説明は、このマニュアルの第3章「[Mobile アプリケーションの管理](#)」を参照してください。

## 概念と用語

Oracle9i Lite を実装する前に、Oracle9i Lite の概念と用語を理解しておく必要があります。第2章「[概念](#)」には Oracle9i Lite の概要が説明されており、[用語集](#)には用語と定義の完全なリストが掲載されています。作業を開始する前に、この2つの章をよく読んでください。

## 実装のためのチュートリアル

Oracle9i Lite の概念と用語を理解すると、実装処理がよく理解できるようになります。実装プラットフォームとして Web-to-Go を使用する実装処理のチュートリアルは、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』の第4章「[Web-to-Go のチュートリアル](#)」にあります。このチュートリアルでは、簡単な Web-to-Go アプリケーションを開発して実行する過程を、順を追って説明します。



## 詳しい実装方法

Oracle9i Lite アプリケーションの開発および実装の概要を理解すると、Web-to-Go を例に使用して『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』の第 3 章「Web-to-Go アプリケーションの開発」の説明を読み進めることができます。この章では、Web-to-Go アプリケーションの開発およびパッケージに関する詳細な情報を提供します。さらに、このマニュアルにはサンプル・アプリケーションとトラブルシューティング情報が提供されています。



この章では、Web-to-Go の機能と用語を理解するための概念的なフレームワークを提供します。内容は次のとおりです。

- [Web-to-Go](#)
- [Mobile サーバー環境](#)
- [同期の概念](#)
- [パッケージ・ウィザード](#)
- [アクセス制御の管理](#)

## Web-to-Go

Web-to-Go は Web ベースの Mobile データベース・アプリケーションを作成およびディプロイするためのフレームワークであり、Mobile サーバーの一部を構成します。Web-to-Go モデルは、常にオフラインの状態にあり、同期機能を使用して Oracle8i とデータ変更を同期するユーザーをサポートします。

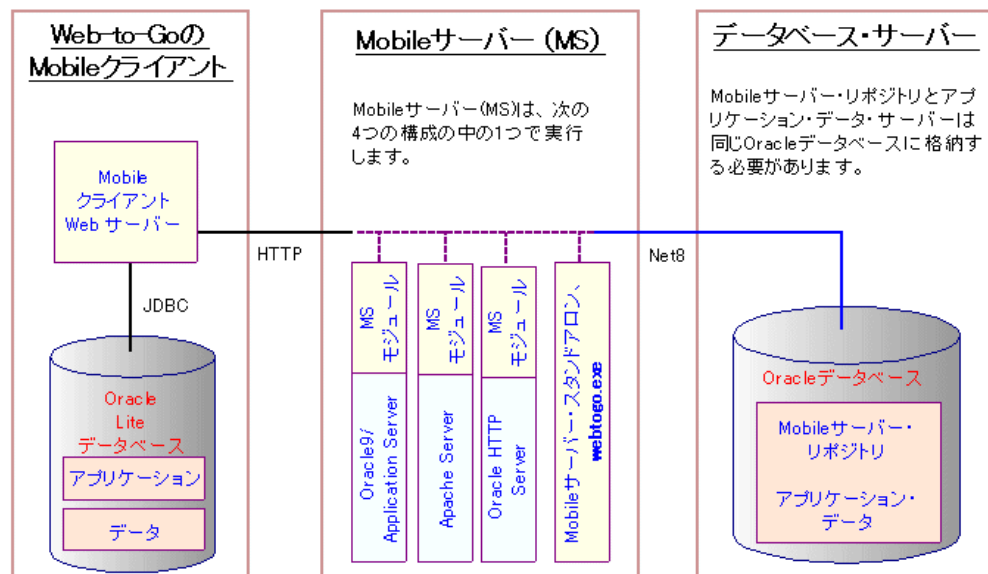
Web-to-Go は、Mobile サーバーから一元的に管理されます。Mobile サーバーのパッケージ・ウィザードおよび Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、管理者は Mobile アプリケーションをパブリッシュおよび管理できます。パッケージ・ウィザードを使用して、開発者は管理者がパブリッシュする予定のアプリケーションを定義し、管理者は定義されたアプリケーションを Mobile サーバーにパブリッシュします。アプリケーションの管理には Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。管理者はここからユーザーの作成と権限の割当てを実行できます。

ユーザーは、Web ブラウザを使用して Web-to-Go の Mobile クライアントから Web-to-Go アプリケーションを実行します。Web-to-Go の Mobile クライアントのインストールと使用に必要なものは、HTML ブラウザと Mobile サーバーへのアクセスのみです。

## Mobile サーバー環境

Mobile サーバー環境は、クライアント、Web アプリケーション・サーバーおよびデータベース・サーバーからなる 3 層の Web モデルです。[図 2-1](#) に示すように、Mobile サーバー環境の 3 層アーキテクチャには Mobile クライアント（たとえば、Web-to-Go の Mobile クライアント）、Mobile サーバーおよびデータベース・サーバーが含まれます。

図 2-1 Mobile サーバー環境



Mobile サーバーは中間層を構成します。データベース・サーバーは第1層です。Mobile サーバー・リポジトリおよびアプリケーション・データ・サーバーは、同じ Oracle データベースに格納する必要があります。

## Mobile クライアント

Mobile クライアントの層は、Oracle Lite データベース、Mobile Sync、およびクライアント・マシンまたは次に示す互換性のあるオペレーティング・システムのいずれかを実行している携帯端末によって構成されます。

- Windows NT 4.0 SP5、Windows 2000 または Windows 95/98
- Palm OS
- Windows CE または Pocket PC
- EPOC

---

---

**注意：** ハードウェアおよびソフトウェア要件の詳細は、『Oracle9i Lite インストールガイド』を参照してください。

---

---

## Web-to-Go の Mobile クライアント

Web-to-Go の Mobile クライアントの層は、Mobile クライアント Web サーバーおよび Oracle Lite データベースによって構成されます。Web-to-Go の Mobile クライアントは、Windows 32 のブラウザからアクセスできます。

## Mobile サーバー

アプリケーション・サーバーの層には Mobile サーバーが含まれ、ここで Mobile クライアントからの要求を処理してデータベース・サーバー内のデータをレプリケートします。Mobile サーバーは、次に示す Web アプリケーション・サーバーの 1 つとともに稼働するモジュールです。

- Oracle9i Application Server (Oracle9iAS)
- Oracle HTTP Server
- Apache Server

この他に、スタンドアロンの Mobile サーバーである **webtogo.exe** があります。

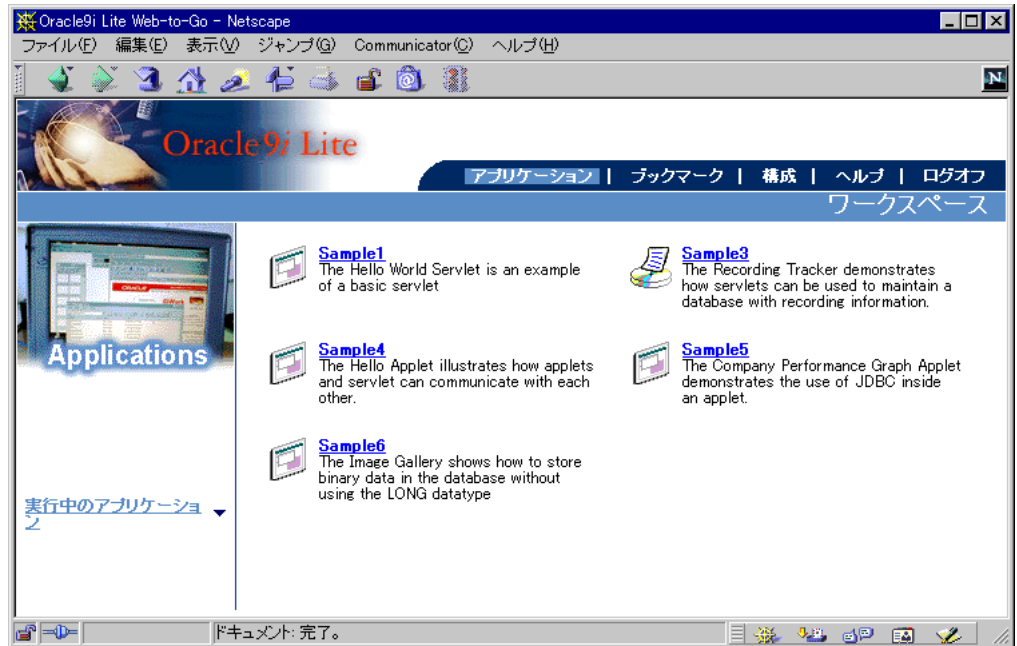
## データベース・サーバー

データベース・サーバーの層は、アプリケーション・データとアプリケーション・ファイルおよびシステム・ファイルを格納します。これらのファイルは、Mobile サーバー・リポジトリ (Oracle8i 上に常駐する仮想ファイル・システム) に格納されます。このリポジトリは、すべてのアプリケーション・ファイルとアプリケーション定義を含む持続リソース・リポジトリです。

## ワークスペース

ユーザーは、ワークスペースと呼ばれる web ページからアプリケーションにアクセスします。Mobile サーバーは、ユーザーが Mobile サーバーにログオンした後、ユーザーのブラウザ内にワークスペースを生成します。図 2-2 に示すように、ワークスペースには、ユーザーが使用できるすべてのアプリケーションのアイコン、リンクおよび説明が表示されます。

図 2-2 ワークスペース



ユーザーがアプリケーションを使用できるのは、管理者がアプリケーションをシステムにパブリッシュし、ユーザーに対してアクセス権を付与した後です。

## 同期の概念

様々なプラットフォームに対応する Mobile クライアントは、Mobile Sync を使用して、ローカルの Oracle Lite データベースと Oracle8 サーバーの間でデータ変更を同期します。

## データ同期

データ同期の際、Mobile クライアントはデータ変更を Oracle8i のインキューにアップロードします。次に、クライアントはアウトキューから新しい更新データをダウンロードし、ローカルの Oracle Lite データベースに適用します。

Consolidator Message Generator and Processor (MGP) は、キューから Oracle8i データベースに対して、保留中のトランザクションを設定された間隔で適用する Java バックグラウンド・プロセスです。また、Mobile クライアントがダウンロードする新しいデータ更新も生成します。このような更新は、アウトキューに格納され、次の同期実行時に Mobile クラ

イアントにより取り出されます。Mobile クライアントによってアップロードされたデータの変更は、MGP がインキューを処理してその変更を適用するまで、Oracle8i データベースには反映されません。同様に、MGP 実行後に発生した Oracle8i の表に対する変更はアウトキューには追加されず、Mobile クライアントによる同期時にもダウンロードされません。

MGP が実行中でない場合でも、変更をインキューにアップロードしたり、更新をアウトキューにダウンロードできます。ただし、インキューは処理されず、アウトキューは新しい変更を受信しません。MGP は、Mobile サーバー・コントロール・センターから起動および停止できます。MGP の起動および停止の詳細は、「[Message Generator and Processor \(MGP\) の起動](#)」および「[Message Generator and Processor \(MGP\) の停止](#)」を参照してください。

## データおよびアプリケーションの同期

オンライン・モードに切り替えると、Mobile サーバーはローカルに加えられたデータ変更を Oracle8i のデータ・サーバーにレプリケートします。Oracle8i のデータ・サーバーに対するデータ変更は、Mobile クライアントの Oracle Lite データベース内のデータに適用されます。また、すべてのアプリケーション変更が Mobile クライアントにダウンロードされます。

同様に Web-to-Go でも、オンライン・モードからオフライン・モードに、またはその逆に切り替えるときにデータおよびアプリケーションが同期します。

## パッケージ・ウィザード

パッケージ・ウィザードを使用すると、アプリケーションの定義を作成または変更して、Mobile サーバー・リポジトリにパブリッシュできます。アプリケーション定義は、アプリケーションのプロパティ（アプリケーションの名前、説明、データベース接続情報など）と同様に、HTML ファイル、データベース・オブジェクトおよび Java サブレットを指定します。アプリケーション定義は、通常はアプリケーションの開発者が作成します。

## アクセス制御の管理

Mobile サーバーは、すべてのユーザーとアプリケーションに対するサーバー側管理を提供します。管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して Mobile ユーザーおよび Mobile アプリケーションを管理します。



## Mobile サーバー・コントロール・センター

管理者は Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、本番システムにアプリケーションをインストールできます。アプリケーションをパブリッシュすると、管理者は Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、アプリケーションのアクセス権限をユーザーに割り当てられます。

管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して個別のユーザーまたはグループにアクセス権を付与したり取り消すことにより、アプリケーションに対するアクセス制御を作成および変更できます。また、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、次のような管理作業を実行できます。

- サーバーのステータス表示
- 非同期のレプリケーション・エンジンである MGP の起動、停止およびそのステータスの検証
- サイト情報の表示

また、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、アプリケーションのプロパティを変更できます。

- アプリケーションが Web-to-Go 接続プールで管理する接続数の変更
- Oracle8i のログイン・ユーザー名とパスワードの変更
- クライアントにダウンロードされるデータ・サブセットの決定

詳細は、「[Mobile サーバー・コントロール・センターによるアプリケーションの管理](#)」を参照してください。



---

## Mobile アプリケーションの管理

この章では、Mobile サーバー・アプリケーションの管理方法に関する情報を提供します。  
内容は次のとおりです。

- 概要
- アクセス・コントロール・リストの管理
- レプリケーションとスナップショットの管理
- クライアント・サイトの追跡
- 外部認証の使用
- Mobile サーバー・コントロール・センターによるアプリケーションの管理

## 概要

Mobile アプリケーションを開発してディプロイした後、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用してアプリケーションを管理します。Mobile サーバー・コントロール・センターは、Mobile アプリケーションのユーザー固有およびアプリケーション固有のプロパティを設定または変更できるようにする Web アプリケーションです。Mobile サーバー・コントロール・センターを使用するには、次に示す操作方法を理解しておく必要があります。

- アクセス・コントロール・リストの管理
- レプリケーションとスナップショットの管理
- クライアント・サイトの追跡
- 外部認証の使用

---

---

**注意：** Mobile サーバー・コントロール・センターを使用する前に、Mobile サーバーにログインする必要があります。ADMIN 権限および Mobile サーバー・コントロール・センターへのアクセス権を持ったユーザーとしてログインする必要があります。

---

---

## アクセス・コントロール・リストの管理

アクセス・コントロール・リストにより、アプリケーションへのアクセス権を個々のユーザーまたはユーザー・グループに付与できます。システム管理者はこのリストを使用して、どのユーザーまたはグループがアプリケーションの実行ファイルおよびデータにアクセスできるかを決定します。また、ユーザーまたはユーザー・グループがアプリケーションに対して持つアクセス権の種類も決定できます。

## Web-to-Go ロールの割当て

ロールは、アプリケーション内で指定される権限レベルです。開発者が、アプリケーションのコード内にロールを作成します。ロールは、ユーザーおよびアプリケーションの属性です。

たとえば、次のとおりです。

```
role=employee
```

パッケージ・ウィザードによるアプリケーション・ロールの定義の詳細は、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』を参照してください。

アプリケーションを Mobile サーバーにパブリッシュした後、管理者は Mobile サーバー・コントロール・センターを使用してユーザーおよびグループにロールを割り当てます。管理者はユーザーおよびユーザー・グループに対してロールを割り当てることで、ユーザーのアプリケーション・アクセス権を決定します。たとえば、サーバーに 3 種類のアプリケーション

(アプリケーション A、B、C) があり、ユーザーは 2 人 (Jane と John) でロールがそれぞれ異なるとします。Jane は、2 つのアプリケーションに関して担当者 (employee) としてのロールと開発者 (developer) としてのロールをそれぞれ持っています。John は、2 つのアプリケーションに関して管理者 (manager) としてのロールと担当者 (employee) としてのロールをそれぞれ持っています。

アプリケーション	ロール	ユーザー
アプリケーション A	employee	Jane
アプリケーション A	manager	John
アプリケーション B	employee	John
アプリケーション C	developer	Jane

## レプリケーションとスナップショットの管理

Mobile サーバーでは、クライアントはオフラインに切り替える前にアプリケーション・データのローカル・コピーをダウンロードできます。ある瞬間の情報を捕えるため、データのローカル・コピーは「スナップショット」と呼ばれます。スナップショットはデータベース表全体のコピー、または表の行のサブセットのコピーです。ユーザーが Mobile クライアントと同期するときに、スナップショットが自動的に作成されます。

たとえば、Web-to-Go の Mobile クライアントをインストールした後、最初にユーザーが Web-to-Go の Mobile クライアントにログインするとき、Web-to-Go は自動的にクライアント・マシン上にスナップショットを作成します。その後ユーザーが同期するたびに、Web-to-Go はスナップショットの複雑さに応じて、スナップショットを最新のデータでリフレッシュするか、スナップショット全体を再作成します。

### スナップショット

スナップショットは、ある瞬間における表またはビューの行全体またはサブセットです。実表に対して SQL 問合せを実行することで作成されます。スナップショットには、読取り専用スナップショットと更新可能スナップショットがあります。複雑さは様々です。

#### 読取り専用スナップショット

読取り専用スナップショットは、問合せにのみ使用します。マスター表に対する変更は、Mobile クライアントによってスナップショットにレプリケートされます。

### 更新可能スナップショット

更新可能スナップショットは、マスター表の更新可能コピーです。更新可能スナップショットは、マスター表全体の完全なコピーを含むように定義するか、マスター表の行のうち、値による選択条件を満たす行のみを含むように定義します。スナップショットには変更を加えることができ、この変更を **Mobile Sync** は元のマスター表へ伝播します。

スナップショットが更新可能になるのは、そのスナップショットの基になるすべての実表が主キーを持つ場合のみです。実表が主キーを持たない場合、そのスナップショットは読取り専用になります。

### スナップショットのリフレッシュ

更新可能スナップショットで完全リフレッシュ方法と高速リフレッシュ方法のどちらを使用するかは、ユーザーの定義により決まります。完全リフレッシュ方法では、リフレッシュのたびにスナップショットが再作成されます。高速リフレッシュ方法では、スナップショットの既存のデータがリフレッシュされます。一般に、スナップショットの定義が簡単なほど、更新が早くなります。高速リフレッシュ方法の詳細は、『**Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド**』を参照してください。

### データベース表の作成

SQL コマンドの **CREATE TABLE** を使用すると、**Oracle8i** データベースにレプリケーション用の表を作成できます。更新可能スナップショットに使用されるすべての表に、**PRIMARY KEY** 制約が必要です。

### パッケージ・ウィザードによるスナップショットの定義

**Mobile** クライアントにレプリケートする各表に対してスナップショット定義を作成するには、パッケージ・ウィザードを使用する必要があります。

スナップショット定義には、スナップショット名と SQL 問合せが含まれます。**Mobile** クライアントは、ローカルの **Oracle Lite** データベースのスナップショット名と同じ名前の実表を作成します。実表の列は、SQL 問合せにより返される列と対応します。次に、マスター・データベースに対する SQL 問合せによって返された行が **Mobile** クライアントによって表に移入されます。

### 例：単純スナップショットの問合せ

単純な問合せを使用して、スナップショットの基本的なサブセットを作成できます。たとえば、営業担当者が顧客情報を含むマスター表の一部を表示するとします。これを行うには、営業担当者は **SELECT** 文に **WHERE** 句を追加して、19555 という郵便番号を持つ顧客のみを問い合わせます。

```
SELECT * FROM SALES.CUSTOMERS WHERE ZIP = 19555;
```

## 例：高度なスナップショットの問合せ

スナップショットを定義する問合せに副問合せを使用して、より高度なサブセットを作成することもできます。スナップショットを定義する問合せに、複数の表を参照する副問合せを指定して、スナップショットのマスター表の行をフィルタ処理できます。

たとえば、営業担当者は自分の担当区域内の顧客に対応する注文情報にアクセスできるスナップショットが必要になったとします。この担当者は `SELECT` 文に `WHERE EXISTS` 句と `WHERE` 句を追加します。この2つの句では、副問合せを使用して、`CUSTOMERS` 表の郵便番号の列を参照するスナップショットを `ORDERS` マスター表に対して定義します。

```
SELECT * FROM sales.orders o
WHERE EXISTS
( SELECT c_id FROM sales.customers c
  WHERE o.c_id = c.c_id AND zip = 19555);
```

このスナップショットは、スナップショットの選択条件に一致する郵便番号列値を持つ顧客の全注文を、スナップショットの実表に移入します。

## スナップショット・テンプレート

スナップショットはアプリケーションを基にしています。オフラインに切り替えるクライアントは、すべて同一のスナップショット定義を使用します。この結果、すべてのクライアントが同じアプリケーション・データをダウンロードすることになります。場合によっては、アプリケーションがダウンロードするデータを各ユーザーごとに指定することがあります。スナップショット・テンプレートを使用すると、これが可能です。

スナップショット・テンプレートは、データ・サブセッティング・パラメータが含まれている SQL 問合せです。データ・サブセッティング・パラメータは、コロンの (:) とその後に続く識別子名です。たとえば、次のように指定します。

```
:var1
```

Mobile クライアントがクライアント・マシン上にスナップショットを作成するときに、この変数がユーザー固有の値に置き換えられます。ユーザーごとに異なる値を指定すると、問合せにより返される行の数を制御できます。

パッケージ・ウィザードを使用して、スナップショット定義の作成と同じ方法でスナップショット・テンプレートを指定できます。詳細は、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』を参照してください。

データ・サブセッティング・パラメータを文字列の一部に含めることはできないため、変数を一重引用符 (') で囲まないでください。データ・サブセッティング・パラメータの値として文字列を指定する場合は、文字列自体を一重引用符で囲む必要があります。テンプレート変数の値は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して指定します。

スナップショット・テンプレートの例

次の例では、特定のユーザーごとに異なる値（10、20、'KING' など）を指定して、管理者がスナップショット・テンプレートの動作と出力を制御できるようにしています。

例 1:

スナップショット・テンプレート:`select * from emp where deptno = :dno`

ユーザー	値	スナップショットの問合せ
John	10	<code>select * from emp where deptno = 10</code>
Jane	20	<code>select * from emp where deptno = 20</code>

例 2:

スナップショット・テンプレート:`select * from emp where ename = :ename`

ユーザー	値	スナップショットの問合せ
john	'KING'	<code>select * from emp where ename = 'KING'</code>

Mobile サーバー・コントロール・センターを使用したデータ・サブセッティング値の指定の詳細は、3-32 ページの「[データ・サブセッティング・パラメータの変更](#)」を参照してください。

クライアント・サイトの追跡

Mobile クライアントは、1 人または複数のユーザーが使用できるラップトップまたは PC などの物理マシンです。Web-to-Go の Mobile クライアントでは、各ユーザーがディレクトリを持ちます。このディレクトリには、そのユーザーがアクセス権を持つ各アプリケーション用のデータベース・ファイルが含まれます。このディレクトリはサイトと呼ばれます。1 つの Web-to-Go の Mobile クライアントに複数のサイトを含められますが、サイトは 1 人のユーザーに 1 つのみです。ユーザーは、異なるクライアント上に複数のサイトを所有できます。

Mobile サーバー管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用してこれらのサイトを追跡および管理できます。Mobile サーバーは、クライアントとの同期の際に自動的にサイト・プロパティを収集します。Mobile サーバー・コントロール・センターを使用すると、管理者は次のサイト・プロパティを参照できます。



プロパティ	説明
ユーザー名	サイト・ユーザー名です。
ホスト名	サイトのホスト名です。たとえば、次のとおりです。 <code>host_machine.domain</code>
最終モード	サイトの最終モードです。最終モードは、オンラインまたはオフラインです。
作成日	サイトが作成された日付です。
最終同期日	サイトが最後に同期された日付です。
クライアントのオペレーティング・システム、バージョン、アーキテクチャ	Web-to-Go の Mobile クライアントのオペレーティング・システム、バージョンおよびアーキテクチャです。たとえば、次のとおりです。 Windows NT 4.0 x86
クライアントの Java バージョン	Web-to-Go の Mobile クライアントの Java のバージョンです。
Web-to-Go のバージョン	Web-to-Go のバージョンです。

## サーバーのランタイム・レポート

Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、Mobile サーバーに関する次のステータス・サマリー・レポートを生成できます。

項目	定義
Web-to-Go のバージョン	Web-to-Go のバージョンです。
開始時刻	Web-to-Go が開始された時刻です。
構成	Mobile サーバーのタイプです。次のオプションが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ Oracle9i Application Server (Oracle9iAS)</li><li>■ Apache HTTP Server</li><li>■ Oracle HTTP Server</li><li>■ Mobile サーバー・スタンドアロン (<b>webtogo.exe</b>)</li></ul>
データベースの URL	Mobile サーバー・リポジトリ・データベースの URL です。たとえば、次のとおりです。 <code>jdbc:oracle:oci8:@webtogo.world</code>

項目	定義
Net8 サービス名	Mobile サーバー・リポジトリ・データベースの Net8 サービス名です。たとえば、次のとおりです。  webtogo.world
データベース所有者	Mobile サーバー・リポジトリ・データベースの所有者です。たとえば、次のとおりです。  Mobileadmin
アプレットの JDBC 接続	オンライン・モードで実行している Java アプレット・ベースのアプリケーションが、Thin JDBC ドライバを使用して直接 Oracle8i データベースとの JDBC 接続を作成するか、Mobile サーバーを通して接続を確立するかを示します。
利用可能なメモリー	サーバー上で使用できるメモリーです。
オペレーティング・システム	サーバーのオペレーティング・システムです。たとえば、次のとおりです。  Windows NT 4.0 x86
Java ランタイム環境	Java のバージョンです。たとえば、次のとおりです。  Java 1.2.2

外部認証の使用

Mobile ユーザーが Mobile サーバーにログインするとき、入力されたパスワードは Mobile サーバー・リポジトリ内のそのユーザーのパスワードと比較されます。パスワードが一致すると、そのユーザーは認証されていると見なされて Mobile サーバーへのアクセスが許可されます。

パスワードを格納したリポジトリを使用するかわりに、Mobile サーバーは外部認証機能を使用してユーザーのパスワードを検証できます。ユーザーがログインすると、Mobile サーバーはユーザー名とパスワードを外部認証機能に渡して検証を行います。検証が正常終了すると、ユーザーは Mobile サーバーにアクセスできます。

Mobile サーバーを構成すると、複数の外部認証機能を使用できます。Mobile サーバーは、指定された順序で外部認証機能をコールします。外部認証機能の 1 つがユーザー名とパスワードの組合せの検証を正常終了すると、そのユーザーは認証されていると見なされて Mobile サーバーへのアクセスが許可されます。その他の外部認証機能はコールされません。外部認証機能がユーザー名とパスワードの組合せの検証に失敗した場合、そのユーザーは Mobile サーバーへのアクセスを拒否されます。外部認証を使用するには、次の操作が必要です。

1. 外部認証機能を Java クラスとして構築します。このクラスは、Java インタフェース `oracle.lite.web.spi.ExternalAuthenticator` を実装する必要があります。
2. Mobile サーバー・コントロール・センターでは、Mobile ユーザーを作成しても、このユーザーに対するパスワードは作成しないでください。Mobile サーバーは、Mobile サーバー・リポジトリにパスワードが指定されていないユーザーにのみ外部認証を使用します。
3. 外部認証を使用するように Mobile サーバーを構成します。認証クラスの名前を、Mobile サーバーの構成ファイル **webtogo.ora** の [EXTERNAL\_AUTHENTICATION] セクションに指定する必要があります。たとえば、構成ファイルの [EXTERNAL\_AUTHENTICATION] セクションに次のようなエントリを追加すると、Mobile サーバーは起動時に指定された認証クラスをロードします。

```
CLASS=class1,class2,class3
```

---

---

**注意：** すべてのクラスがシステムのクラス・パスに指定されている必要があります。

---

---

## Mobile サーバー・コントロール・センターによるアプリケーションの管理

Mobile サーバー・コントロール・センターはブラウザ内で実行される Web ベースのアプリケーションで、これを使用すると Mobile アプリケーションの管理が容易になります。

### ログオン

Mobile アプリケーションを管理するには、システム管理者として Mobile サーバー・コントロール・センターにログオンします。図 3-1 に示すように、「ログオン」ページにユーザー名「administrator」とパスワード「admin」を入力し、「ログオン」をクリックします。

図 3-1 Mobile サーバー・コントロール・センターの web ページへのログオン

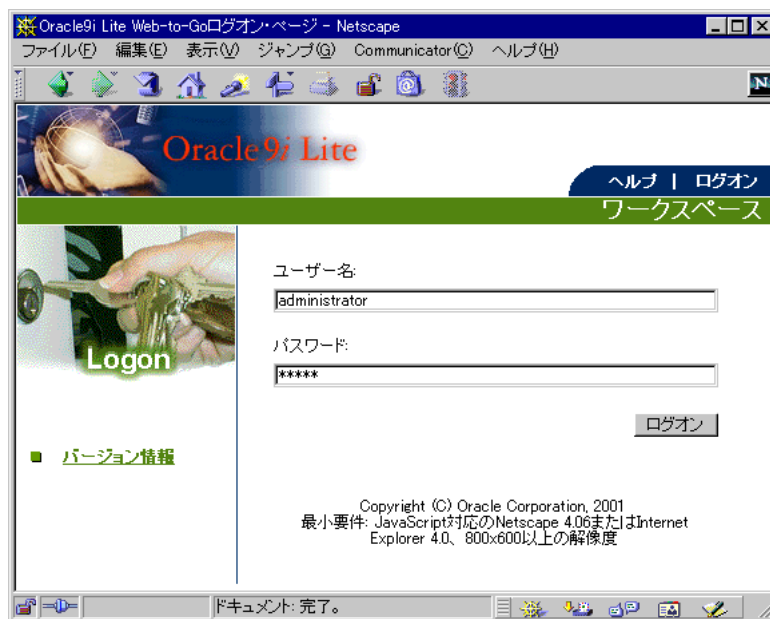


図 3-2 に示すように、「コントロール・センター」アイコンの付いたワークスペースの web ページが表示されます。「コントロール・センター」アイコンまたは「コントロール・センター」リンクをクリックします。

図 3-2 Mobile サーバー・コントロール・センターのリンク

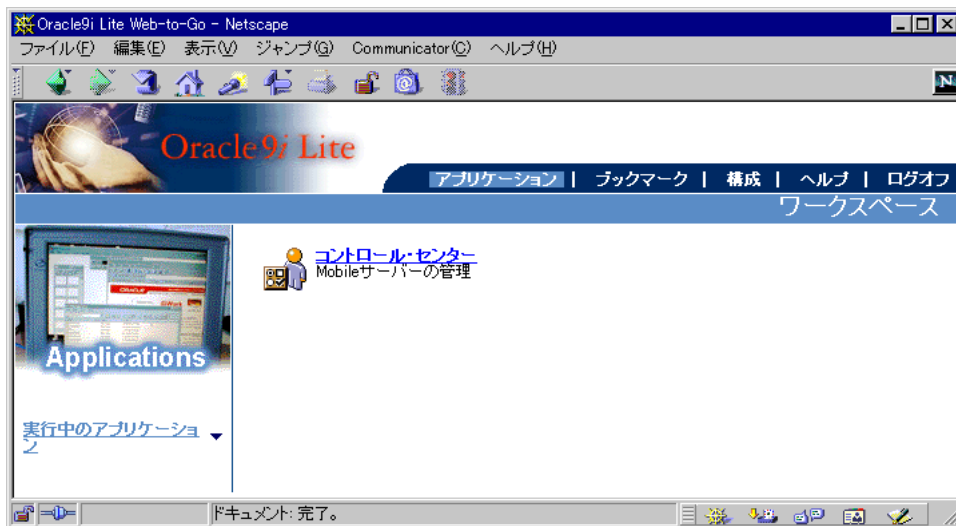
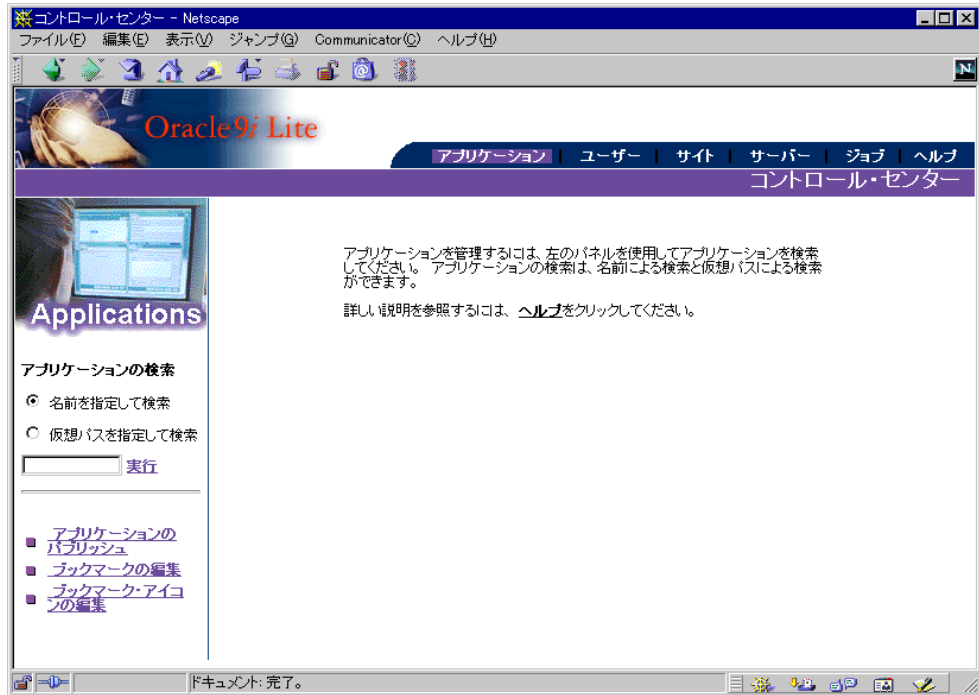


図 3-3 に示すように、Mobile サーバー・コントロール・センターが表示されます。

図 3-3 Mobile サーバー・コントロール・センター



## Mobile サーバー・コントロール・センターの概要

図 3-3 に示すとおり、Mobile サーバー・コントロール・センターは、上部フレーム（機能タブ）、左のフレーム（検索オプション）および右のフレーム（管理タスク）に分かれています。上部フレームには、次の機能タブが含まれています。

- アプリケーション
- ユーザー
- サイト
- サーバー
- ジョブ
- ヘルプ

## 機能タブ

機能タブは常に表示されているタブで、ここから管理タスクを実行したり、ヘルプ・ドキュメントにアクセスできます。上部フレームには、選択するタブに応じて、タブごとに色の異なるバーも含まれています。「ヘルプ」タブからはヘルプ・ドキュメントのブラウザ・ウィンドウが別に起動されます。

## 検索オプション

左のフレームには、選択するタブに応じて、次の検索オプションが含まれます。

- アプリケーション名
- アプリケーションの仮想パス
- ユーザー
- ユーザー・グループ
- サイトのホスト名
- サイトのユーザー名
- サイトのオフライン日数

検索フィールドに何も指定しないと、全ユーザー、全ユーザー・グループまたは全アプリケーションを検索できます。サイトは、ホスト名またはユーザー名ごとに検索できます。簡単にナビゲートできるように、左のフレームの上部にある図形で、現在選択されているタブが示されます。

## 管理タスクー右のフレーム

図 3-3 に示すように、左のパネルを使用して管理するアプリケーションを検索できます。アプリケーションは、名前または仮想パスによって検索できます。右のフレームには、実行した検索または変更の結果が表示されます。Web-to-Go 管理タスクを実行することもできます。

## Mobile サーバーの管理タスク

Mobile サーバー・コントロール・センターの機能タブで、Mobile サーバーの管理タスクを実行できます。必要な Mobile サーバー管理タスクを実行するには、該当する機能タブをクリックします。

## 「アプリケーション」タブ

「アプリケーション」タブは次の目的に使用します。

- ユーザーまたはグループに対するアプリケーション・アクセス権の付与または取消し
- ユーザーに対する Mobile サーバー・ロールの付与または取消し
- グループ・レベル・アクセスでのユーザーの包含と除外
- グループに対するアプリケーション・ロールの付与または取消し
- パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択
- データ・サブセッティング・パラメータの変更
- レジストリ・エントリの変更
- アプリケーション・プロパティの変更
- Mobile サーバーからのアプリケーションの削除
- アプリケーションの一時停止
- アプリケーションの再開
- Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード
- システム・ブックマークの作成

## 「ユーザー」タブ

「ユーザー」タブは次の目的に使用します。

- ユーザーの作成
- ユーザーの変更または削除
- グループの作成
- グループの変更または削除

## 「サイト」タブ

「サイト」タブは次の目的に使用します。

- サイト詳細のリスト
- サイト詳細の表示
- Mobile サーバーからのサイトの消去



## 「サーバー」タブ

「サーバー」タブは次の目的に使用します。

- [サーバーのシステム・ステータス・レポートの表示](#)
- [サーバーの一時停止](#)
- [サーバーの再開](#)
- [Message Generator and Processor \(MGP\) の起動](#)
- [Message Generator and Processor \(MGP\) の停止](#)

## 「ジョブ」タブ

「ジョブ」タブは次の目的に使用します。

- [データ同期ジョブのスケジュールの表示](#)
- [新しいデータ同期ジョブの作成](#)
- [データ同期ジョブの編集](#)
- [データ同期ジョブの削除](#)

## 「ヘルプ」タブ

「ヘルプ」タブは、状況依存ヘルプを表示します。

## ユーザーの作成

Mobile サーバーの新規ユーザーを作成できます。ユーザーを作成するには「ユーザー」タブをクリックしてから、Mobile サーバー・コントロール・センターの左のフレームにある「ユーザーの作成」をクリックします。[図 3-4](#) に示すように、次の各フィールドが右のフレームに表示されます。

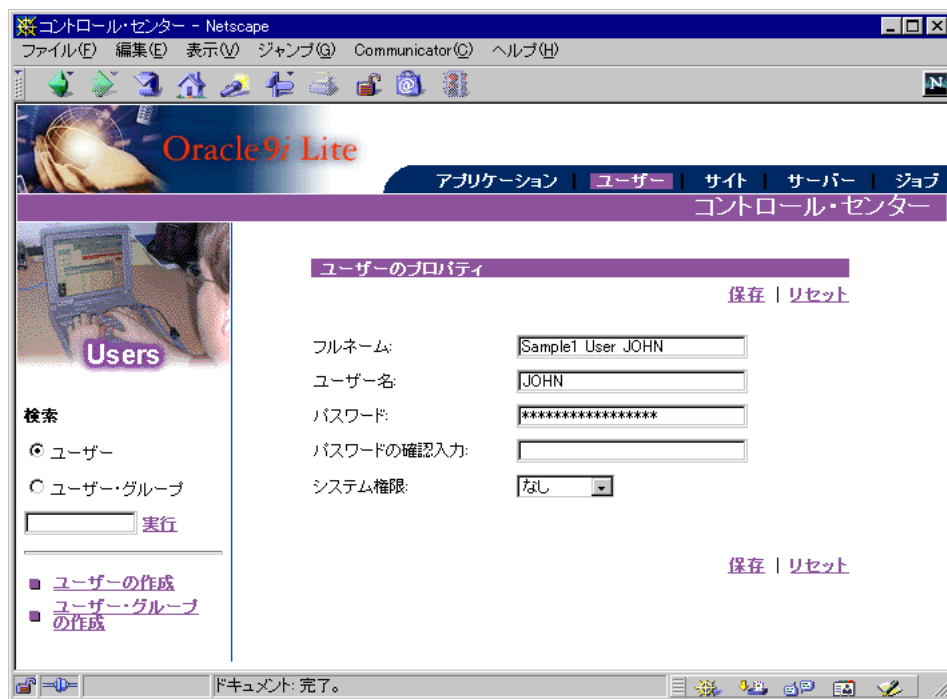
フィールド	説明	必須
フルネーム	Mobile サーバー・ユーザーの一意のフルネームです。	<input type="radio"/>
ユーザー名	ユーザーが Mobile サーバー・セッションを開始するために入力する Mobile サーバー・ログオン名です。	<input type="radio"/>
パスワード	ユーザーのパスワードです。パスワードには、Oracle データベース・キャラクタ・セットのシングルバイト文字しか指定できません（キャラクタ・セットにマルチバイト文字が含まれている場合も同様です）。	<input type="radio"/>
パスワードの確認入力	ユーザーのパスワードです。	<input type="radio"/>

フィールド	説明	必須
システム権限	<p>ユーザーが使用できる Mobile サーバー権限のドロップダウン・リスト・ボックスです。各ユーザーに割り当てるシステム権限を次の中から 1 つのみ選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>Connect</b> ユーザーは Mobile サーバーに接続できます。</li><li>■ <b>Administration</b> ユーザーは Mobile サーバー・リソースを変更できます。</li><li>■ <b>Publish</b> ユーザーはアプリケーションをパブリッシュできます。</li><li>■ <b>なし</b> ユーザーに権限が与えられません。</li></ul>	○

必須情報を入力し「保存」をクリックします。Mobile サーバー・コントロール・センターは、ユーザーのサイトなど保存済みの情報を表示します。ユーザーにまだサイトがない場合、Mobile サーバー・コントロール・センターは、Web-to-Go サイトが見つからなかったというメッセージを表示します。

**注意：** ユーザー名に含められるのはシングルバイト文字のみです。

図 3-4 ユーザーの作成



## ユーザーの変更または削除

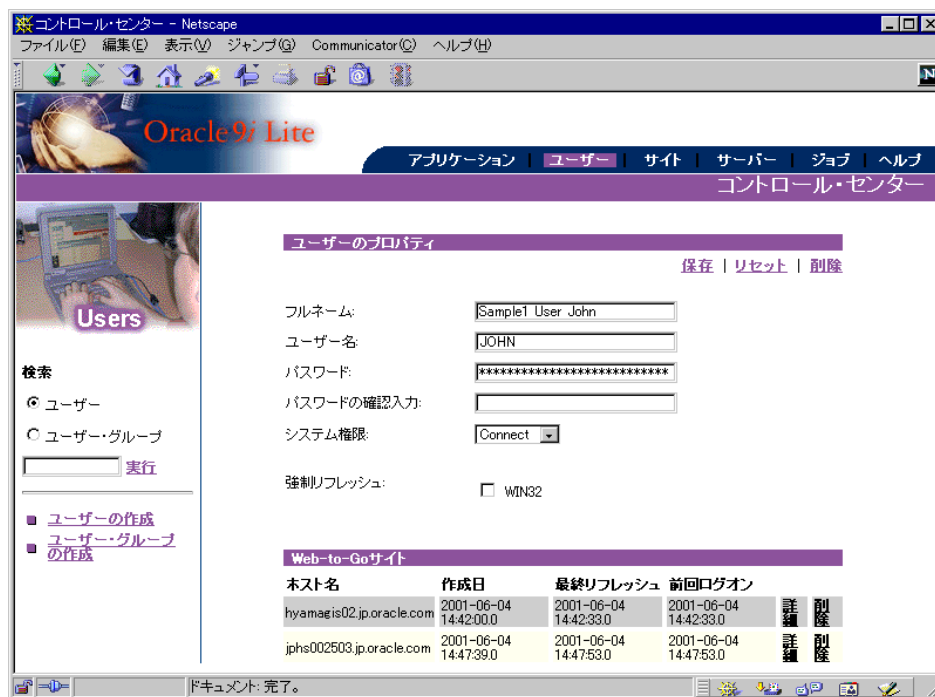
ユーザーを変更または削除するには、「ユーザー」タブをクリックします。左のフレームの「ユーザー」を選択します。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにユーザーのリストが表示されます。変更または削除するユーザーをクリックします。図 3-5 に示すように、そのユーザーの情報が次のフィールドに表示されます。

フィールド	説明	必須
フルネーム	Mobile サーバー・ユーザーの一意のフルネームです。	○
ユーザー名	ユーザーが Mobile サーバー・セッションを開始するために 入力する Mobile サーバーログオン名です。	○

フィールド	説明	必須
パスワード	ユーザーのパスワードです。パスワードには、Oracle データベース・キャラクタ・セットのシングルバイト文字しか指定できません（キャラクタ・セットにマルチバイト文字が含まれている場合も同様です）。	○
パスワードの確認入力	ユーザーのパスワードです。	○
システム権限	ユーザーが使用できる Web-to-Go 権限のドロップダウン・リスト・ボックスです。各ユーザーに割り当てるシステム権限を次の中から 1 つのみ選択できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>Connect</b> ユーザーは Mobile サーバーに接続できます。</li><li>■ <b>Administration</b> ユーザーは Mobile サーバーリソースを変更できます。</li><li>■ <b>Publish</b> ユーザーはアプリケーションをパブリッシュできます。</li><li>■ <b>なし</b> ユーザーに権限が与えられません。</li></ul>	○
強制リフレッシュ	ユーザーの特定のプラットフォームを、完全リフレッシュとしてマークします。プラットフォームを強制リフレッシュに指定すると、そのユーザーのすべてのデータが、次の同期時にターゲット・プラットフォームで完全にリフレッシュされます。Mobile サーバーの管理者は、すべてのプラットフォームに対して、またはプラットフォームごとに強制リフレッシュを指定できます。	

**注意：**「名前」または「フルネーム」ラベルをクリックすると、ユーザーのリストを名前またはフルネームごとにソートできます。

図 3-5 ユーザーの変更または削除



## ユーザーの変更

ユーザーを変更するには、前述のフィールドのいずれかを変更して「保存」をクリックします。ユーザーのパスワードを変更した場合は、「パスワードの確認入力」フィールドも同様に更新する必要があります。

## ユーザーの削除

Mobile サーバーからユーザーを削除するには、「削除」をクリックします。ユーザーを削除すると、Mobile サーバーはこのユーザーに対するアプリケーション、スナップショット・テンプレート変数およびレジストリ変数への参照をすべて削除します。

---

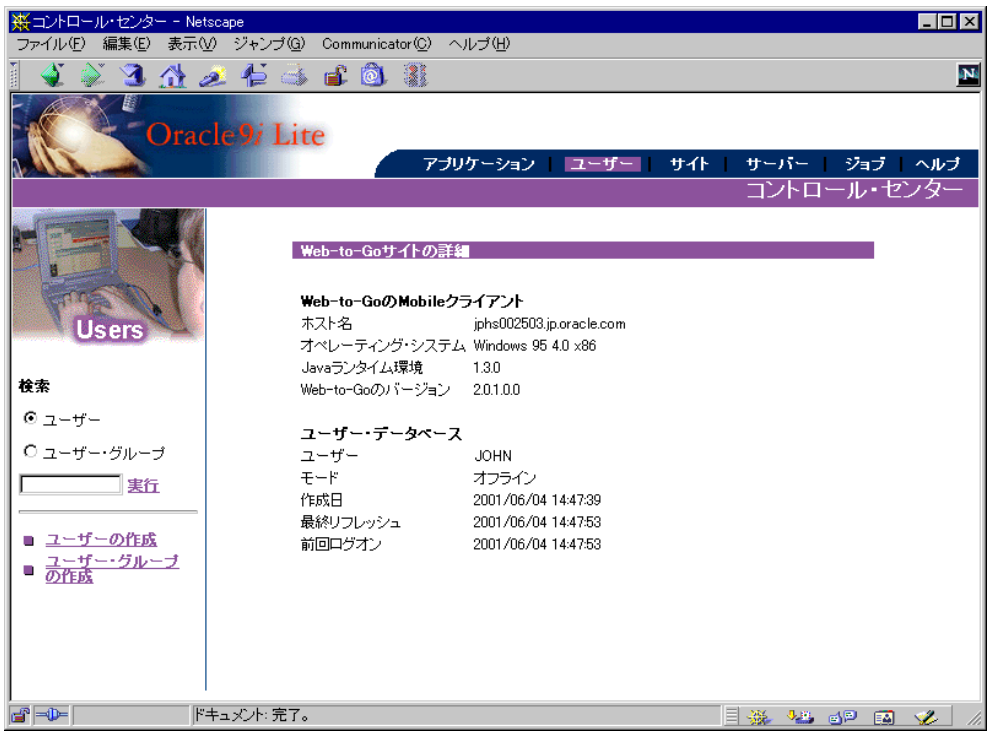
**注意：** ユーザーのシステム権限を「なし」に設定すると、このユーザーは Web-to-Go を使用できません。これによりこのユーザーはシステムに接続できなくなりますが、アクセス・コントロール・リストとユーザー・グループにはこのユーザーの情報がそのまま残ります。

---

ユーザー・サイトの表示

ユーザー・サイトは、「Web-to-Go サイト」の下にリストされます。選択したユーザー・サイトの特定の情報を参照するには、「詳細」をクリックします。選択したユーザー・サイトに関する情報が表示されます（図 3-6）。

図 3-6 ユーザー・サイトの表示



ワークスペースには、次の情報が表示されます。

項目	定義
ホスト名	サイトのホスト名です。たとえば、次のとおりです。  <code>host.domain</code>

項目	定義
オペレーティング・システム	Web-to-Go の Mobile クライアントのオペレーティング・システム、バージョンおよびアーキテクチャです。たとえば、次のとおりです。 Windows NT 4.0 x86
Java ランタイム環境	Java ランタイム環境（JRE）です。たとえば、次のとおりです。 1.2.2
Web-to-Go のバージョン	Web-to-Go のバージョンです。

右のフレームには、次のユーザー情報も表示されます。

項目	定義
ユーザー	サイト・ユーザー名です。
モード	サイトの最終モードです。最終モードは、オンラインまたはオフラインです。
作成日	サイトが作成された日付および時刻です。
最終リフレッシュ	サイトが最後に同期された日付および時刻です。
前回ログオン	ユーザーが前回ログオンした日付および時刻です。

## グループの作成

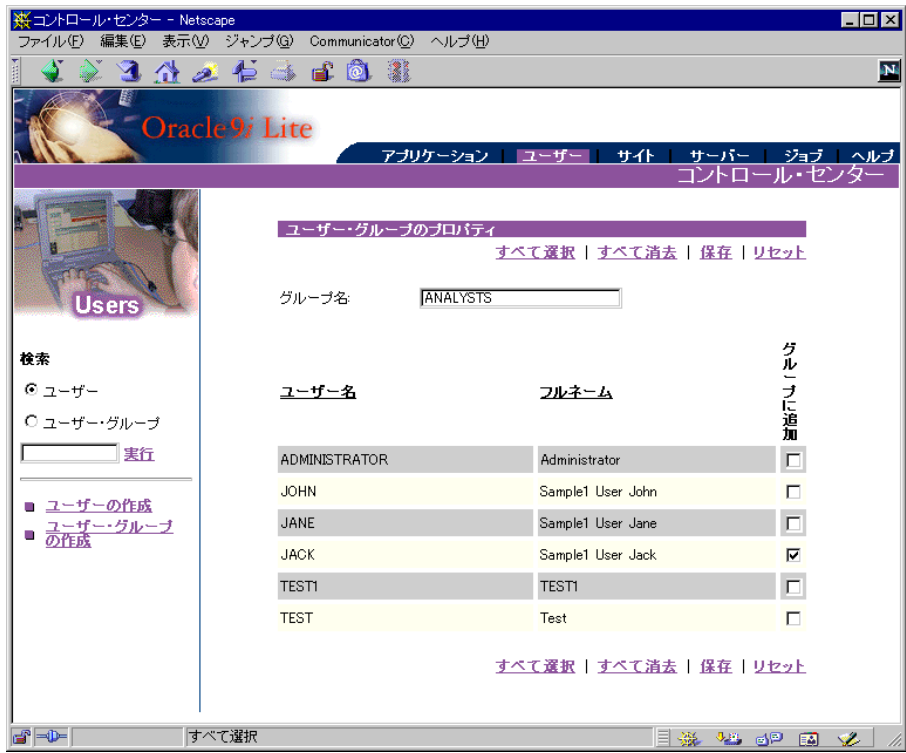
グループを作成すると、複数ユーザーからの Mobile サーバーアプリケーションへのアクセスを同時に制御できます。グループを作成するには「ユーザー」タブをクリックしてから、Mobile サーバー・コントロール・センターの左のフレームにある「ユーザー・グループの作成」をクリックします。次の要素が右のフレームに表示されます。

要素	説明	必須
グループ名	グループの名前です。	○
システム内の各ユーザーごとに次の項目が表示されます。		
ユーザー名	ユーザーの名前です。	

要素	説明	必須
フルネーム	姓と名を含むユーザーのフルネームです。	
グループに追加	このチェックボックスが選択されていると、ユーザーはグループに含まれています。	

図 3-7 に示すように、「グループ名」フィールドに新規グループの名前を入力します。グループに含めるユーザーの隣にあるチェックボックスを選択し、「保存」をクリックします。使用可能ユーザーをすべてグループに含めるには、「すべて選択」をクリックしてから「保存」をクリックします。

図 3-7 グループの作成





## グループの変更または削除

グループを変更または削除するには「ユーザー」タブをクリックしてから、左のフレームにある「ユーザー・グループ」をクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにグループのリストが表示されます。変更または削除するグループをクリックします。図 3-8 に示すように、そのグループの情報が次のフィールドに表示されます。

要素	説明	必須
グループ名	グループの名前です。	○
システム内の各ユーザーごとに次の項目が表示されます。		
ユーザー名	ユーザーの名前です。	
フルネーム	姓と名を含むユーザーのフルネームです。	
グループに追加	このチェックボックスが選択されていると、ユーザーはグループに含まれています。このチェックボックスが選択されていない場合、ユーザーはグループに含まれていません。	

### グループへのユーザーの追加

グループにユーザーを追加するには、追加するユーザーの隣にある「グループに追加」チェックボックスを選択し、「保存」をクリックします。

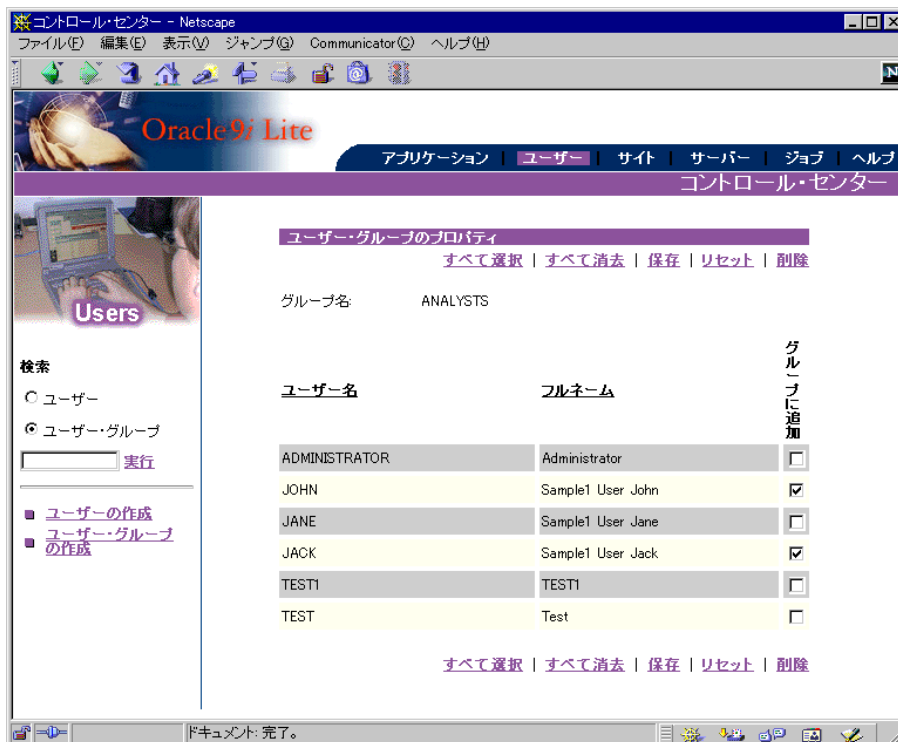
### グループからのユーザーの削除

グループからユーザーを削除するには、削除するユーザーの隣にある「グループに追加」チェックボックスの選択を解除します。「保存」をクリックします。

### グループの削除

Web-to-Go からグループを削除するには、「削除」をクリックします。グループを削除すると、Web-to-Go サーバーはこのグループからのアプリケーションへの参照をすべて削除します。

図 3-8 グループの変更または削除



## ユーザーまたはグループに対するアプリケーション・アクセス権の付与または取消し

Mobile サーバー・コントロール・センターでは、特定のアプリケーションに対してユーザーまたはグループのアクセス権を付与または取り消すことができます。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。変更するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ

- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「セキュリティ」をクリックします。[図 3-9](#) に示すように、ユーザーおよびグループのリストが表示されます。

## ユーザーに対するアプリケーション・アクセス権の付与

ユーザーにアプリケーション・アクセス権を付与するには、「ユーザー・ベース・アクセス」リスト内のユーザーの隣にある「アクセス」チェックボックスをクリックしてから「保存」をクリックします。リスト内の全ユーザーにアクセス権を付与するには、「すべて選択」をクリックしてから「保存」をクリックします。

## ユーザーのアプリケーション・アクセス権の取消し

ユーザーのアプリケーション・アクセス権を取り消すには、ユーザーの隣にある「アクセス」チェックボックスの選択を解除してから「保存」をクリックします。

## グループに対するアプリケーション・アクセス権の付与

グループにアプリケーション・アクセス権を付与するには、「グループ・ベース・アクセス」リスト内のグループの隣にある「アクセス」チェックボックスをクリックしてから「保存」をクリックします。リスト内の全グループにアクセス権を付与するには、「すべて選択」をクリックしてから「保存」をクリックします。

## グループのアプリケーション・アクセス権の取消し

グループのアプリケーション・アクセス権を取り消すには、「アクセス」チェックボックスの選択を解除してから「保存」をクリックします。

---

---

**注意：** グループ全体にアプリケーションへのアクセス権を付与すると、そのグループ内の各ユーザーにアプリケーションへのアクセス権が付与されます。ただし、特定のユーザーがアプリケーションにアクセスしないように、グループからユーザーを削除せずに除外できます。詳細は、「[グループ・レベル・アクセスでのユーザーの包含と除外](#)」を参照してください。

---

---

図 3-9 アプリケーション・アクセス権の付与または取消し



## グループ・レベル・アクセスでのユーザーの包含と除外

ユーザーを包含または除外することにより、アプリケーションへのグループ・レベルのアクセス権を変更できます。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。変更するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ

- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「セキュリティ」をクリックします。右のフレームにユーザーおよびグループのリストが表示されます。

## グループ・レベル・アクセスへのユーザーの包含

グループ内のユーザーにアクセス権を付与するには、次の操作が必要です。

1. PUBLIC GROUP と対応付けられた「編集」リンク（PUBLIC GROUP と同じ行にある「編集」リンク）をクリックします。
2. 次のページで、「グループ・ユーザーへのアプリケーション・アクセス権の付与」のユーザーの隣の「使用可能」チェックボックスをクリックします。

## グループ・レベル・アクセスからのユーザーの除外

グループ内のユーザーのアプリケーション・アクセス権を取り消すには、次の操作が必要です。

1. PUBLIC GROUP と対応付けられた「編集」リンク（PUBLIC GROUP と同じ行にある「編集」リンク）をクリックします。
2. 次のページで、「グループ・ユーザーへのアプリケーション・アクセス権の付与」のユーザーの隣の「使用可能」チェックボックスの選択を削除します。

## ユーザーに対する Mobile サーバー・ロールの付与または取消し

ロールの作成方法の詳細は、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』を参照してください。

ユーザーまたはグループに Mobile サーバー・ロールに対するアクセス権を付与または取り消すには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。変更するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「セキュリティ」をクリックします。ユーザーおよびグループのリストが表示されます。

## ユーザーへのロールの付与

ユーザーにロールを付与するには、画面の「ユーザー・ベース・アクセス」セクションにある、ユーザー名の隣の「編集」リンクをクリックします。そのユーザーが使用可能なロールのリストが表示されます。

---

---

**注意：** ユーザーの使用可能ロールのリストにアクセスできるのは、そのユーザーにアプリケーション・アクセス権が付与されている場合のみです。ユーザーにアプリケーション・アクセス権がない場合は、「編集」リンクをクリックすると Mobile サーバー・コントロール・センターがエラー・メッセージを返します。

---

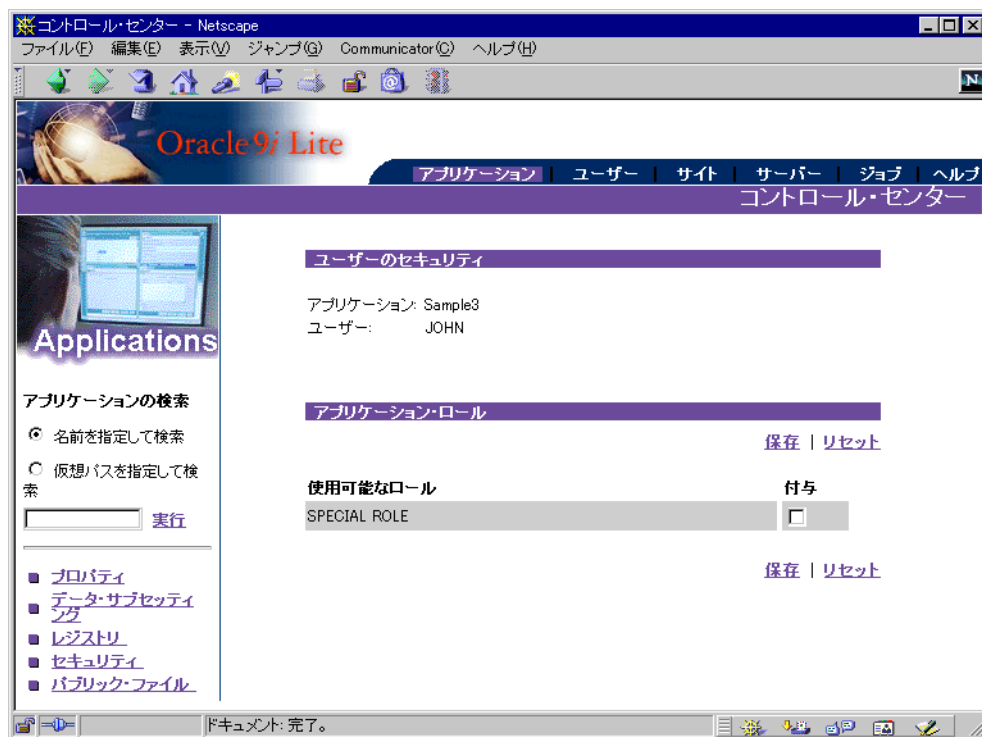
---

ユーザーに付与するロールの隣の「付与」チェックボックスを選択します。「保存」をクリックします。

## ユーザーのロールの取消し

[図 3-10](#) に示すように、ユーザーのロールを取り消すには、ロールの隣にあるチェックボックスの選択を解除します。「保存」をクリックします。

図 3-10 ユーザーのロールの取消し



## グループに対するアプリケーション・ロールの付与または取消し

アプリケーションのグループにロールを付与または取り消すことにより、アプリケーションのグループを変更できます。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。変更するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「セキュリティ」をクリックします。右のフレームにユーザーおよびグループのリストが表示されます。

## グループへのロールの付与

グループにロールを付与するには、グループ名の隣の「編集」リンクをクリックします。そのグループが使用可能なロールのリストが表示されます。

---

---

**注意：** グループの使用可能ロールのリストにアクセスできるのは、そのグループにアプリケーション・アクセス権が付与されている場合のみです。グループにアプリケーション・アクセス権がない場合は、「編集」リンクをクリックすると Mobile サーバー・コントロール・センターがエラー・メッセージを返します。

---

---

グループに付与するロールの隣の「付与」チェックボックスを選択します。「保存」をクリックします。

## グループのロールの取消し

グループのロールを取り消すには、ロールの隣にあるチェックボックスの選択を削除します。「保存」をクリックします。

## パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択

Mobile サーバー・コントロール・センターを使用すると、Mobile サーバー管理者は特定のアプリケーション・ファイルをパブリック・ファイルとして指定できます。これは、Web-to-Go の Mobile クライアント・ユーザーと Branch Office ユーザーの両方が、これらのファイルをダウンロードできるという意味です。ファイルは、アプリケーション・レベルでパブリックになります。アプリケーションと同期する Branch Office または Web-to-Go の Mobile クライアントのそれぞれが、ダウンロード可能な同じパブリック・ファイルを持つことになります。ユーザーは、次の URL を使用して Branch Office または Web-to-Go の Mobile クライアントからパブリック・ファイルをダウンロードします。

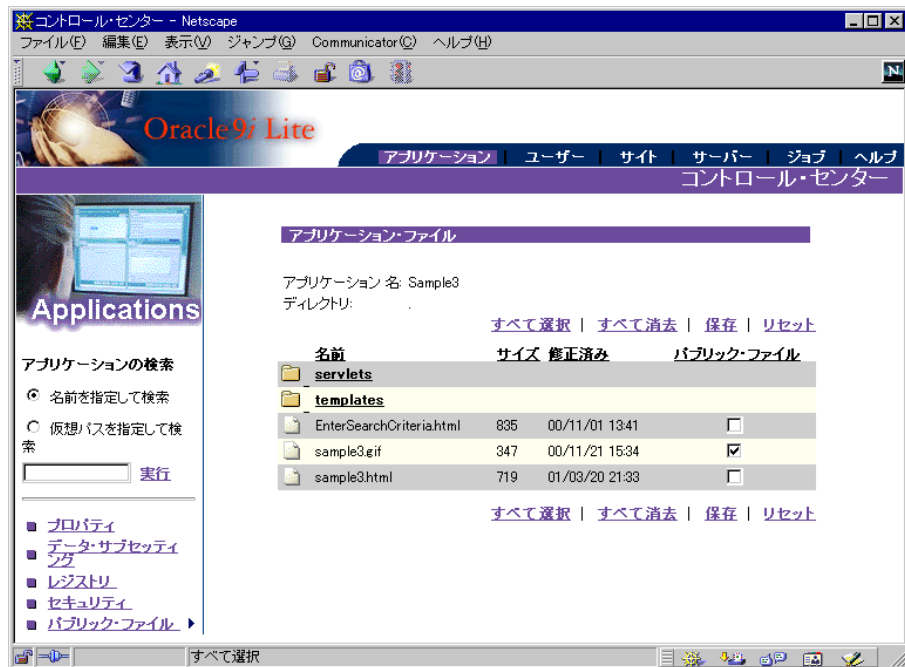
`http://<client>/public/download`

Web-to-Go の Mobile クライアントからパブリック・ファイルをダウンロードする方法の詳細は、「[パブリック・ファイルのダウンロード](#)」を参照してください。



**注意：** Mobile サーバー管理者はパッケージ・ウィザードを使用して、Mobile サーバー・リポジトリにアプリケーションをパブリッシュします。パッケージ・ウィザードを使用すると、開発者は新しいアプリケーションを定義したり、既存のアプリケーションを編集できます。パッケージ・ウィザードの詳細は、『Oracle9i Lite Web-to-Go 開発者ガイド』を参照してください。

図 3-11 パブリックで使用するアプリケーション・ファイルの選択



次に、Mobile サーバー管理者は必要なアプリケーション・ファイルを選択します。ファイルをクリックするとアプリケーションのリストが表示されます（図 3-11）。Mobile サーバー管理者は、次の各項目を使用してこのリストをソートできます。

ラベル	説明
名前	アプリケーション・ファイルの名前です。このラベルをクリックすると、すべてのアプリケーション・ファイルおよびフォルダをアルファベット順にソートします。
サイズ	アプリケーション・ファイルまたはフォルダのサイズです。このラベルをクリックすると、すべてのアプリケーション・ファイルおよびフォルダをサイズ順にソートします。
修正済み	アプリケーション・ファイルが最後に修正された日付および時刻です。このラベルをクリックすると、すべてのアプリケーション・ファイルおよびフォルダを最後に修正された日付および時刻順にソートします。
パブリック・ファイル	このチェックボックスを選択すると、 <b>Branch Office</b> ユーザーに、アプリケーション・ファイルに対するアクセス権が付与されます。「パブリック・ファイル」ラベルをクリックすると、選択されたすべてのアプリケーション・ファイルがパブリックとしてグループ化されます。

このアプリケーションを検出した後、**Mobile** サーバー管理者は隣の「パブリック・ファイル」チェックボックスを選択して「保存」をクリックすることで、任意のファイルをパブリックとして指定できます。これで、このファイルは **Mobile** サーバー・リポジトリ内でパブリック・ファイルに指定されます。

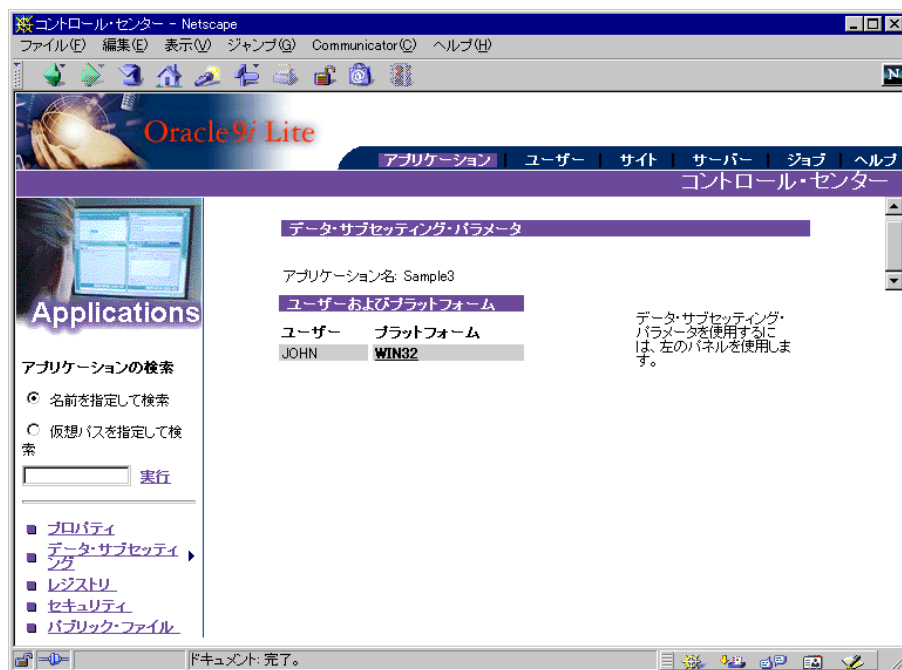
## データ・サブセッティング・パラメータの変更

**Mobile** サーバー・コントロール・センターを使用すると、管理者は **Mobile** アプリケーションの中でデータ・サブセッティング・パラメータを参照および編集できます。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。参照または変更するデータ・サブセッティング・パラメータを含むアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

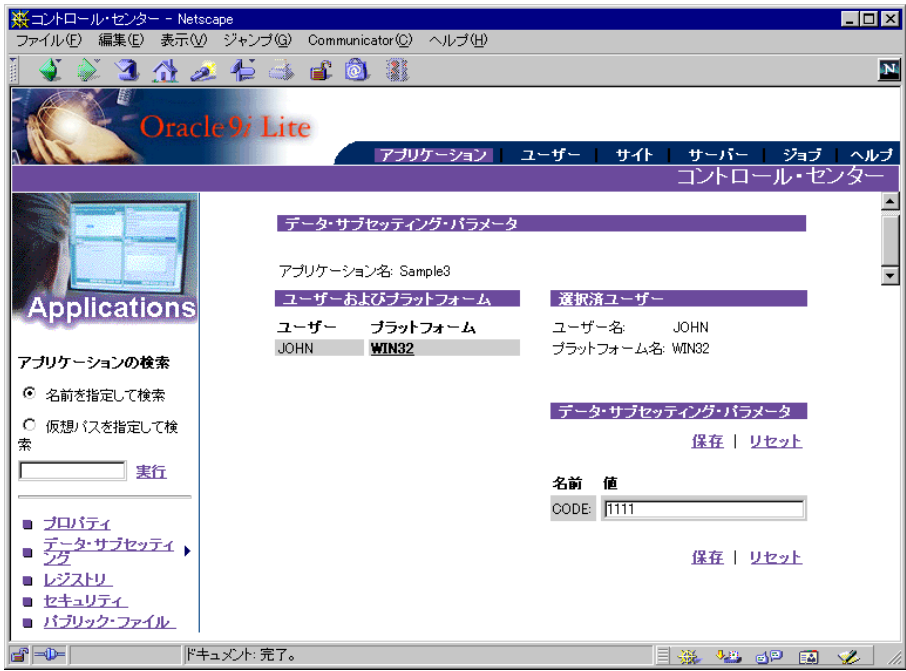
「データ・サブセッティング」をクリックします。右のフレームにユーザーとそれぞれに対応付けられているプラットフォームのリストが表示されます（図 3-12）。

図 3-12 データ・サブセッティング・パラメータの変更



あるユーザー（たとえば、JOHN）のデータ・サブセッティング・パラメータを参照するには、ユーザーの隣の「プラットフォーム」をクリックします。Mobile サーバー・コントロール・センターによって、アプリケーション名、ユーザー名、プラットフォーム名および値に関する情報が表示されます（図 3-13）。

図 3-13 データ・サブセッティング・パラメータの参照



次の表で、表示される要素を説明します。

要素	説明	必須
アプリケーション名	アプリケーション名です。これは変更できません。	
ユーザー名	選択されたユーザーのユーザー名です。これは変更できません。	
プラットフォーム名	パッケージ・ウィザードで指定されたスナップショットのプラットフォームです。これは変更できません。	
名前	Mobile アプリケーションのパラメータの名前です。これは変更できません。	○
値	Mobile アプリケーションのパラメータの値です。	○

パラメータの値を入力して「保存」をクリックします。「リセット」をクリックすると、「値」フィールドの値が元の状態に戻ります。

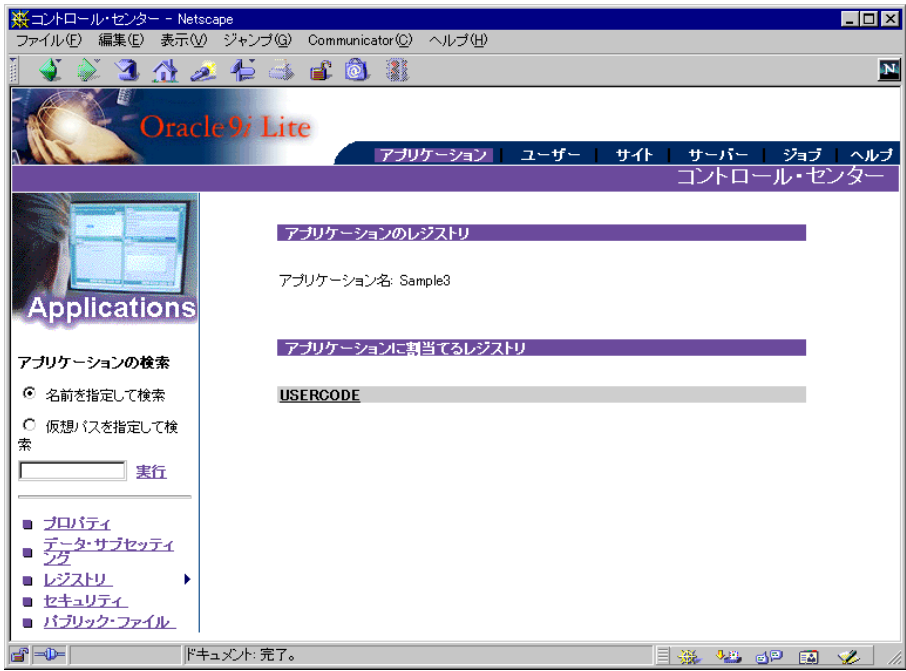
## レジストリ・エントリの変更

Mobile アプリケーション・ユーザーのレジストリ・エントリを変更できます。レジストリには、変更可能なユーザー用レジストリ・エントリが含まれています。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。変更するユーザーの名前と値のペアを含むアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

左のフレームの「レジストリ」をクリックします。[図 3-14](#) に示すように、その Mobile アプリケーションに関連付けられているレジストリ・エントリのリストが表示されます。変更するレジストリ・エントリをクリックします。

図 3-14 レジストリ・エントリの変更

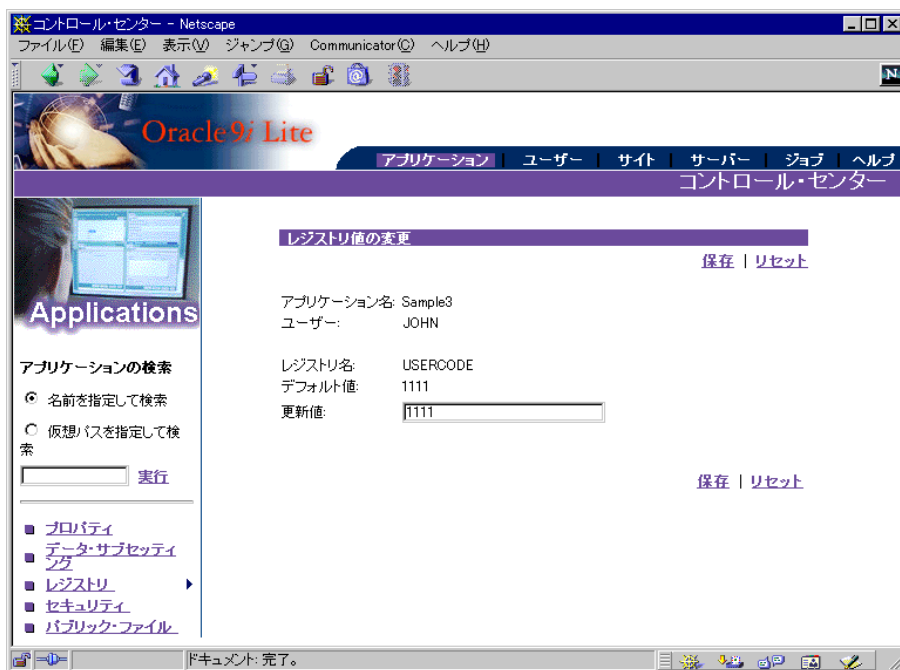


次の情報が右のフレームに表示されます。

フィールド	説明	必須
アプリケーション名	アプリケーション名です。これは変更できません。	○
ユーザー	アプリケーション・ユーザーです。これは変更できません。	○
レジストリ名	レジストリの名前です。これは変更できません。	○
デフォルト値	レジストリのデフォルト値です。これは変更できません。	○
更新値	デフォルト値を変更するためのフィールドです。	

図 3-15 に示すように、ユーザーの名前と値のペアを変更するには、「更新値」フィールドに新しい値を入力し「保存」をクリックします。

図 3-15 ユーザーの名前と値のペアの変更



## アプリケーション・プロパティの変更

Mobile アプリケーションのプロパティ（アプリケーションの名前、説明、データベースへの接続など）は変更できます。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。変更するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ

- セキュリティ
- パブリック・ファイル

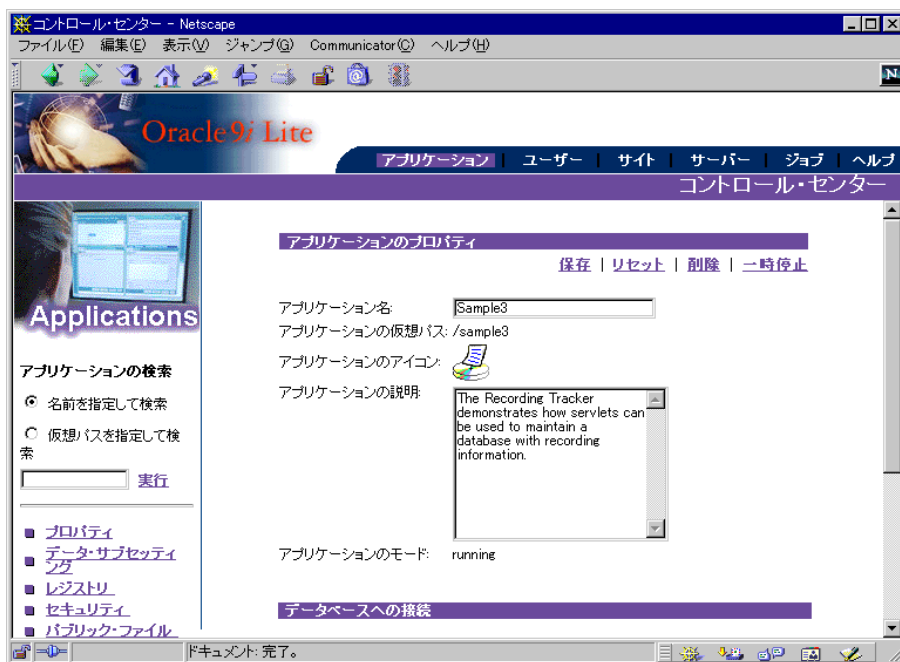
「プロパティ」をクリックします。次の情報が右のフレームに表示されます。

フィールド	説明	必須
アプリケーション名	アプリケーションの名前です。	<input type="radio"/>
アプリケーションの仮想パス	アプリケーションの仮想パスです。これは変更できません。	<input type="radio"/>
アプリケーション・アイコン	ワークスペースに表示されるアプリケーションのアイコンです。これは変更できません。	<input type="radio"/>
アプリケーションの説明	アプリケーションの説明です。	<input type="radio"/>
アプリケーションのモード	このアプリケーションが実行中か一時停止中かを示します。	
最大データベース接続数	アプリケーションがサポートする Oracle データベースへの接続数です。	<input type="radio"/>
共有接続	これを選択すると、アプリケーションの接続ユーザー間でデータベース接続を共有できます。選択しない場合、ユーザーはアプリケーションに現在割り当てられている接続ごとに 5 秒間待機する必要があります。	
データベース・ユーザー名	アプリケーションが Oracle データベースへの接続に使用するユーザー名です。	<input type="radio"/>
データベース・パスワード	アプリケーションが Oracle データベースへの接続に使用するパスワードです。	<input type="radio"/>



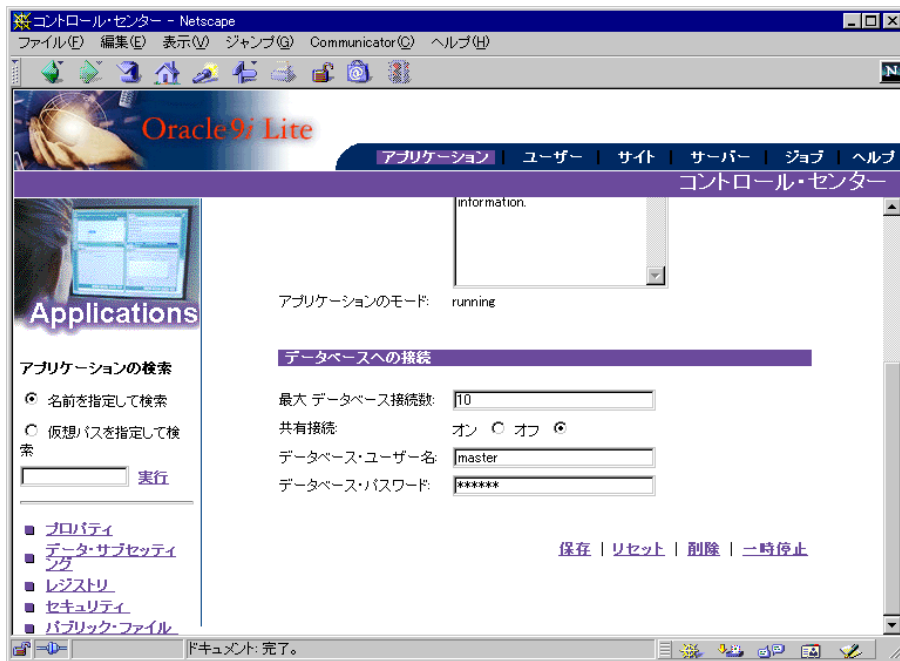
図 3-16 および図 3-17 に示すように、アプリケーションの名前、説明、データベース接続情報を変更するには、必要なフィールドに情報を入力して「保存」をクリックします。

図 3-16 アプリケーション・プロパティの変更



アプリケーションの接続を他の Mobile アプリケーションと共有するには、「共有接続」の「オン」ボタンをクリックし「保存」をクリックします。

図 3-17 データベース接続情報の変更



## Mobile サーバーからのアプリケーションの削除

Mobile サーバーからアプリケーションのリソースとプロパティを削除するには、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。削除するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「プロパティ」をクリックします。図 3-18 に示すように、右のフレームの下部までスクロールし、「削除」をクリックします。これで Mobile サーバーからアプリケーションが削除されます。

図 3-18 アプリケーションの削除



Mobile サーバーからアプリケーションを削除しても、アプリケーションのファイルとサブレットは Mobile サーバー・システムからは削除されません。Mobile サーバー・アプリケーションへのアクセス権のある最後のユーザーが Mobile サーバーからログオフするまで、アプリケーションのサブレットはロードされたまま残ります。最後のユーザーが Mobile サーバーからログオフした後、システム管理者は Mobile サーバー・シェル・ユーティリティを使用してアプリケーション・ファイルをすべて削除できます。

## アプリケーションの一時停止

保守目的で Mobile アプリケーションを一時停止するには、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。アプリケーションを一時停止すると、すべてのユーザーがオンライン・モードでアプリケーションにアクセスできません。すべてのユーザーはオフライン・モードでアプリケーションにアクセスできます。Mobile アプリケーションを一時停止するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。一時停止するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左側のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「プロパティ」をクリックします。図 3-19 に示すように、「一時停止」をクリックします。警告ダイアログ・ボックスが表示され、続いて確認ダイアログ・ボックスが表示されます。アプリケーション・モードが「一時停止」に変更されます。「一時停止」が「再開」に置き換わります。

図 3-19 アプリケーションの一時停止



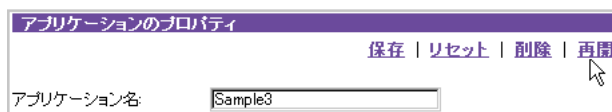
## アプリケーションの再開

一時停止されているアプリケーションを再開するには、**Mobile** サーバー・コントロール・センターを使用します。この作業を実行するには、「アプリケーション」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」または「仮想パスを指定して検索」をクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにアプリケーションのリストが表示されます。再開するアプリケーションをクリックします。次のオプションが左のフレームに表示されます。

- プロパティ
- データ・サブセッティング
- レジストリ
- セキュリティ
- パブリック・ファイル

「プロパティ」をクリックします。「再開」をクリックします。これでアプリケーションが標準操作に戻り、必要な場合はオフラインにすることもできます。アプリケーション・モードが「実行中」に変更されます。「再開」が「一時停止」に置き換わります。

図 3-20 アプリケーションの再開

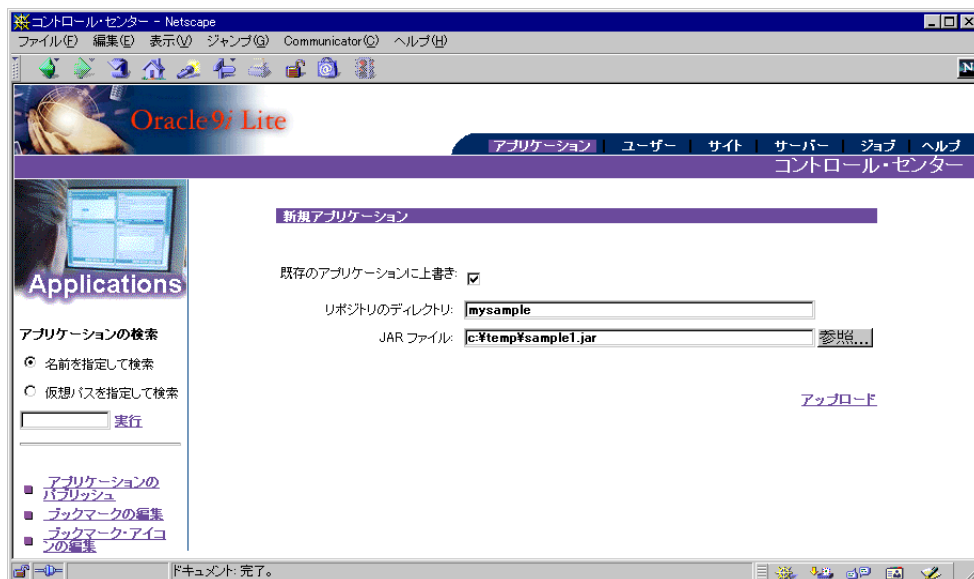


## Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード

アプリケーションを作成し、パッケージ・ウィザードを使用してローカル・ディレクトリにパブリッシュした後は、次の手順に従って Oracle8i データベース・サーバー上の Mobile サーバー・リポジトリにアプリケーションをアップロードできます。

1. 「アプリケーション」パネルの左のフレームにある「アプリケーションのパブリッシュ」をクリックします。右のフレームに「リポジトリのディレクトリ」および「JAR ファイル」フィールドが表示されます。
2. 図 3-21 に示すように、「リポジトリのディレクトリ」フィールドには Mobile サーバー・リポジトリ内の .jar ファイルを配置するディレクトリ名（たとえば、*mysample*）を入力します。このフィールドを入力しない場合、Mobile サーバーは「JAR ファイル」フィールドに入力された .jar ファイルの仮想パスの値からディレクトリを作成します（たとえば、*sample1*）。
3. 「JAR ファイル」フィールドに、アップロードする .jar ファイルの名前を入力するか（たとえば、*sample1*）、「参照」ボタンを使用してローカル・ディスクからファイルを見つけます。
4. 「アップロード」をクリックして、アプリケーションを Mobile サーバー・リポジトリにパブリッシュします。

図 3-21 Mobile サーバー・リポジトリへのアプリケーションのアップロード



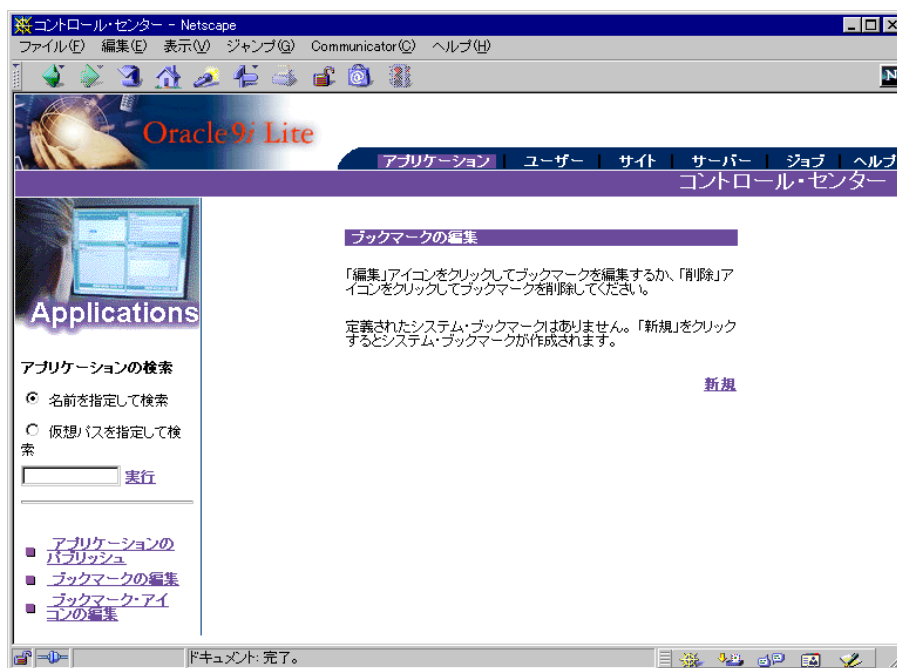
## システム・ブックマークの作成

管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、ユーザーが Web-to-Go の Mobile クライアント・ワークスペースから Web サイトにすばやくアクセスするためのブックマークを作成できます。

### 新規システム・ブックマークの作成

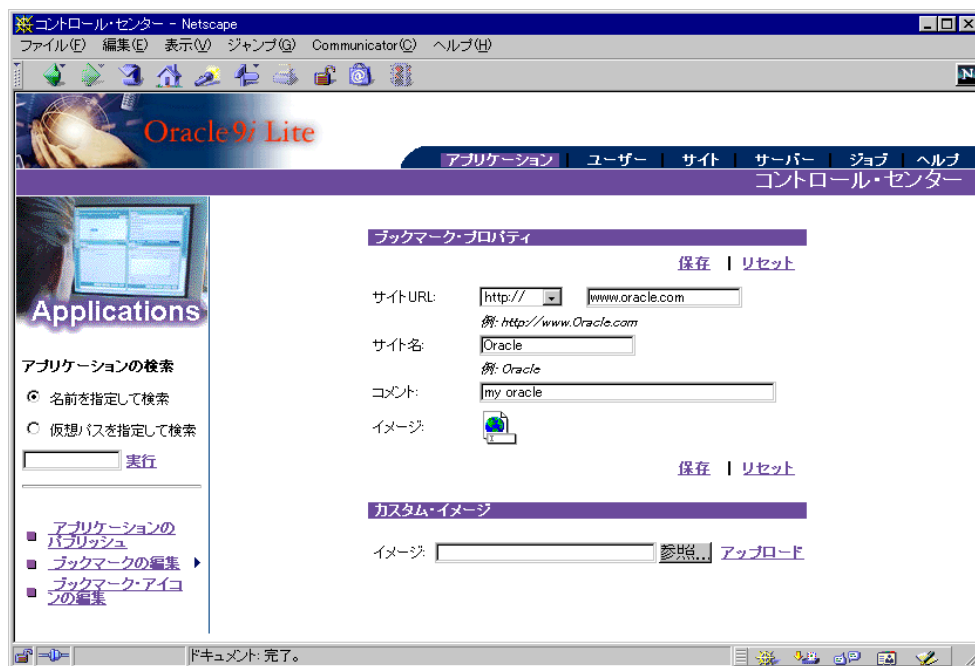
ブックマークを作成するには、「アプリケーション」タブの左のフレームの「ブックマークの編集」オプションをクリックします。図 3-22 に示すように、右のフレームに「ブックマークの編集」パネルが表示されます。「新規」をクリックします。

図 3-22 システム・ブックマークの作成



右のフレームに「ブックマーク・プロパティ」パネルと「カスタム・イメージ」パネルが表示されます (図 3-23)。

図 3-23 「ブックマーク・プロパティ」パネル



管理者は「ブックマーク・プロパティ」パネルの「サイト URL」、「サイト名」および「コメント」フィールドに情報を入力して、ブックマークを作成します。「ブックマーク・プロパティ」パネルには次の要素が含まれています。

要素	説明	必須
サイト URL	「イメージ」（次で説明）の隣に表示されるサイト識別アイコンに対応するインターネット・プロトコルのドロップダウン・リスト・ボックスです。該当するプロトコル・イメージを選択した後、隣接フィールドにサイトの名前（たとえば、 <i>www.Oracle.com</i> ）を入力します。この名前は、手動で入力するか貼り付けます。	○
サイト名	Web サイトの名前（たとえば、 <i>Oracle</i> ）を入力するフィールドです。この名前は、正確なサイト名である必要はありません。管理者とユーザーにとって意味のある名前を使用できます。	○

要素	説明	必須
コメント	サイトの簡単な説明（たとえば、 <i>my oracle</i> ）を入力するフィールドです。この説明は、Web-to-Go ワークスペースにサイト名が表示されるときに、サイト名の下にキャプションとして表示されます。	
イメージ	「サイト URL」 ドロップダウン・リスト・ボックスから選択されたサイト URL プロトコルに対応するイメージを表示します。このイメージは、管理者が「カスタム・イメージ」パネルの「イメージ」フィールドで選択する別のイメージに変更できます。	

「サイト URL」、「サイト名」および「コメント」フィールドに適切な情報を入力した後で「保存」をクリックすると、Web-to-Go ワークスペースの「ブックマーク」タブにこのブックマークがパブリッシュされます。「リセット」をクリックすると、すべてのフィールドが消去され、「サイト URL」 ドロップダウン・リスト・ボックスがデフォルト設定の `http://` に戻されます。

システム・ブックマークのカスタム・アイコンの作成

管理者は、Web-to-Go のブックマーク機能を使用して、プロトコル・アイコンの .gif イメージを置き換えることができます。アイコンを変更するには、「ブックマーク・プロパティ」パネルの「サイト URL」 ドロップダウン・リスト・ボックスで該当するプロトコルを見つけて、使用する新規 .gif イメージの名前を「カスタム・イメージ」パネルの「イメージ」フィールドに入力します。このフィールドに .gif ファイルの名前を入力するには、「参照」ボタンも使用できます。Web-to-Go リポジトリにイメージをアップロードするには、「アップロード」をクリックします。「保存」をクリックすると、既存のイメージが新規イメージに置き換わります。「リセット」をクリックすると、ブックマーク・アイコンが既存のイメージに戻ります。

システム・ブックマークの編集

管理者は、ブックマークの右にある「鉛筆」アイコンをクリックして、ブックマークのサイト名、説明のコメントまたはイメージを変更できます（次図）。

図 3-24 鉛筆アイコン



新規ブックマークの作成に使用した「ブックマーク・プロパティ」パネルと「カスタム・イメージ」パネルが右のフレームに表示され、「サイト URL」、「サイト名」および「コメント」フィールドには以前に入力した情報が表示されています。「サイト名」と「コメント」



フィールドの情報を変更し、「保存」をクリックします。「リセット」をクリックすると、これらのフィールドが元の状態に戻ります。ブックマークのアイコンを変更するには、新規 gif ファイルの名前を「イメージ」フィールドに入力するか、「参照」ボタンを使用して .gif ファイルを検索します。Web-to-Go ワークスペースにイメージをアップロードするには、「アップロード」をクリックします。「保存」をクリックすると、ブックマークの既存のイメージが新規イメージに置き換わります。「リセット」をクリックすると、ブックマーク・アイコンが前のイメージに戻ります。

## システム・ブックマークの削除

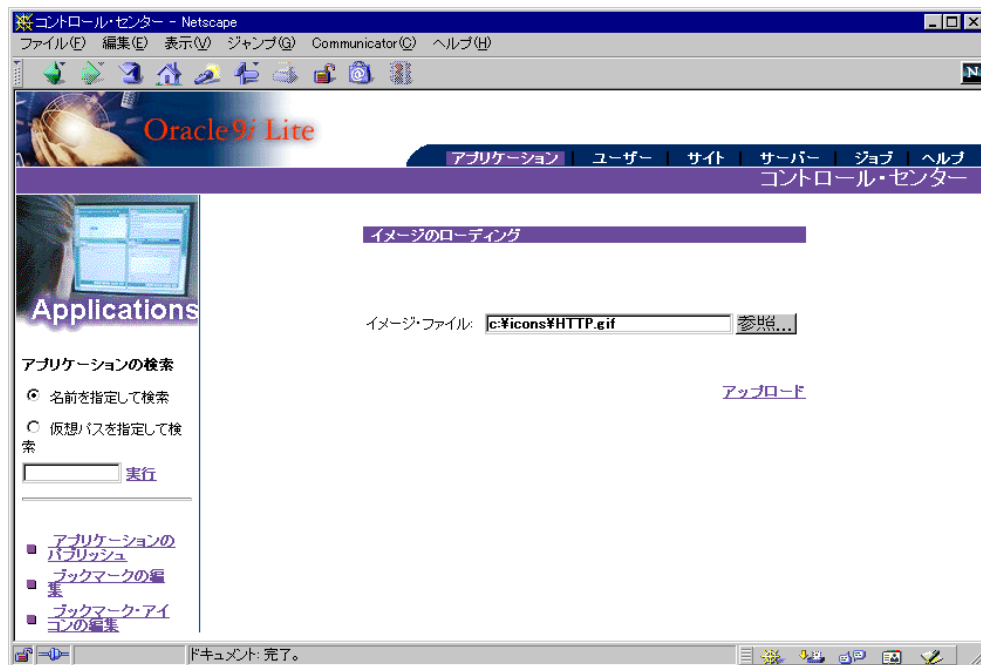
管理者は、ブックマークの隣の「ごみ箱」アイコンをクリックして、ブックマークを削除できます。このアイコンをクリックすると、削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

## システムのブックマークのプロトコル・アイコンの編集

管理者は、選択した .gif イメージからインターネット・プロトコル・アイコンを作成できます。これらの .gif ファイルは、左のフレームにある「ブックマーク・アイコンの編集」をクリックして変更できます。次に、右のフレームに現在使用可能な一連のインターネット・プロトコル・アイコンが表示されます。

アイコンを変更するには、該当するイメージまでスクロールして「変更」をクリックします。「イメージのローディング」パネルが表示されます (図 3-25)。

図 3-25 「イメージのローディング」パネル



新規アイコン用として使用する .gif イメージの名前を入力するか、「参照」ボタンを使用して名前を見つけます。「アップロード」をクリックすると、現在のアイコンが新規アイコンに置き換わります。

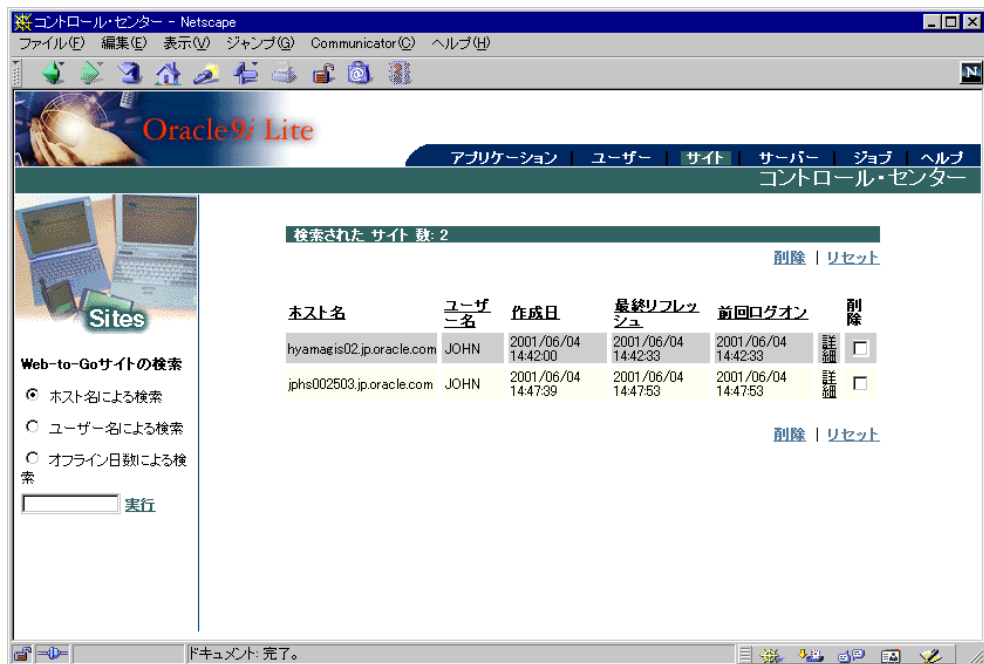
## サイト詳細のリスト

Web-to-Go サイトのリストを取得するには、「サイト」タブをクリックしてから、左のフレームにある「名前を指定して検索」、「ホスト名による検索」または「オフライン日数による検索」オプション・ボタンをクリックします。「オフライン日数による検索」オプションは、ユーザーが最後にデータを同期した日、またはオンライン・モードに切り替えた日からの日数で、ユーザーを検索します。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。右のフレームにサイトのリストが表示されます。

## Mobile サーバーからのサイトの消去

サイトを消去すると、サイトとサイトの全内容が Mobile サーバーから削除されます。Mobile サーバーからサイトを消去するには、「サイト」タブをクリックしてから、「ユーザー名による検索」、「ホスト名による検索」または「オフライン日数による検索」オプション・ボタンをクリックします。「検索」フィールドに検索条件を入力して「実行」をクリックします。サイトのリストが表示されます。図 3-26 に示すように、サイトを削除するには、「削除」列にあるチェックボックスを選択して「削除」をクリックします。「リセット」をクリックすると、リストは元の状態に戻ります。

図 3-26 サイトの削除



## サイト詳細の表示

サイトの詳細を表示するには、詳細を表示するサイトの「詳細」をクリックします。右のフレームには、次のサイトのクライアント詳細が表示されます。

項目	定義
ホスト名	サイトのホスト名です。たとえば、次のとおりです。  <code>host.domain</code>
オペレーティング・システム	Web-to-Go の Mobile クライアントのオペレーティング・システム、バージョンおよびアーキテクチャです。たとえば、次のとおりです。  Windows NT 4.0 x86
Java ランタイム環境	Java ランタイム環境 (JRE) のバージョンです。たとえば、次のとおりです。  1.2.2
Web-to-Go のバージョン	Web-to-Go のバージョンです。

右のフレームには、次のユーザー情報も表示されます。

項目	定義
ユーザー	サイト・ユーザー名です。
モード	サイトの最終モードです。最終モードは、オンラインまたはオフラインです。
作成日	サイトが作成された日付および時刻です。
最終リフレッシュ	サイトが最後に同期された日付および時刻です。
前回ログオン	ユーザーが前回ログオンした日付および時刻です。

## サーバーのシステム・ステータス・レポートの表示

サーバーのシステム・ステータス・レポートを表示するには、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。この作業を実行するには、「サーバー」タブをクリックしてから、左のフレームにある「ステータスの要約」をクリックします。Mobile サーバー・コントロール・センターが次のようなレポートを表示します。

- システム
- サーバー構成
- リポジトリ

### システム

システム・レポートは、次の情報を生成します。

項目	定義
Web-to-Go のバージョン	Web-to-Go のバージョンです。
開始時刻	Web-to-Go が開始された時刻です。
利用可能なメモリー	サーバー上で使用できるメモリーです。
オペレーティング・システム	サーバーのオペレーティング・システムです。 たとえば、次のとおりです。 Windows NT 4.0 X86
Java ランタイム環境	Java ランタイム環境 (JRE) のバージョンです。 たとえば、次のとおりです。 1.2.2

### サーバー構成

サーバー構成レポートは、次の情報を生成します。

項目	定義
構成	Web-to-Go サーバーのタイプです。次のオプションが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ Oracle9i Application Server (Oracle9iAS)</li><li>■ Apache HTTP Server</li><li>■ スタンドアロン</li></ul>

項目	定義
実行モード	サーバーの現在の実行モードです。次のオプションが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 一時停止 Mobile サーバーは一時停止され、管理者権限を持つユーザーのみがアクセスできます。</li><li>■ 標準 すべてのユーザーが、Mobile サーバーにアクセスできます。</li></ul>
セッションの期限切れ	セッションの有効時間です。
アプレットの JDBC 接続	Mobile サーバーを経由する、アプレットの JDBC 接続です。

リポジトリ

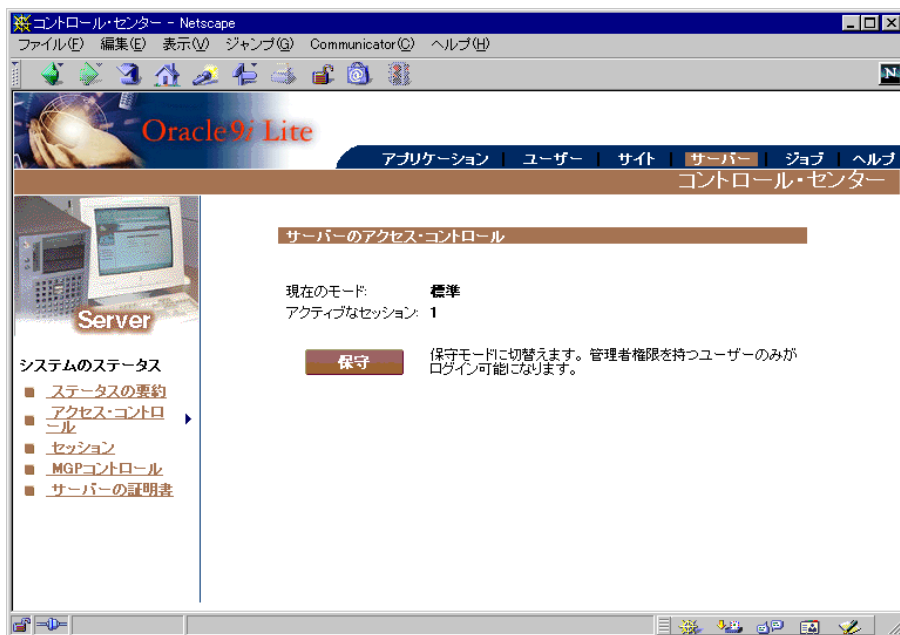
リポジトリ・レポートは、次の情報を生成します。

項目	定義
データベースの URL	Mobile サーバー・リポジトリ・データベースの URL です。たとえば、次のとおりです。 <code>jdbc:oracle:oci8:@webtogo.world</code>
Net8 サービス名	Mobile サーバー・リポジトリ・データベースの Net8 サービス名です。たとえば、次のとおりです。 <code>webtogo.world</code>
所有者	Mobile サーバー・リポジトリ・データベースの所有者です。たとえば、次のとおりです。 <code>MOBILEADMIN</code>

## サーバーの一時停止

保守目的で Mobile サーバーを一時停止するには、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。Mobile サーバーを一時停止すると、Mobile サーバーはサーバー上で現在アクティブになっているすべてのセッションを終了し、管理者権限を持つユーザーのみにアクセスを制限します。この作業を実行するには、「サーバー」タブをクリックしてから、左のフレームにある「アクセス・コントロール」をクリックします（図 3-27）。

図 3-27 サーバーの一時停止

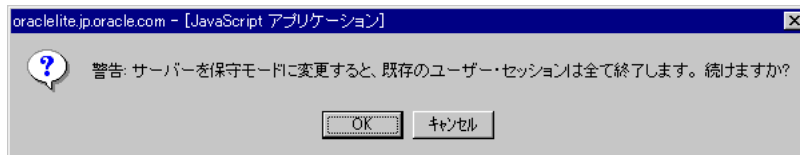


サーバーを一時停止するには、「保守」ボタンをクリックします。

**注意：** 管理者がログオフすると、サーバーは自動的に標準モードに切り替わります。

次の警告ダイアログ・ボックスが表示されます。

**図 3-28 サーバーの一時停止の警告ダイアログ・ボックス**



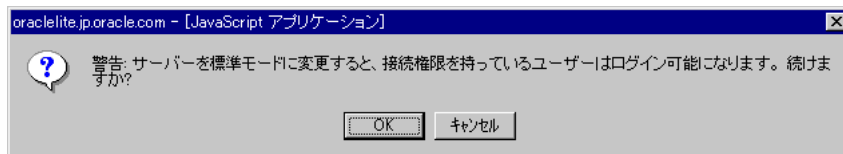
「OK」をクリックします。確認ダイアログ・ボックスが表示されます。

これでサーバーは保守モードで実行され、右のフレームにはシステムの現在のモードとして「保守」と表示されます。

## サーバーの再開

保守目的でサーバーを一時停止した後、Mobile サーバー操作を再開するときは、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用します。この作業を実行するには、「サーバー」タブをクリックしてから、左のフレームにある「アクセス・コントロール」をクリックします。サーバーは保守モードで実行され、右のフレームにはシステムの現在のモードとして「保守」と表示されます。「標準」ボタンをクリックします。次の警告ダイアログ・ボックスが表示されます。

**図 3-29 サーバー再開の警告ダイアログ・ボックス**



「OK」をクリックします。サーバーが標準モードで実行されることを確認するダイアログ・ボックスが表示されます。

「OK」をクリックします。これでサーバーは標準モードで実行され、右のフレームにはシステムの現在のモードとして「標準」と表示されます。



## アクティブなユーザー・セッションの表示

Mobile サーバー・コントロール・センターを使用すると、管理者は任意の時点で Mobile サーバーに接続しているすべてのユーザーを追跡できます。

アクティブな Mobile サーバー・セッションのレポートを表示するには、左のフレームにある「セッション」をクリックします。右のフレームに、次の情報を含むレポートが表示されます。

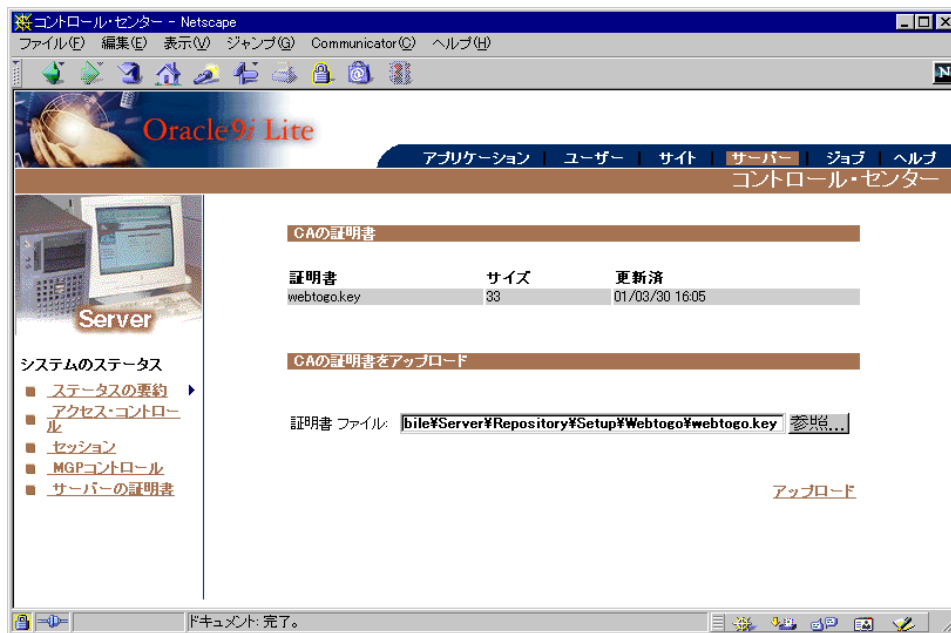
ラベル	説明
ユーザー	Mobile ユーザーの名前です。
作成日	セッションが作成された日付および時刻です。
最終リフレッシュ	セッションに最後にアクセスがあった時刻です。

## Mobile サーバー・リポジトリへの SSL サーバー証明書のアップロード

Mobile サーバー・コントロール・センターを使用すると、Mobile サーバー管理者は、認証局（CA）から Mobile サーバー・リポジトリにサーバー証明書の公開鍵のコピーをアップロードできます。Mobile サーバー・リポジトリには、暗号化形式の公開鍵のファイルが格納されています。Mobile サーバーが公開鍵を Mobile サーバー・リポジトリにアップロードした後で、Web-to-Go の Mobile クライアントをインストールすると、Web-to-Go の Mobile クライアントの暗号化キーがインストールされます。このキーは、Mobile サーバーとの SSL ハンドシェイクに使用されます。

公開鍵を Mobile サーバーリポジトリにアップロードするには、Mobile サーバー管理者は左のフレームにある「サーバーの証明書」を選択します。右のフレームで、管理者は「参照」ボタンを使用して認証局（CA）から証明書を選択します（[図 3-30](#)）。次に「ファイルのアップロード」ウィンドウを使用して、Mobile サーバー管理者は証明書ファイルを Mobile サーバー・リポジトリにアップロードします。

図 3-30 SSL サーバー証明書のアップロード



## Message Generator and Processor (MGP) の起動

Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、保守目的で停止した Consolidator Message Generator and Processor (MGP) を起動できます。この作業を実行するには、「サーバー」タブをクリックしてから、左のフレームにある「MGP コントロール」をクリックします。「開始」ボタンをクリックします。図 3-31 に示すように、右のフレームに現在のモードとして「MGP を起動中」と表示され、「Status」ボタンが「停止」ボタンに置き換わります。

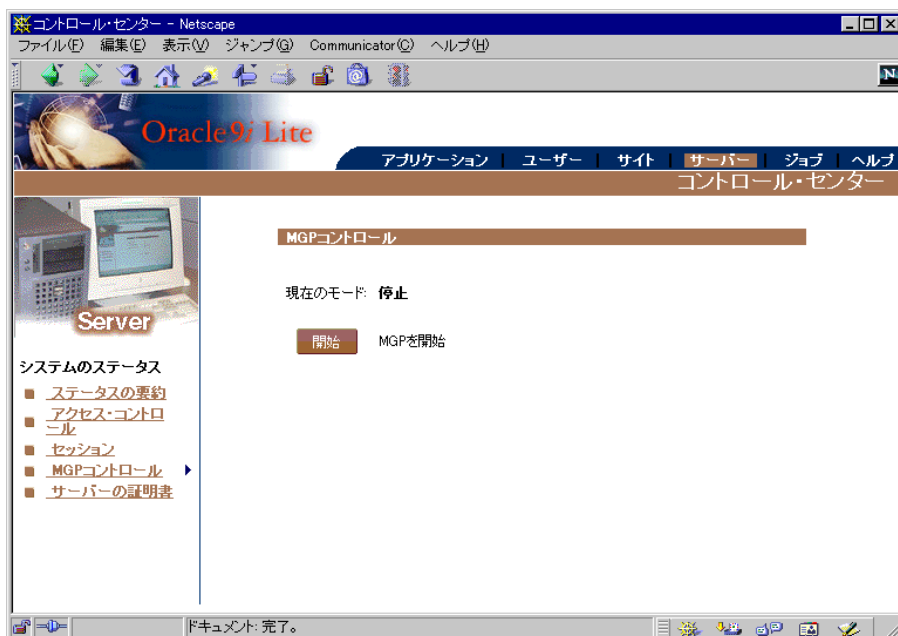
図 3-31 MGP を起動中



## Message Generator and Processor (MGP) の停止

Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、保守目的で Consolidator Message Generator and Processor (MGP) を停止できます。この作業を実行するには、「サーバー」タブをクリックしてから、左のフレームにある「MGP コントロール」をクリックします。右のフレームに「起動中」と表示され、MGP がアクティブになっていることを示します。

図 3-32 MGP を停止



「停止」ボタンをクリックします。図 3-32 に示すように、右のフレームに MGP の現在のモードとして「停止」と表示され、「Status」ボタンが「開始」ボタンに置き換わります。

## データ同期ジョブのスケジュール

Mobile サーバー・コントロール・センターの「ジョブ」タブでは、Mobile サーバー管理者は特定の Web-to-Go の Mobile クライアントまたは Branch Office の同期ジョブを作成できます。Web-to-Go の Mobile クライアントのジョブがスケジュールされると、クライアントは次に Mobile サーバーと同期するときにそのジョブを受信します。この同期ジョブは、それを作成したときに Mobile サーバー管理者が指定した開始日付と指定時刻に、自動的に Mobile サーバーとの同期をトリガーします。

## データ同期ジョブのスケジュールの表示

スケジュール済みのジョブのリストを表示するには、左のフレームにある「ジョブを一覧表示」をクリックします。右のフレームに、Mobile サーバーに登録されているスケジュール済みジョブの現在のリストが表示されます。これらのジョブに関する次のラベルの項目が表示されます。

ラベル	説明
クライアント名	このジョブがスケジュールされている Web-to-Go の Mobile クライアント・サイトの名前です。
名前	ジョブの名前です。ジョブ名の「同期」をクリックすると、「 <a href="#">データ同期ジョブの編集</a> 」で説明されている「ジョブの編集」パネルが表示されます。
実行予定日	スケジュールされているジョブの実行頻度です。
実行予定開始時刻	スケジュールされているジョブの開始時刻です。
ステータス	ジョブのステータスです。このフィールドは、ジョブが正常に終了すると「正常に実行」になり、正常に終了しない場合は「実行に失敗」になります。
実行日	ジョブが実際に実行された日付です。
削除	スケジュール済みのジョブを削除します。「 <a href="#">データ同期ジョブの削除</a> 」を参照してください。

「ジョブを一覧表示」をクリックすると、スケジュール済みのジョブのリストがリフレッシュされます。

ユーザーが Web-to-Go の Mobile クライアントで作成して、Mobile サーバーと同期されていないジョブは、「ジョブ」タブには表示されません。

## 新しいデータ同期ジョブの作成

Mobile サーバー管理者は、「ジョブ」画面の左のフレームの「新規ジョブ」リンクをクリックして、ジョブをスケジュールします。このリンクをクリックすると、[図 3-33](#) に示すような「ジョブの作成」パネルが起動されます。パネルには、「ジョブ名」と「クライアント名」、「ジョブのスケジュール設定」および「ジョブの所有者」の 3 つのセクションがあります。現在、Mobile サーバーには事前に定義されたジョブが 1 つあります。

図 3-33 「ジョブの作成」パネル

図 3-33 「ジョブの作成」パネルのスクリーンショット。ブラウザのタイトルは「コントロール・センター - Netscape」。メニューには「ファイル(F)」、「編集(E)」、「表示(V)」、「ジャンプ(Q)」、「Communicator(Q)」、「ヘルプ(H)」がある。ツールバーには標準的なブラウザのアイコンが並ぶ。ページのヘッダーには「Oracle 9i Lite」のロゴと「アプリケーション」、「ユーザー」、「サイト」、「サーバー」、「ジョブ」、「ヘルプ」のタブがあり、「ジョブ」タブが選択されている。サブヘッダーには「コントロール・センター」がある。左側のナビゲーションメニューには「ジョブ・オプション」があり、「ジョブを一覧表示」と「新規ジョブ」のリンクがある。メインコンテンツエリアのタイトルは「ジョブの作成」で、右上には「保存」および「リセット」のリンクがある。フォームには「ジョブ名」のプルダウンメニュー（「同期」が選択されている）と「クライアント名」のプルダウンメニュー（「hyamagis02.jp.oracle.com」が選択されている）がある。次に「ジョブのスケジュール設定」セクションがあり、3つのラジオボタン（「曜日」、「毎月の次の日にち」、「日付」）があり、「日付」が選択されている。その下には日付のフィールドがあり、年が「2001」、月が「6」、日が「4」になっている。さらに「時間」のフィールドがあり、「18」時「44」分が設定されている。最後に「ジョブの所有者」セクションがあり、「名前」と「パスワード」の入力フィールドがある。このセクションの右下にも「保存」および「リセット」のリンクがある。ブラウザのステータスバーには「リセット」と表示されている。

管理者はこのジョブを作成したクライアント名を選択し、次に「ジョブのスケジュール設定」セクションでジョブを実行する時刻、曜日または日付を選択します。このパネルのオプション・ボタンとフィールドを組み合わせることで、管理者は毎日の指定時刻に実行する、毎週または毎月の特定曜日の指定時刻に実行する、などのようにジョブをスケジュールできます。

「ジョブの作成」パネルには、「保存」および「リセット」のオプションもあります。「保存」オプションはジョブのスケジュールに対するすべての変更をコミットし、「リセット」オプションは画面を元の状態に戻します。

---

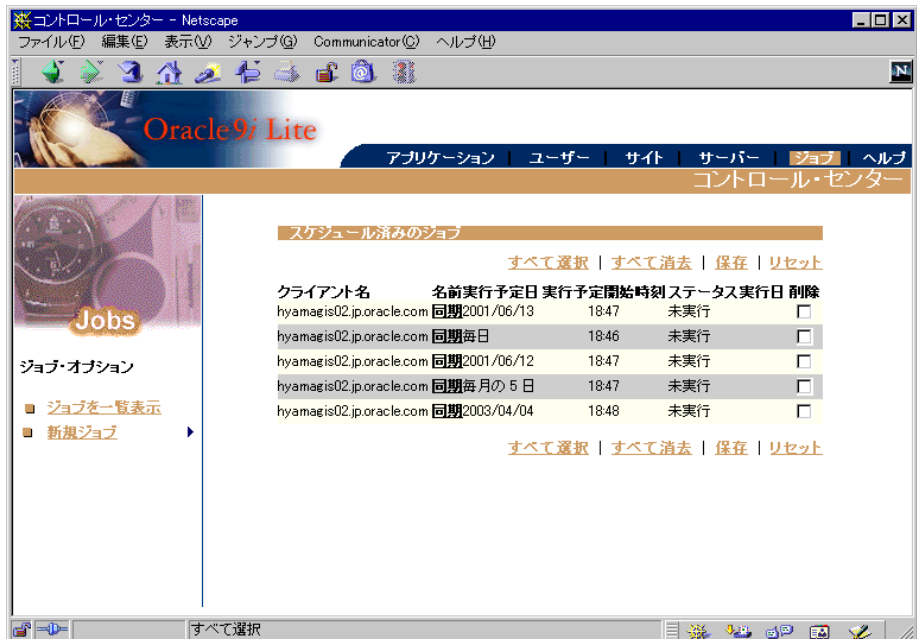
**注意：** レプリケーション・ジョブがスケジュールされていても、保留中のトランザクションをクライアントがコミットしていない場合、そのクライアントではジョブは実行されません。

---

## データ同期ジョブの編集

Mobile サーバー管理者は、「スケジュール済みのジョブ」のリストの「ジョブ名」をクリックして、既存のジョブのスケジュールを変更します（図 3-34）。

図 3-34 スケジュール済みのジョブのリスト



「ジョブの編集」パネルには、「ジョブの作成」パネルと同じフィールドとオプション・ボタンがあります。管理者は、これらの機能を使用してジョブのスケジュールを変更できます。終了すると、ブランチオフィス管理者は「保存」オプションを選択して変更をコミットできます。しかし、どの時点でも、管理者は「ジョブの編集」パネルの「リセット」ボタンを選択して、ジョブのスケジュールを元の状態に戻せます。

## データ同期ジョブの削除

Mobile サーバー管理者は、図 3-34 に示すように、ジョブの隣の「削除」チェックボックスを選択して「保存」をクリックして、スケジュール済みのジョブのリストからスケジュール済みジョブを削除できます。「すべて選択」オプションをクリックして「保存」をクリックすると、すべてのジョブを削除します。「リセット」をクリックすると、スケジュール済みのジョブのリストは元の状態に戻ります。「すべて消去」をクリックすると、削除するように選択されたすべてのジョブの選択が解除されます。

---

---

**注意：** クライアント・ユーザーが Mobile サーバーと同期するまで、ジョブは Web-to-Go の Mobile クライアントから削除されません。

---

---



---

## Web-to-Go の Mobile クライアントの使用

この章では、Web-to-Go の Mobile クライアントをインストールして使用方法を説明します。内容は次のとおりです。

- 概要
- Web-to-Go の Mobile クライアントのインストール
- ワークスペースの使用
- Web-to-Go へのログオン
- アプリケーションのアクセス
- アプリケーションの実行
- Web-to-Go ワークスペースの構成
- アプリケーション設定の構成
- パスワードの変更
- ユーザーのブックマークの作成と編集
- ブックマークのアクセス
- データ同期ジョブのスケジュール
- アプリケーションの切替え
- Web-to-Go からのログオフ

## 概要

開発、ディプロイおよび管理が完了すると、Mobile アプリケーションを使用できるようになります。Mobile アプリケーションを使用する前に、Web-to-Go の Mobile クライアントをインストールして、Web-to-Go のワークスペースに精通しておく必要があります。

## Web-to-Go の Mobile クライアントのインストール

Web-to-Go の Mobile クライアントは、Web ブラウザで Web-to-Go セットアップ・プログラムを実行するとインストールできます。Web-to-Go の Mobile クライアントをインストールする前に、使用環境がハードウェア要件およびソフトウェア要件を満たしていることを確認する必要があります。

## ハードウェア要件

Web-to-Go の Mobile クライアントには次のものがが必要です。

- Pentium III
- アプリケーション用 RAM として 12MB（Web-to-Go に 1.5MB、Java に 10MB）
- 10MB のハード・ディスク領域
- 800 x 600 のディスプレイ

## ソフトウェア要件

Web-to-Go の Mobile クライアントには次のものがが必要です。

- Microsoft Windows 95/98 または Windows NT 4.0（サービス・パック 3 を推奨）または Windows2000
- JavaScript 対応の Netscape 4.0.6 以上または Microsoft Internet Explorer 4.0 以上

## インストール

Web-to-Go の Mobile クライアントをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザを起動し、次の URL を入力して Mobile サーバーに接続します。

`http://server/webtogo/setup`

---

---

**注意：** `server` 変数は、使用する Mobile サーバーのホスト名に置き換えてください。また、ポート番号も置換する必要があります。

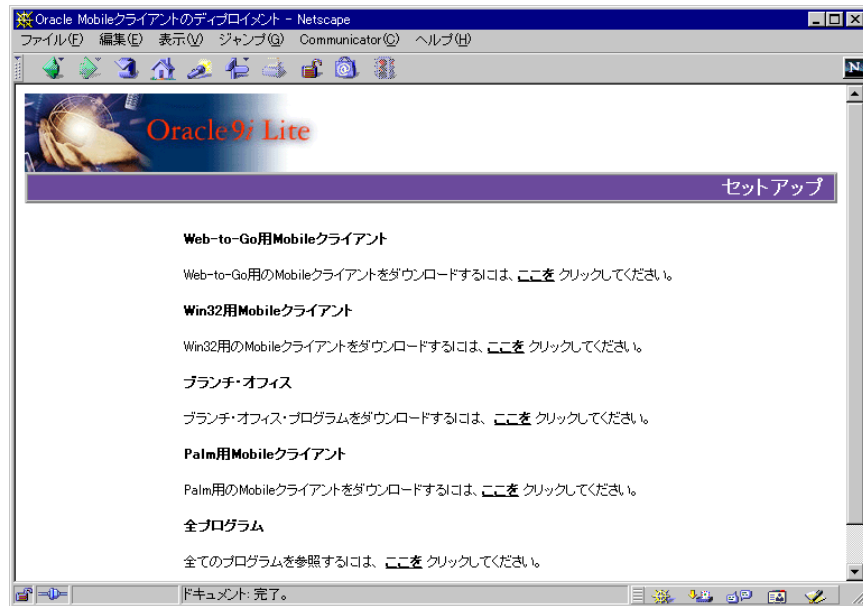
---

---

web ページに、ダウンロード可能なプログラムのリストが表示されます。

2. そのリストで、Web-to-Go 用 Mobile クライアントを検索します。
3. ハイパーリンク「ここを」をクリックして、Web-to-Go 用 Mobile クライアントをダウンロードします。

図 4-1 Web-to-Go の Mobile クライアントのダウンロード



4. Netscape を使用している場合は、セットアップ・プログラムをダウンロードする場所を選択して「OK」をクリックします。Windows エクスプローラで、**setup.exe** をダブルクリックしてセットアップ・プログラムを実行します。

Internet Explorer を使用している場合は、ブラウザのウィンドウからセットアップ・プログラムを実行します。

セットアップ・プログラムが起動されると、インストール・ディレクトリを指定するように求められます。

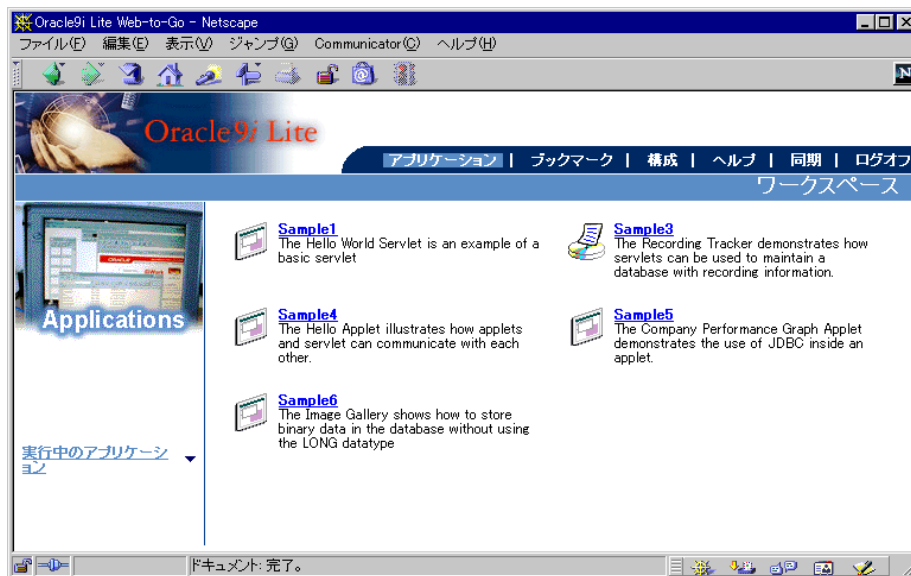
5. ディレクトリ（たとえば D:\orant）を選択し「OK」をクリックします。セットアップ・プログラムにより必要なコンポーネントがすべてダウンロードされ、使用するマシン上で Web-to-Go の Mobile クライアントが起動されます。インストールが完了すると、Web-to-Go のログイン画面が表示されます。

## ワークスペースの使用

ワークスペースには、使用する Mobile アプリケーションが含まれています。Mobile アプリケーションは、ハイパーリンク経由でアクセス可能な標準の Web アプリケーションとして実行されます。Mobile サーバーを使用すると、オフライン・モードで排他的に Mobile クライアント・アプリケーションを実行し、「同期」タブを選択していつでもデータおよびアプリケーションを同期できるようになります。その他の同期オプションの詳細は、「[Web-to-Go ワークスペースの構成](#)」を参照してください。

また、ワークスペースを使用すると、異なるブラウザ・ウィンドウで複数のアプリケーションを同時に実行し、互いに切り替えることもできます。[図 4-2](#) に示すように、ワークスペースには、「アプリケーション」、「ブックマーク」、「構成」、「ヘルプ」、「同期」および「ログオフ」の 6 つの機能タブが含まれています。

図 4-2 ワークスペースの機能タブ



## アプリケーション

「アプリケーション」タブをクリックするとワークスペースに戻り、使用可能なアプリケーションのリストが表示されます。すでにワークスペースを表示している場合は、ワークスペースがリフレッシュされます。Mobile アプリケーションにアクセスするには、アイコンまたはアプリケーション名をクリックします。

## 構成

「構成」タブでは次の機能を実行できます。

- ワークスペース設定を構成します。
- 同期のためにオフライン・モードを選択します（オフライン・モードでのみ使用可能）。
- Web-to-Go クライアントに対してオフライン化されるものからアプリケーションを除外します。
- パスワードを変更します。
- ブックマークを編集します。
- データ同期ジョブを作成します（オフライン・モードでのみ使用可能）。

## ヘルプ

「ヘルプ」タブは、Web-to-Go のオンライン・ヘルプ・システムを起動します。

## 同期

「同期」タブを使用すると、データと Oracle データベースを同期できます。「同期」タブをクリックすると、Web-to-Go クライアントが Mobile サーバーと接続してデータを同期します。また、そのユーザーにアクセス可能なアプリケーション更新および新規アプリケーションが、Mobile サーバーからダウンロードされます。同期後は、Mobile サーバーから切断されてオフライン・モードで作業を継続できます。Mobile サーバーと接続する必要があるのは、データおよびアプリケーションを同期するときのみです。

アプリケーション | ブックマーク | 構成 | ヘルプ | 同期 | ログオフ



デフォルトでは、Web-to-Go は「アプリケーションの設定」ページのリストにあるすべてのアプリケーションを一度に同期します。

### デフォルトの設定を無効にする場合

デフォルトの設定を無効にすると、「同期」タブをクリックしたときに Web-to-Go はオフラインで使用可能なすべてのアプリケーションのリストを表示します。このリストで、同期するアプリケーションを選択すると同期時間を削減できます。

（デフォルトの設定が無効になっているときに）Mobile サーバーが同期後に新規アプリケーションを検出した場合、Web-to-Go は新規のアプリケーションのみを同期するというオプションを提示します。同期の構成の詳細は、「Web-to-Go ワークスペースの構成」を参照してください。

## ログオフ

「ログオフ」タブは、実行中のアプリケーションをすべてクローズし、ログオン・ページに戻ります。

## Web-to-Go へのログオン

Web-to-Go にログオンする前に、Web-to-Go の Mobile クライアントをマシン上にインストールする必要があります。クライアントの実行中は、Windows のデスクトップの隅に次のアイコンが表示されます。



Web サーバーが実行されていない場合は、Oracle プログラム・グループにアクセスして Web-to-Go を選択すると起動できます。

---

---

**注意：** Web-to-Go の Mobile クライアントには、固有の Web サーバー、Mobile クライアント Web サーバーがあります。

---

---

Web-to-Go にログオンするには、ブラウザから次の URL にアクセスします。

http:// マシンのアドレス /

---

---

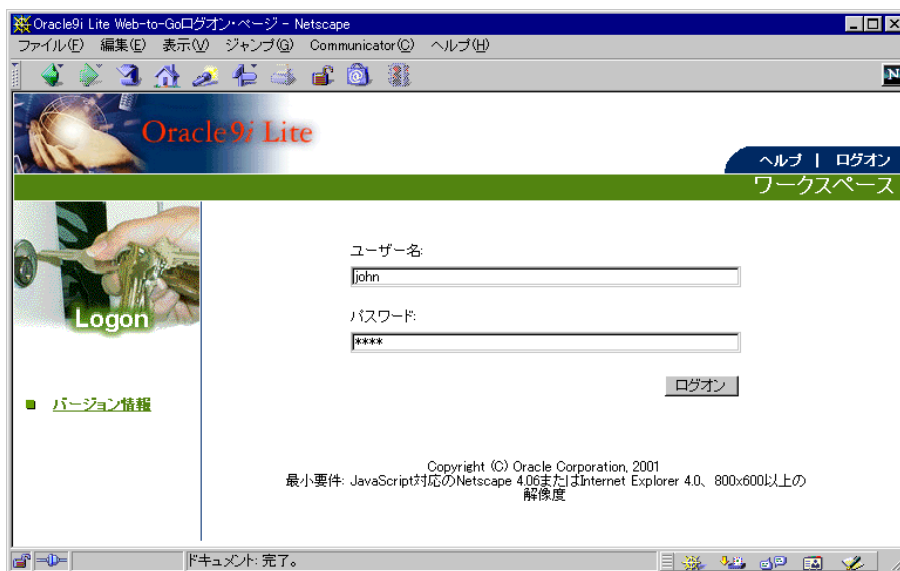
**注意：** ポート番号の提供も必要な場合があります。

---

---

Web-to-Go のログオン・ページが表示されます。

図 4-3 Web-to-Go のログオン・ページ



ユーザー名とパスワードを入力し、「ログオン」ボタンをクリックします。アカウントがない場合は、Mobile サーバー管理者に連絡してください。

## アプリケーションのアクセス

Web-to-Go アプリケーションは、ワークスペース内に、アイコン、名前および説明とともに表示されます。



### Sample3

The Recording Tracker demonstrates how servlets can be used to maintain a database with recording information.

アイコンとアプリケーション名は、どちらもハイパーリンクです。Web-to-Go アプリケーションにアクセスするには、アイコンまたはアプリケーション名をクリックします。

## アプリケーションの実行

Web-to-Go では、Mobile サーバーから切断して、オフライン・モードで作業できます。Mobile サーバーと接続する必要があるのは、データの変更を Oracle データベースと同期するときのみです。

Web-to-Go は、アプリケーションが使用する Mobile サーバー上の表をデータベース・スナップショットとして Web-to-Go の Mobile クライアントに伝播して、オフライン・モードで使用できるようにします。Oracle Lite データベース内のデータ変更を Web-to-Go に格納して、オフライン・モードで作業を継続できます。「同期」タブをクリックすると、Web-to-Go は、オフライン・モードでクライアントがデータに加えた変更を Oracle データベースに更新します。Mobile サーバーは、新規のアプリケーション、アプリケーション変更またはデータ変更をクライアントにダウンロードします。

オフライン・モードでも作業を継続できますが、デフォルトのオフライン・モードから、オンライン・モードとオフライン・モードを切り替えられる設定に変更できます。詳細は、「[オフライン・モード・オプション](#)」を参照してください。

## Web-to-Go ワークスペースの構成

左のフレームの「環境設定」をクリックすると、ワークスペース内の表示オプションを構成できます。[図 4-4](#) に示すように、ワークスペースの右のフレームに、次の情報を表示した構成ページが表示されます。

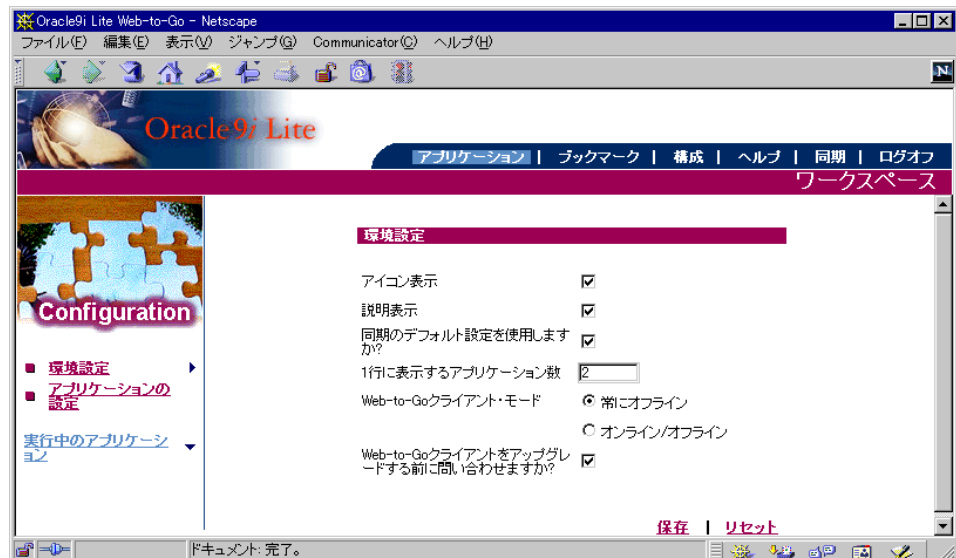
ラベル	説明
アイコン表示	Web-to-Go アプリケーションのアイコンを表示できます。Web-to-Go アプリケーションのアイコンを表示するときは、チェック・ボックスを選択します。Web-to-Go アプリケーションのアイコンを表示しない場合は、チェック・ボックスの選択を解除します。
説明表示	Web-to-Go アプリケーションの説明を表示できます。Web-to-Go アプリケーションの説明を表示するときは、チェック・ボックスを選択します。Web-to-Go アプリケーションの説明を表示しない場合は、チェック・ボックスの選択を解除します。
同期のデフォルト設定を使用しますか？	このオプションを選択すると、「アプリケーションの設定」ページで選択されたすべてのアプリケーション（新規アプリケーションを含む）が一度に同期します。このオプションを選択しない場合、Web-to-Go は優先的に同期するアプリケーションのリストを示します。このリストを使用して、同期するアプリケーションを選択すると、同期時間を削減できます。このモードでは、新規アプリケーションが使用可能になったときに Web-to-Go から通知されます。アプリケーションの設定の詳細は、「 <a href="#">Web-to-Go ワークスペースの構成</a> 」を参照してください。



ラベル	説明
1 行に表示するアプリケーション数	ワークスペースで水平方向の 1 行に表示する Web-to-Go アプリケーションの数を指定できます。
Web-to-Go クライアント・モード	「常にオフライン」を選択すると、オフライン・モードで作業を継続できます。「オンライン / オフライン」を選択すると、オフライン・モードとオンライン・モードを切り替えられます。
Web-to-Go をアップグレードする前に問い合わせますか？	このオプションを選択すると、Web-to-Go の Mobile クライアントは、Mobile サーバーが Mobile サーバー・リポジトリ内で検出した Web-to-Go の Mobile クライアント・ソフトウェアの新しいバージョンを自動的にダウンロードします。このオプションを選択しない場合、Web-to-Go はソフトウェア・アップグレードを受け入れるか拒否するかというオプションを示すページを生成します。

該当する情報を設定し「保存」をクリックします。間違った場合は「リセット」をクリックして前の設定にします。

図 4-4 ワークスペースの構成



## オフライン・モード・オプション

Web-to-Go の Mobile クライアントのモード・オプションによって、「常にオフライン」（デフォルト値）から「オンライン / オフライン」に切り替えてオフライン・モードとオンライン・モードを切り替えられます。

オンライン・モードでは、クライアントは Mobile サーバーに接続されています。データ変更はすべて直接 Oracle8i データ・サーバーに格納されます。オフライン・モードに切り替えると、Mobile サーバーから切断されます。オフラインにすると、Web-to-Go はデータおよびアプリケーションの最新のスナップショットをダウンロードして、Mobile サーバーに接続しなくても作業できるようにします。

「オンライン / オフライン」オプションを選択すると、「同期」タブが「オンライン」タブに置き換わります。「オンライン」タブは、現在オフライン・モードであることを示します。「オンライン」タブをクリックすると、Mobile サーバーと接続します。クライアントが Mobile サーバーと接続すると、「オンライン」タブが「オフライン」タブに置き換わります。「オフライン」タブをクリックすると、Mobile サーバーから切断され、選択されたアプリケーションおよびデータが同期します。

---

---

**注意：** Web-to-Go の Mobile クライアントと Mobile サーバーの同期は非同期です。「オンライン / オフライン」モードを使用している場合は、オフライン・モードとオンライン・モードを切り替える直前の変更は、リフレッシュされたデータ・セットにすぐに反映されない場合があります。

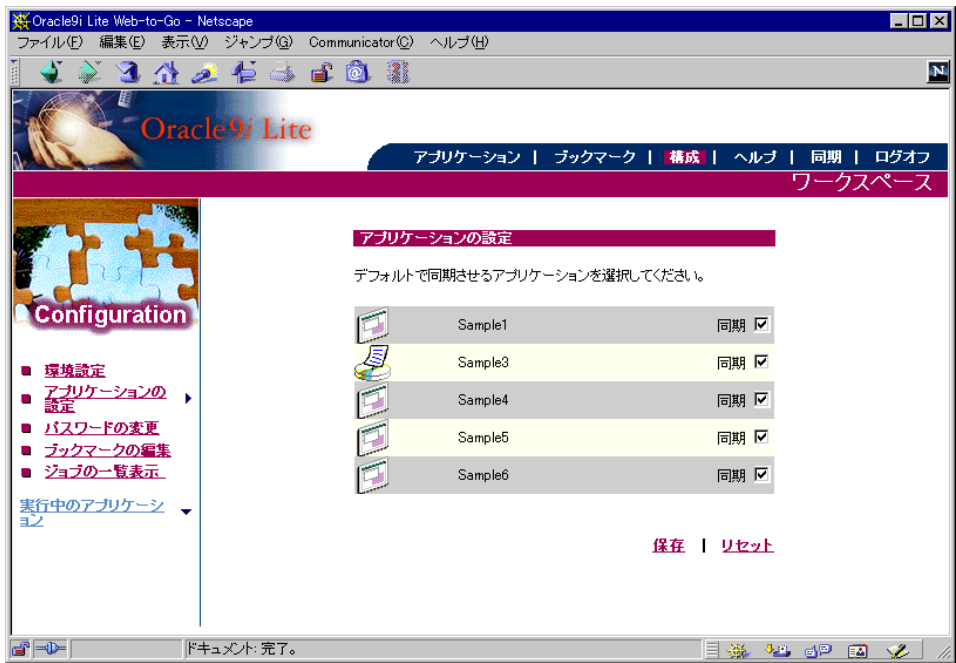
---

---

## アプリケーション設定の構成

「アプリケーションの設定」オプションでは、デフォルトの同期設定に割り当てるアプリケーションを選択できます。デフォルト・モードでは、同期時に Web-to-Go がクライアント・アプリケーションと Mobile サーバーを自動的に同期します。選択するアプリケーションの数が少ないほど、ダウンロードされるデータ量が少なくなり、同期プロセスも速く実行されます。

図 4-5 アプリケーション設定の構成



同期するアプリケーションを選択するには、「アプリケーションの設定」をクリックします。ワークスペースの右フレームの「アプリケーションの設定」ページに、次の情報が表示されます。

ラベル	説明
同期	これを選択すると、同期時に Web-to-Go がクライアント・アプリケーションと Mobile サーバーを自動的に同期します。

図 4-5 に示すように、アプリケーションの隣の「同期」チェックボックスを選択し、「保存」をクリックします。チェックボックスを消去すると、Web-to-Go が同期を実行する前にこのアプリケーションの同期を確認する通知を受け取ります。「保存」をクリックすると、選択したアプリケーションの自動同期をコミットします。間違った場合は「リセット」をクリックして前の設定にします。

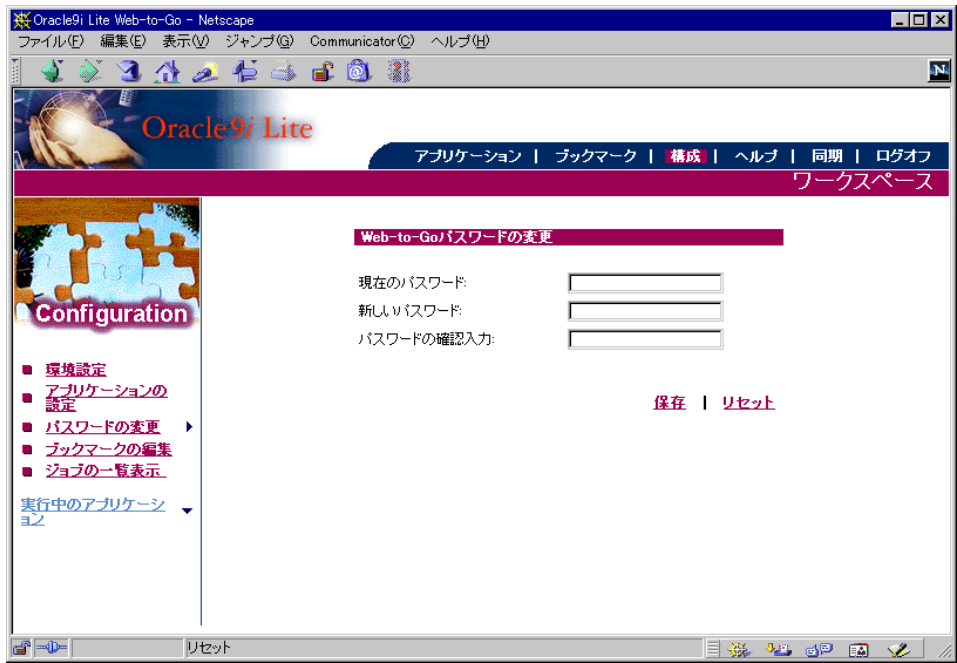
# パスワードの変更

Mobile サーバーのパスワードを変更できます。Mobile サーバーのパスワードを変更するには、「パスワードの変更」をクリックします。次の情報がワークスペースに表示されます。

ラベル	説明
現在のパスワード	現在の Mobile サーバーのパスワードです。
新しいパスワード	新しい Mobile サーバーのパスワードです。
パスワードの確認入力	新しいパスワードの確認入力です。このフィールドのパスワードが「新しいパスワード」フィールドのパスワードと一致しない場合、Web-to-Go からエラーが返されます。

現在のパスワード、新しいパスワードおよびパスワードの確認をそれぞれのフィールドに入力し、「保存」をクリックします。間違った場合は「リセット」をクリックして最後に保存されたパスワード設定に戻ります。

図 4-6 パスワードの変更



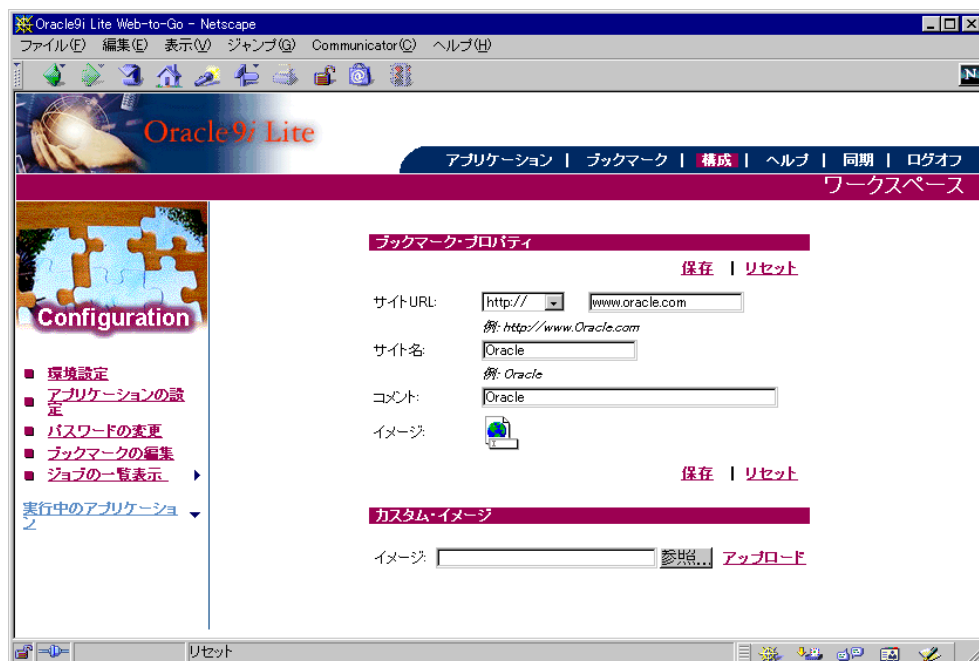
## ユーザーのブックマークの作成と編集

「ブックマーク」タブからアクセスできるブックマークを作成し、左のフレームにある「ブックマークの編集」タブを使用して編集できます。このオプションをクリックすると、右のフレームに「ブックマークの編集」パネルが起動されます。このパネルを使用すると、ブックマークの作成、またはすでに作成したブックマークのプロパティの変更を実行できます。Web-to-Go は、ブックマークをユーザー・プロファイルに格納します。これにより、ユーザーがログインするたびに、ワークスペースの「ブックマーク」タブにブックマークがロードされます。

## ユーザーのブックマークの作成

ブックマークは、「構成」タブの左のフレームにある「ブックマークの編集」オプションをクリックすると作成できます。右のフレームに「ブックマークの編集」パネルが表示されず、「新規」をクリックします。右のフレームに「ブックマーク・プロパティ」パネルと「カスタム・イメージ」パネルが表示されます。「ブックマーク・プロパティ」パネルの「サイト URL」、「サイト名」および「コメント」フィールドに情報を入力すると、ブックマークを作成できます。

図 4-7 ユーザーのブックマークの作成



フィールド	説明	必須
サイト URL	「イメージ」の隣に表示されるサイト識別アイコンに対応するインターネット・プロトコルのドロップダウン・リスト・ボックスです。該当するプロトコルを選択した後、隣接フィールドにサイトの名前（たとえば、 <i>www.Oracle.com</i> ）を入力します。この名前は、手動で入力するか貼り付けます。	○
サイト名	Web サイトの名前（たとえば、 <i>Oracle</i> ）です。この名前は、正確なサイト名である必要はありません。わかりやすい名前を使用できます。	○
コメント	管理者により入力されるサイトの簡単な説明（たとえば、 <i>oracle</i> ）です。この説明は、Web-to-Go ワークスペースの「ブックマーク」タブにサイト名が表示されるときに、サイト名の下にキャプションとして表示されます。	
イメージ	「サイト URL」ドロップダウン・リスト・ボックスから選択された URL プロトコルに対応するイメージを表示します。このイメージは、「カスタム・イメージ」パネルの「イメージ」フィールドで選択したイメージに置き換えることができます。アイコンを設計できるのは個人ブックマークのみです。システムのブックマークにより使用されるアイコンを置き換えることはできません。	

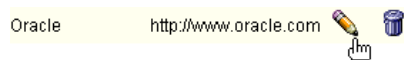
「保存」をクリックすると、ブックマークが「ブックマーク」タブに伝播され、このブックマークにより参照されている Web ページへのアクセスに使用できます。「リセット」をクリックすると、すべてのフィールドが消去され、「サイト URL」ドロップダウン・リスト・ボックスがデフォルト設定の *http://* に戻されます。

カスタム・イメージの作成

作成したブックマークの参照に使用される既存のプロトコル・アイコンの .gif イメージを、置き換えることができます。アイコンを変更するには、「ブックマーク・プロパティ」パネルの「サイト URL」ドロップダウン・リスト・ボックスで該当するプロトコルを見つけて、使用する新規 .gif イメージの名前を「カスタム・イメージ」パネルの「イメージ」フィールドに入力します。このフィールドに .gif ファイルの名前を入力するには、「参照」ボタンも使用できます。「アップロード」をクリックして、Mobile サーバー・リポジトリにイメージをアップロードします。「保存」をクリックすると、既存のイメージが新規イメージに置き換わります。「リセット」をクリックすると、ブックマーク・アイコンが既存のイメージに戻ります。

## ブックマークの編集

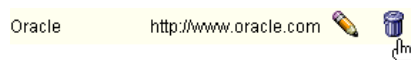
ブックマークの右にある「鉛筆」アイコンをクリックすると、ブックマークのサイト名、説明のコメントまたはイメージを変更できます。



新規ブックマークの作成に使用した「ブックマーク・プロパティ」パネルと「カスタム・イメージ」パネルが右のフレームに表示され、各フィールドには以前に入力した情報が移入されています。「サイト名」と「コメント」フィールドの情報を変更し、「保存」をクリックします。「リセット」をクリックすると、これらのフィールドが元の状態に戻ります。ブックマークのアイコン用の .gif ファイルを変更するには、新規 .gif ファイルの名前を「イメージ」フィールドに入力するか、「参照」ボタンを使用して .gif ファイルを検索します。「アップロード」をクリックして、Web-to-Go にイメージをアップロードします。「保存」をクリックすると、ブックマークの既存のイメージが新規イメージに置き換わります。「リセット」をクリックすると、ブックマーク・アイコンが前のイメージに戻ります。

## ブックマークの削除

ブックマークの隣の「ごみ箱」アイコンをクリックすると、Web-to-Go からブックマークを削除できます。このアイコンをクリックすると、削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



## ブックマーク・アイコンの編集

独自の gif イメージを選択して、「ブックマーク」タブに表示されるインターネット・プロトコルのアイコンを作成できます。これらの .gif ファイルは、左のフレームにある「ブックマーク・アイコンの編集」をクリックして変更できます。その結果、右のフレームに、現在使用可能な一連のブックマーク・アイコンとそれに対応するインターネット・プロトコルが移入されます。

---

**注意：** システムのブックマークは編集できません。編集できるのは、自分で作成したブックマークのみです。

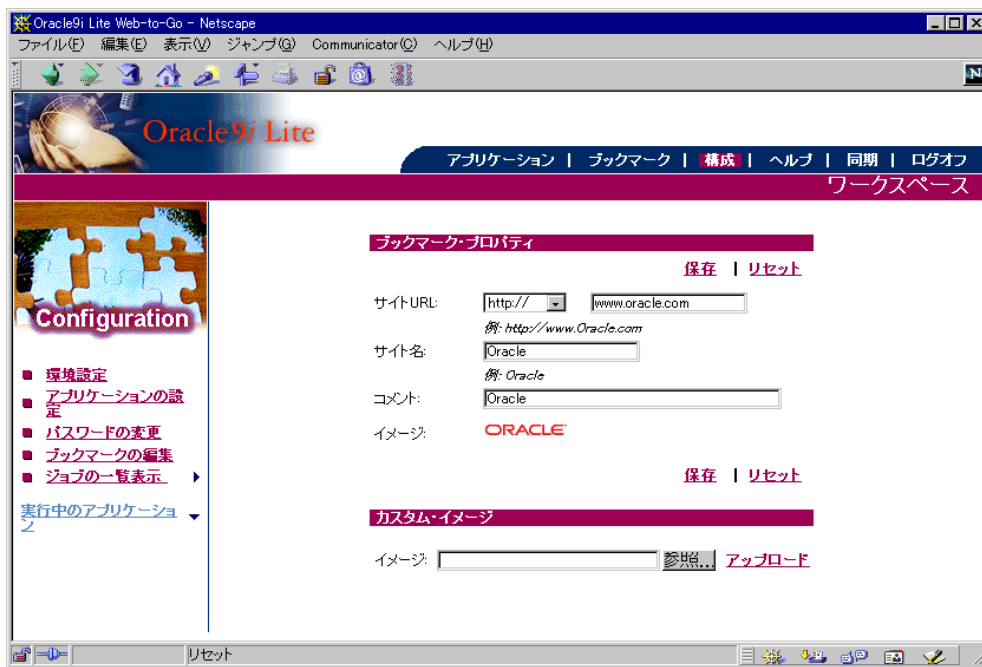
---

アイコンを変更するには、該当するイメージまでスクロールして「変更」をクリックします。「イメージのローディング」パネルが表示されます。

新規アイコン用として使用する .gif イメージの名前を入力するか、「参照」ボタンを使用して名前を見つけます。「アップロード」をクリックすると、現在のアイコンが新規アイコン

に置き換わります。図 4-8 に示すように、ブックマークは左のフレームにある「ブックマークの編集」オプションをクリックすると作成できます。

図 4-8 ブックマーク・アイコンの編集



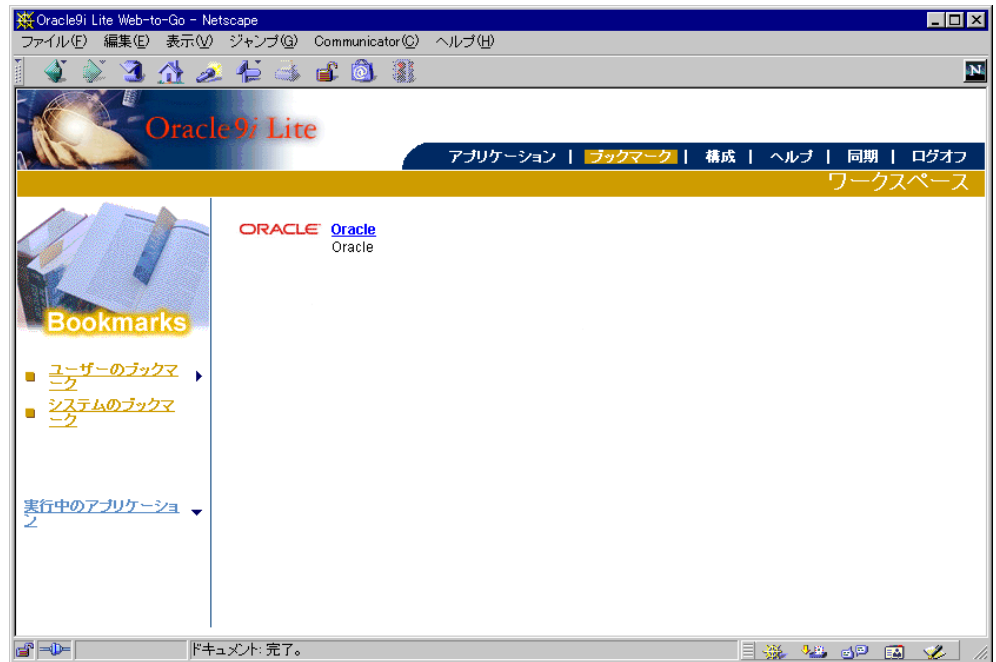
## ブックマークのアクセス

「ブックマーク」タブを使用すると、システム・ブックマークと「構成」タブを使用して作成したブックマークにアクセスできます。「ブックマーク」タブをクリックすると「ブックマーク」画面が起動されます。この画面の左のパネルには、「ユーザーのブックマーク」オプションと「システムのブックマーク」オプションが含まれています。右のパネルには、対応する Web サイトにすばやくアクセスするためのブックマークが表示されます。

「ユーザー・ブックマーク」オプションをクリックすると、「構成」タブを使用して作成したブックマークが表示されます (図 4-9)。



図 4-9 ブックマークのアクセス



「システムのブックマーク」オプションをクリックすると、管理者が Mobile サーバー・コントロール・センターに作成したシステムのブックマークが起動されます。

## データ同期ジョブのスケジュール

オフライン・モードでは、ワークスペースを使用して Web-to-Go の Mobile クライアントからサイトのデータ同期ジョブを作成できます。この同期ジョブは、ワークスペースを使用して指定した開始日付と指定時刻で、自動的に Mobile サーバーとの同期をトリガーします。

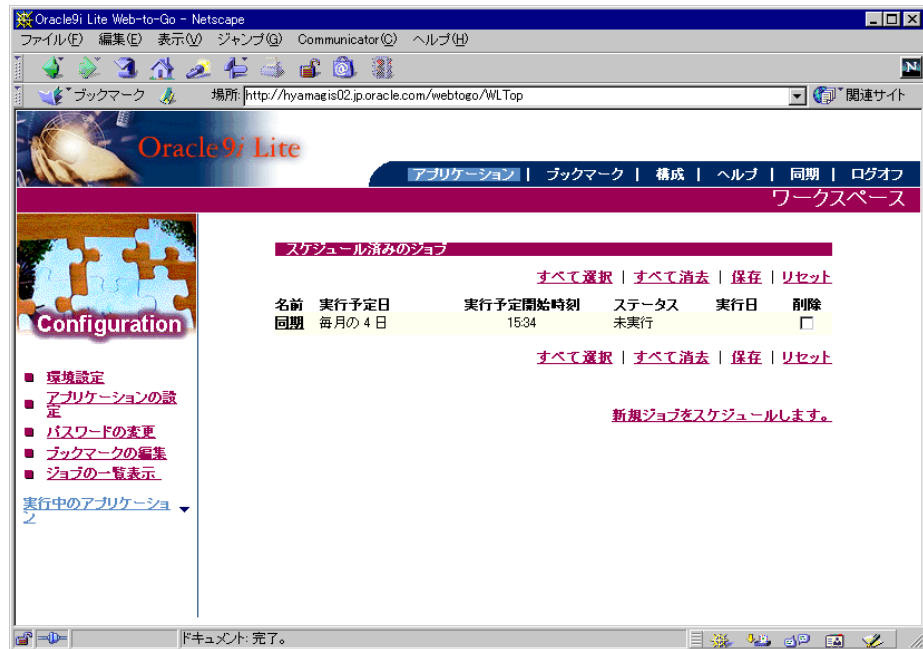
**注意：** Web-to-Go の Mobile クライアントがオフライン・モードのときは、自分のサイトのジョブのみをスケジュールできます。詳細は、「[オフライン・モード・オプション](#)」を参照してください。

## データ同期ジョブの表示

現在のデータ同期ジョブのリストを表示するには、ワークスペースの左のフレームにある「ジョブの一覧表示」をクリックします。図 4-10 に示すように、右のフレームには、クライアント用に作成された現在のジョブが表示されます。ワークスペースには、次のラベルの下にジョブが表示されます。

ラベル	説明
名前	ジョブの名前です。ジョブ名の「同期」をクリックすると、「 <a href="#">データ同期ジョブの編集</a> 」で説明されている「ジョブの編集」パネルが表示されます。
実行予定日	スケジュールされているジョブの実行頻度です。
実行予定開始時刻	スケジュールされているジョブの開始時刻です。
ステータス	ジョブのステータスです。このフィールドは、ジョブが正常に終了すると「正常に実行」になり、正常に終了しない場合は「実行に失敗」になります。
実行日	ジョブが実際に実行された日付です。
削除	スケジュール済みのジョブを削除します。「 <a href="#">データ同期ジョブの削除</a> 」を参照してください。

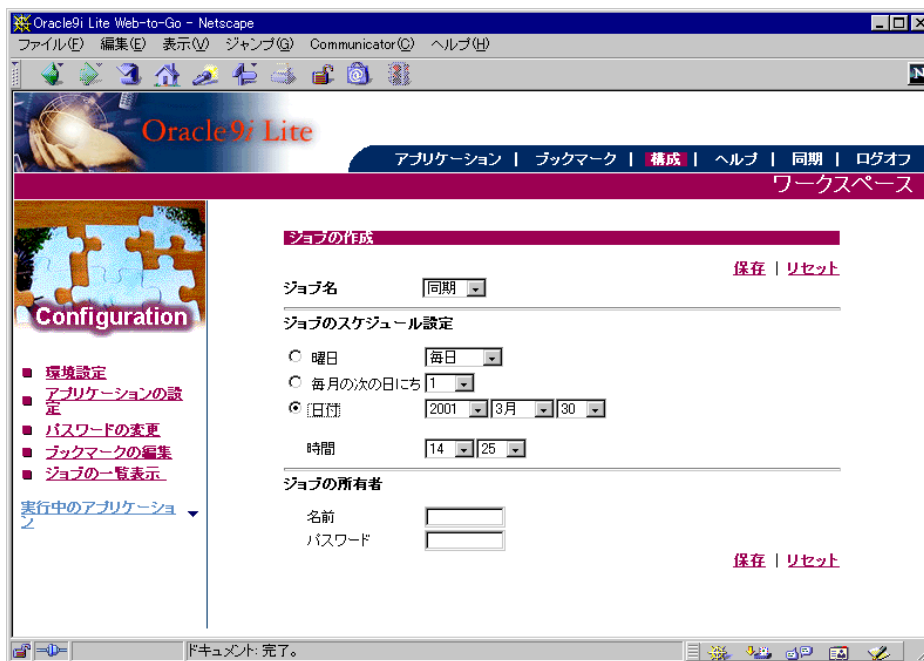
図 4-10 データ同期ジョブの表示



## 新しいデータ同期ジョブの作成

「ジョブ」画面の左のフレームの「新規ジョブをスケジュールします。」リンクをクリックして、同期ジョブをスケジュールします。このリンクをクリックすると、「ジョブの作成」パネルが起動されます。このパネルには、「ジョブ名」、「ジョブのスケジュール設定」および「ジョブの所有者」の3つのセクションがあります。現在、Mobile サーバーには事前に定義されたジョブが1つあります。

図 4-11 「ジョブの作成」パネル



このジョブの名前を選択し、次に「ジョブのスケジュール設定」セクションでオプション・ボタンとフィールドを組み合わせて、ジョブを実行する時刻、曜日または日付を選択します。毎日の指定時刻に実行する、毎週または毎月の特定曜日の指定時刻に実行する、などのようにジョブをスケジュールできます。

「ジョブの作成」パネルには、「保存」および「リセット」のオプションもあります。「保存」オプションはジョブのスケジュールに対するすべての変更をコミットし、「リセット」オプションは画面を元の状態に戻します。

---

**注意：** レプリケーション・ジョブがスケジュールされていても、保留中のトランザクションをクライアントがコミットしていない場合、そのクライアントではジョブは実行されません。

---

## データ同期ジョブの編集

スケジュール済みジョブのリストの「ジョブ名」をクリックすると、既存のジョブのスケジュールを変更できます。

「ジョブの編集」パネルには、「ジョブの作成」パネルと同じフィールドとオプション・ボタンがあります。これらの機能を使用してジョブのスケジュールを変更できます。「保存」オプションを選択すると、これらの変更がコミットされます。ただし、どの時点でも、「ジョブの編集」パネルの「リセット」オプションを選択して、ジョブのスケジュールを元の状態に戻せます。

## データ同期ジョブの削除

削除するジョブの隣の「削除」チェックボックスを選択して「保存」をクリックすると、ジョブを削除できます。「すべて選択」オプションをクリックして「保存」をクリックすると、すべてのジョブを削除します。「リセット」をクリックすると、スケジュール済みのジョブのリストは元の状態に戻ります。「すべて消去」をクリックすると、選択された「削除」チェックボックスがすべて解除されます。

---

---

**注意：** Mobile サーバーと同期するまで、ジョブは Web-to-Go の Mobile クライアントから削除されません。

---

---

### スケジュール済みのジョブ

[すべて選択](#) | [すべて消去](#) | [保存](#) | [リセット](#)

名前	実行予定日	実行予定開始時刻	ステータス	実行日	削除
同期	2001/04/30	14:25	未実行		<input type="checkbox"/>

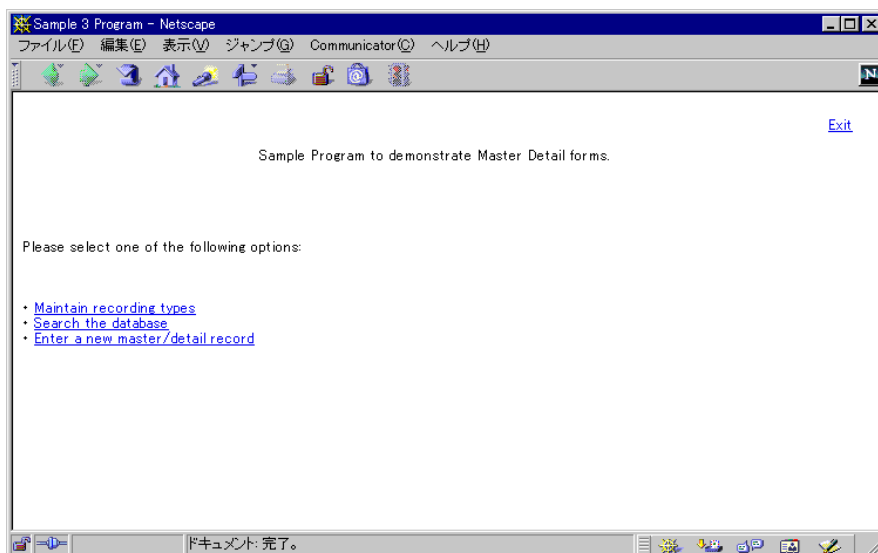
[すべて選択](#) | [すべて消去](#) | [保存](#) | [リセット](#)

# アプリケーションの切替え

複数の Web-to-Go アプリケーションを同時に実行できます。Web-to-Go は各アプリケーションを別々のブラウザ・ウィンドウ内で起動し、実行中のすべてのアプリケーションを追跡します。アプリケーションを切り替えるには、左のフレームの「実行中のアプリケーション」をクリックします。「実行中のアプリケーション」をクリックすると、現在アクティブな Web-to-Go アプリケーションのリストが表示されます。

使用するアプリケーションをクリックします。アプリケーションはブラウザ・ウィンドウに表示されます (図 4-12)。

図 4-12 アプリケーションの選択後



## パブリック・ファイルのダウンロード

Mobile サーバーの管理者がファイルをパブリックに指定すると、Web-to-Go の Mobile クライアントから次の URL にアクセスして、クライアントにそのファイルをダウンロードしてインストールできます。

`http://<client>/public/download`

次の図に示すように、この URL はすべてのパブリック・ファイルをそれぞれのアプリケーションの下にリスト表示します。

ダウンロード可能なファイル			
アプリケーション	ファイル名	サイズ	修正済み
Sample3	sample3.gif	347	00/11/21 15:34

ファイル名をクリックすると、ブラウザはそのファイルをダウンロードします。

Windows の「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。

このファイルをローカル・ファイル・システムの任意のディレクトリに保存できます。ファイルを保存した後、自己解凍ファイルを実行するとアプリケーションをインストールできます。

## Web-to-Go からのログオフ

ログオフするには、「ログオフ」タブをクリックします。Web-to-Go が実行中のアプリケーションをすべてクローズし、ログオン・ページに戻ります。





---

## トラブルシューティングのための FAQ

この付録には、Mobile サーバーのトラブルシューティングに関してよくある質問とその回答が含まれています。内容は次のとおりです。

- [Mobile サーバー・リポジトリに含まれるファイルの検査](#)
- [デバッグ・モードでの Mobile サーバーの実行](#)

## Mobile サーバー・リポジトリに含まれるファイルの検査

Mobile サーバー・シェル・ユーティリティ（wsh）を使用すると、Mobile サーバー・リポジトリを対話的に検査および変更できます。DOS プロンプトで次のように入力します。

```
wsh -L system/x@olite-db
```

または、次のように入力します。

```
wsh -o mobileadmin/manager@o8db
```

たとえば、DOS のプロンプトで次のサンプル・コードを入力できます。

```
wsh -o mobileadmin/manager@webtogo.world
wsh -L system/x@webtogo
```

リポジトリ・プロンプトが表示されます。ここで次のコマンドを使用してリポジトリの検査と変更を行えます。

コマンド	定義
dir	ディレクトリ内のファイルの一覧を表示します。
copy	1 つ以上のファイルを別の位置にコピーします。
cp	1 つ以上のファイルを別の位置にコピーします。
edit	ファイルを編集するためのメモ帳を起動します。
del:	1 つ以上のファイルを削除します。
rm	1 つ以上のファイルを削除します。
rename	ファイル（複数も可）の名前を変更します。
cd	カレント・ディレクトリの名前を表示するか、カレント・ディレクトリを変更します。
md	ディレクトリを作成します。
rd	ディレクトリを削除します。
type	テキスト・ファイル（複数も可）の内容を表示します。
exit	コマンド・シェルを終了します。
quit	コマンド・シェルを終了します。
help	シェル・コマンドのヘルプ情報を表示します。
sync	ファイル・システムとデータベースの内容を同期します。

## デバッグ・モードでの Mobile サーバーの実行

Apache Server、Oracle9i Application Server (Oracle9iAS)、Oracle HTTP Server または Webtogo.exe とともに実行中の Mobile サーバーで問題が発生した場合は、次の手順を実行して Mobile サーバーをデバッグ・モードで実行できます。

1. Mobile サーバーと、Apache Server、Oracle9iAS、Oracle HTTP Server または Webtogo.exe をシャットダウンします。
2. webtogo.ora ファイルの [DEBUG] パラメータに次の値が含まれていることを確認します。

パラメータ	値
ENABLE	YES
MACHINE	<i>debug_client</i> 。debug_client は、Oracle9iAS、Apache Server または Oracle HTTP Server からデバッグ・メッセージを送信する相手先のマシンの名前です。
PORT	100

3. デバッグ・マシン上の DOS プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
wsh -m 100
```

(wsh はアプリケーションで、-m は監視機能を使用可能にして、100 は監視するポートを指定します。)

4. Mobile サーバーを再起動します。

---

---

**注意：** Apache HTTP Server、Oracle9iAS または Oracle HTTP Server ではなく Webtogo.exe を実行している場合は、コマンドラインに -d0 と指定するとデバッグできます。たとえば、次のとおりです。

```
c:\¥> webtogo.exe -d0
```

---

---



---

## Mobile サーバー構成パラメータ

この章では、Mobile サーバー構成パラメータについて説明します。構成パラメータは、**webtogo.ora** ファイルに含まれています。Mobile サーバーは、**webtogo.ora** ファイルを使用して Mobile サーバーを初期化します。Mobile サーバーを起動すると、**webtogo.ora** ファイルにあるパラメータが読み取られます。このファイルは、この章で示す Mobile サーバー・システム全体に関するパラメータを定義します。

[WEBTOGO]

WEBTOGO パラメータは、Web-to-Go の Mobile クライアントと Mobile サーバーの両方の動作を制御します。

表 4-1 WEBTOGO パラメータ

パラメータ	定義
USE_SYSTEM_CLASSPATH=YES	Mobile サーバー・リポジトリを検索する前に、コンピュータのクラスパスで Java クラスを検索するかどうかを制御します。
MODE=SERVER	Mobile サーバーが実行されるモードです。有効なモードは、SERVER、CLIENT、BRANCH です。「BRANCH」は、Mobile サーバーがブランチ操作作用にクライアント・モードで実行されることを示します。
PORT=80	Mobile サーバーを実行するポートの番号です。Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) のインストールでは無効です。
CLASSPATH=	Mobile サーバー・リポジトリに含まれるディレクトリのリストです。Web-to-Go はここで Java クラスを検索します。
PROXY_SERVER=proxy.com	プロキシ・ホスト名の番号です。Web-to-Go の Mobile クライアント・セットアップは、このエントリを変更します。
PROXY_PORT=80	プロキシのポート番号です。Web-to-Go の Mobile クライアント・セットアップは、このエントリを変更します。
SQL_RETRIES=5	タイムアウトになるまでの JDBC 接続確立試行回数です。
SESSION_EXPIRATION=45	ログオン・セッションの期限切れ時間です。指定された時間を超えてもアクティブになっていないユーザーは、ログアウトされます。
KEY_EXPIRATION=20	ログオン・キーが無効になるまでの時間（分）です。
PUBLIC_NAME=/public	パブリックな URL 名です。デフォルト値は /public です。
BASE_URL=/webtogo	Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) で、Web-to-Go がインストールされるベース URL です。

表 4-1 WEBTOGO パラメータ（続き）

パラメータ	定義
ADMIN_PORT=8080	Mobile サーバーを起動する管理ポートです。
ADMIN_TNS_NAME=WEBTOGO.WORLD	Mobile サーバー・リポジトリの TNS 名です。
ADMIN_JDBC_URL= jdbc:oracle:oci8: @webtogo.world	Mobile サーバー・リポジトリの JDBC の URL です。
FONT_NAME=Arial	Web-to-Go ワークスペースのフォントです。
APPLET_USE_THIN_JDBC=YES	Web-to-Go で、すべてのデータベース・コールに JDBC Thin ドライバまたは Web-to-Go データ通信リンクを使用することを要求します。Web-to-Go は、JDBC Thin ドライバを使用しない場合は、Web-to-Go 内部 JDBC ドライバを使用します。
LOAD_LIBRARIES	Mobile サーバーが事前にロードしておく必要があるシステム・ライブラリ (DLL) を、セミコロンで区切ったリストです。  例:  LOAD_LIBRARIES=myapp;olmuadm  myapp.dll と olmuadm.dll という 2 つの DLL が、Mobile サーバーが起動するときにロードされます。
SOCKET_TIMEOUT	サーバー・ソケットに対する read() コールがタイムアウトになる前にブロックする秒数です。0 に設定すると、read() コールはタイムアウトになりません。  デフォルトは 60 秒です。
ADMIN_USER	暗号化されたユーザー名です。これは編集しないでください。次の URL にアクセスすると設定されます。  <server>/startup
ADMIN_PASSWORD	暗号化されたユーザー・パスワードです。次の URL にアクセスすると設定されます。  <server>/startup

表 4-1 WEBTOGO パラメータ（続き）

パラメータ	定義
<code>RESTRICTED_ADMIN_HOSTS=</code> <list of comma separated IP addresses>	<p>このパラメータは、「管理者」アクセス権を持つアカウントにセキュリティを設定します。このパラメータにより、「管理者」アクセス権があるアカウントに対して、指定された IP アドレス・セットに対するログイン要求を許可するように、Mobile サーバーを構成できます。</p> <p>また、Mobile サーバーの開始機能に対するアクセスも制限できます。このパラメータの値リストに含まれる IP アドレスのマシンで実行中のブラウザからの有効なログイン要求にのみ、アクセスが付与されます。</p> <p>例：</p> <pre>RESTRICTED_ADMIN_HOSTS =144.125.127.150,144.125.127.101</pre> <p><b>注意：</b>「管理者」アクセス権を持つユーザーは、プロキシ・サーバー経由で接続しないでください。プロキシ・サーバーをバイパスする方法の詳細は、<a href="#">付録 F「プロキシ・サーバーのバイパス」</a>を参照してください。</p>
<code>SSL=YES</code>	<p>このパラメータを YES に設定すると、Mobile サーバーは SSL モードで実行します。この機能を使用するには、Mobile サーバーが Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) または SSL 対応の Apache の内部モジュールとして実行されている必要があります。</p>
<code>CUSTOM_WORKSPACE=no</code>	<p>カスタム・ワークスペースを使用するかどうかを示します。</p>
<code>CUSTOM_DIRECTORY=/myworkspace</code>	<p>リポジトリ内のカスタム・ワークスペース・ファイルの場所です。</p>
<code>DEFAULT_PAGE=myfirstpage.html</code>	<p>ワークスペースの最初のページです。次の URL にアクセスすると、このページが表示されます。 <code>http://server/webtogo/</code></p>
<code>CUSTOM_FIRSTSERVLET=HelloWorld;/hello</code>	<p>このパラメータは、最初のサーブレットをカスタム・ワークスペースに追加するために使用します。最初のサーブレットの中で、<code>addServlet()</code> コールを使用すると、さらにサーブレットをカスタム・ワークスペースに追加できます。</p> <p>書式：<code>classname;virtual path</code></p>



表 4-1 WEBTOGO パラメータ（続き）

パラメータ	定義
WIG_PROXY	アプリケーションをディプロイするために Mobile サーバーに接続するときに使用する、HTTP プロキシです。  サンプル値：  www-proxy.dlsun1.com
WIG_PROXY_PORT	アプリケーションをディプロイするために Mobile サーバーに接続するときに使用する、HTTP プロキシ・ポートです。  サンプル値：  80
TRACE	デバッグ出力を有効にします。  サンプル値：  NO
TRACE_ALL	詳細なデバッグ出力を有効にします。SQL 文および実行時刻を含みます。  サンプル値：  NO

## [FILESYSTEM]

FILESYSTEM パラメータは、Mobile サーバー・リポジトリの動作を制御します。

表 4-2 FILESYSTEM パラメータ

パラメータ	定義
TYPE=O8	ファイル・システムの種類です。  O8 — Oracle8i ベースのファイル・システム。  OL — Oracle Lite ベースのファイル・システム。  OS — オペレーティング・システムのファイル・システム。  MIXED — 混在したファイル・システム。
PRIMARY=OL	<b>MIXED</b> モードの場合の主ファイル・システムです。

表 4-2 FILESYSTEM パラメータ（続き）

パラメータ	定義
SECONDARY=OS	MIXED モードの場合の副ファイル・システムです。
ROOT_DIR=e:\webtogo\bin	ルート・ディレクトリです。OS ファイル・システムの場合にのみ有効です。
CACHE_SIZE=10	O8 ファイル・システムのキャッシュ・サイズです (MB 単位)。このフラグは、システムにメモリーが十分にある場合以外は使用しないでください。
MAX_CONNECTIONS=1	O8 ファイル・システムの場合のデータベース接続数の最大値です。

[DEBUG]

DEBUG パラメータは、Mobile サーバーのデバッグ・メッセージを制御します。

表 4-3 DEBUG パラメータ

パラメータ	定義
ENABLE=YES	デバッグ・モードを使用可能にします。
MACHINE=host	wsh.exe が実行するマシンの名前。Mobile サーバーはこのマシンにデバッグ出力を送信します。
Port=100	wsh.exe のデバッグ用ポートのアドレスです。
LOG_FILE=c:\temp\t.log	デバッグ・メッセージを記録するログファイルです。

[PUBLIC]

表 4-4 PUBLIC パラメータ

クラス名	URL（仮想パス）
myservlet	/virtual path
e.g., oracle.code.MyServlet=	/my servlet

PUBLIC パラメータは、Mobile サーバーの動作を制御します。

## [SERVLET\_PARAMETERS]

SERVLET パラメータは、Mobile サーバーの動作を制御します。

**表 4-5 SERVLET パラメータ**

パラメータ	定義
MY_VAR=MY_VALUE	すべてのサーブレットがアクセスできるカスタム・パラメータです。

## [CONSOLIDATOR]

**表 4-6 レプリケーション・パラメータ**

パラメータ	定義
MAX_THREADS = 3	MGP プロセスの中で起動されるスレッドの数を指定します。CPU の数以上に指定する必要があります。
TRACE = NO	高水準トレース情報を出力するかどうかを制御します。
TRACE_ALL = NO	詳細トレース情報を出力するかどうかを制御します。
TRACE_F = NO	詳細トレース情報をファイルに書き込むかどうかを制御します。
TEMP = C:¥¥TEMP	トレース・ファイルを書き込むディレクトリを指定します。
MAX_CONNECTIONS = 1000	一度にオープンできる JDBC 接続の最大数を設定します。
SLEEP_TIME = 20000	MGP がクライアント・プロセスの間にスリープする長さ（ミリ秒単位）を指定します。
CONNECTION_POOL = YES	データベース接続のプーリングを有効にします。



---

# init.ora での Consolidator 要件

この章では、**init.ora** における、Oracle8i のパラメータ設定に必要な Consolidator の要件を説明します。

内容は次のとおりです。

- 関連パラメータ同士の関係
- PROCESSES および DML\_LOCKS の値

## 関連パラメータ同士の関係

次の `init.ora` のパラメータは、ここで示すとおりに設定する必要があります。

表 4-7 パラメータの設定

パラメータ	設定
PROCESSES	デフォルト値は 59 ～ 200 です。
SESSIONS	デフォルト値は、次のとおりです。 導出式: $1.1 * \text{PROCESSES} + 5$
TRANSACTIONS	デフォルト値は、次のとおりです。 導出式: $(1.1 * \text{SESSIONS})$
DML_LOCKS	デフォルト値は、次のとおりです。 導出式: $(4 * \text{TRANSACTIONS})$

## PROCESSES および DML\_LOCKS の値

PROCESSES および DML\_LOCKS の値をチェックします。大規模な同期操作が同時に実行されると、最大量のリソースが消費されます。各同時クライアントに対して、**Consolidator** はデータベース接続を 1 つ（1 つのセッションと 1 つのトランザクション）必要とします。したがって、**PROCESSES** の値は同時クライアントの最大数以上に設定する必要があります。

同期時に、**Consolidator** はパブリケーション・マップ表を変更します。各クライアントと変更されるパブリケーションに 1 つの、DML ロックが必要です。

**DML\_LOCKS** = (変更されるパブリケーション数) \* (同時クライアントの最大数)

1 回目と 2 回目の同期の間に、各クライアントのすべてのパブリケーション・マップ表が変更されます。したがって、DML ロックの必要数は次のようになります。

**DML\_LOCKS** = (パブリケーション数) \* (同時クライアントの最大数)

パブリケーション数が多い場合、デフォルトの **DML\_LOCKS** では不足する可能性があります。**init.ora** で明示的に設定する必要があります。たとえば、CRM には約 50 のパブリケーションがあるものとします。1 回目の同時同期が 30 の場合、**Consolidator** は 1500 の DML ロックを必要とします。**PROCESSES** が 200 に設定された **DML\_LOCKS** のデフォルト値は 1000 です。

---

## Secure Sockets Layer (SSL) のサポート

この章では、Mobile サーバーでサポートされる Secure Sockets Layer (SSL) 通信プロトコルについて説明します。SSL とは、インターネット上で通信のプライバシーを守るセキュリティ・プロトコルです。このプロトコルを使用すると、クライアント / サーバー・アプリケーションは盗聴、改ざんまたはメッセージの偽造を防止するように設計された方法で通信できます。セキュリティで保護された通信を、Mobile サーバーと Mobile クライアントの間で HTTPS を使用して確立できます。

SSL モードで Mobile サーバーを実行するには、Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) または Apache Server 内のモジュールとして Mobile サーバーを実行する必要があります。Oracle9iAS または Apache Server 内のモジュールとして Mobile サーバーを実行する方法の詳細は、『Oracle9i Lite インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

## サーバー側の構成

Oracle9iAS または Apache とともに実行している SSL モードの Mobile サーバーには、ブラウザから接続できます。これは、サーバー側で Oracle9i Lite がサポートする唯一の構成です。Oracle9iAS または Apache のモジュールとして実行している Mobile サーバーのみが、SSL をサポートします。

SSL モードで Mobile サーバーを実行するには、次の項の説明に従ってシステムを構成する必要があります。

### スタンドアロン・モードの Mobile サーバー

スタンドアロン・モードで実行する Mobile サーバーは、SSL をサポートしません。**webtogo.ora** で **SSL=YES** と設定すると、Mobile サーバーは動作しません。

スタンドアロンの実行モードでは、ブラウザから SSL モードの Mobile サーバーに接続しようとしても Mobile サーバーには接続できません。

### Oracle9iAS と Apache Server の構成

Oracle9iAS ではあらかじめ SSL サポートが構成されていますが、Apache Server を使用する場合は SSL をサポートするオープン SSL モジュールがあることを確認してください。Oracle9iAS または Apache Server をオープン SSL とともにインストールした後、**httpd.conf** ファイルに次のエントリがあることを確認してください。

---

---

**注意：** 次のエントリは Oracle9iAS のデフォルト構成です。これを確認する必要があります。詳細は、Oracle9i Application Server のインストール・ガイドを参照してください。

---

---

```
##
##  SSL Support
##
##  When we also provide SSL we have to listen to the
##  standard HTTP port (see above) and to the HTTPS port
##

Listen 80
Listen 443

#  SSL Engine Switch:
#  Enable/Disable SSL for this virtual host.
SSLEngine on
```



```
# SSL Cipher Suite:
# List the ciphers that the client is permitted to negotiate.
# See the mod_ssl documentation for a complete list.
# SSLCipherSuite ALL:!ADH:RC4+RSA:+HIGH:+MEDIUM:+LOW:+SSLv2:+EXP:+eNULL

# Server Certificate:
# Point SSLCertificateFile at a PEM encoded certificate. If
# the certificate is encrypted, then you will be prompted for a
# pass phrase. Note that a kill -HUP will prompt again. A test
# certificate can be generated with `make certificate' under
# built time. Keep in mind that if you've both a RSA and a DSA
# certificate you can configure both in parallel (to also allow
# the use of DSA ciphers, etc.)
SSLCertificateFile %conf%ssl.crt%server.crt

# Server Private Key:
# If the key is not combined with the certificate, use this
# directive to point at the key file. Keep in mind that if
# you've both a RSA and a DSA private key you can configure
# both in parallel (to also allow the use of DSA ciphers, etc.)
SSLCertificateKeyFile conf%ssl.key%server.key
```

---

**注意：** Oracle9iAS には、自己署名されているテスト用のサーバー証明書「server.crt」とその秘密鍵「server.key」があります。この証明書は単なるテスト用の証明書です。信頼できる認証局により署名された独自のサーバー証明書を取得する必要があります。信頼できる認証局が署名した証明書で「server.crt」を置き換えた後、Mobile サーバー・コントロール・センターにアクセスしてこの証明書を Mobile サーバー・リポジトリにアップロードします。

---

## Mobile サーバー構成

SSL モードで Mobile サーバーを実行するには、**webtogo.ora** 構成ファイルの WEBTOGO セクションに SSL 構成パラメータを追加し、その値を次のように設定します。

```
[WEBTOGO]
# ssl mode
SSL=YES
```

## CA 証明書の設定

Mobile サーバー・コントロール・センターからの CA 証明書を設定するには、Oracle9iAS または Apache Server の SSL 通信に使用するサーバー証明書を Mobile サーバー・リポジトリにアップロードします。

## クライアント側の構成

クライアント側の構成の場合、Mobile クライアントと Mobile サーバーの SSL 接続を確立できます。ただし、Oracle9i Lite はブラウザと Web-to-Go の Mobile クライアントの間の SSL 接続をサポートしません。

## Mobile クライアントと Mobile サーバーの間の通信

Mobile クライアントは、SSL を使用して Mobile サーバーと通信できます。Mobile サーバーと SSL 接続を確立するには、クライアント側の **webtogo.ora** 構成ファイルに次のパラメータを入力する必要があります。

```
SSL=YES  
SERVERURL=https://<server>:port/webtogo
```

## ブラウザと Web-to-Go の Mobile クライアントの間の接続

ブラウザから SSL モードで Web-to-Go の Mobile クライアントに接続しようとした場合、次の 2 つの条件がともに成立しても Mobile クライアントには接続できません。

1. Mobile サーバーが、Oracle9iAS または Apache のモジュールとして SSL モードで実行していること。
2. Web-to-Go の Mobile クライアントも、SSL モードで実行していること。

この場合、クライアントとサーバーの間の通信は HTTPS（すなわち SSL）を使用していますが、ブラウザから Web-to-Go の Mobile クライアントに接続するクライアント URL には HTTPS ではなく HTTP を指定する必要があります。

たとえば、次のとおりです。

```
http://<client machine>/webtogo
```

## 非 SSL の Mobile クライアントのサポート

Mobile サーバーが SSL モードで実行している場合、SSL モードまたは非 SSL モードで Mobile クライアントと同期できます。ただし、Web-to-Go の Mobile クライアントの場合は、SSL モードの Mobile サーバーと同期するにはクライアントも SSL モードで実行している必要があります。

SSL モードで実行している Mobile サーバーは、非 SSL モードの Mobile クライアントもサポートできます。多くの Mobile クライアントでは SSL がサポートされていないためです。

---

---

**注意：** SSL クライアントおよび非 SSL クライアントをサポートするには、Mobile サーバーは Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) または Apache Server の SSL ポートと非 SSL ポートの両方で実行する必要があります。また、デフォルトでは、Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) または Apache Server は SSL ポートと非 SSL ポートの両方で実行するように構成されています。

---

---



---

# Mobile サーバーのスクリプト言語

この章では、Mobile サーバーのスクリプト言語について説明します。スクリプトを使用して、頻繁に実行する管理作業をバッチ処理できます。Mobile サーバー用のスクリプトを INI テキスト・ファイルにコーディングし、WSH ツールを使用してその INI スクリプトを実行します。

スクリプトを使用して、ユーザー、グループ、アクセス権、レジストリのエントリおよびスナップショット変数を作成、変更および削除できます。内容は次のとおりです。

- [構文の説明](#)
- [スクリプト INI ファイルの実行方法](#)
- [例](#)

## 構文の説明

スクリプトでは、次のパラメータおよび構文を使用します。

### ユーザーの作成：

ユーザーを作成する構文は、次のとおりです。

```
[USER]
NAME=< ユーザー名 >
PASSWORD=< パスワード >
ENCRYPTED=<True または False。パスワードが暗号化されている場合は True、されていない場合は False>
FULLNAME=< フルネーム >
PRIVILEGE=< 権限レベル。P、C、S または null>
```

PRIVILEGE の値の設定には、次の 4 通りのオプションがあります。

- P – アプリケーションをパブリッシュする権限。
- C – Web-to-Go に接続する権限。
- S – Web-to-Go を管理する権限。
- NULL – 権限はありません。

### グループの作成：

このエントリは、(このグループが既存のものでない場合) 新規のグループを作成し、リストされているユーザーをそのグループに追加します。このエントリを使用して既存のグループの名前を指定した場合、既存のグループに含まれるすべてのユーザーが削除されて、リストされているユーザーがそのグループに追加されます。

既存のグループにユーザーを追加する場合は、[ADDUSERTOGROUP] を使用する必要があります。

グループを作成する構文は、次のとおりです。

```
[GROUP]
NAME=< グループ名 >
USER=< グループに追加するユーザー名 >
USER=< グループに追加するユーザー名 >
USER=< グループに追加するユーザー名 >
```

### グループへのユーザーの追加：

このエントリは、（このグループが既存のものでない場合）新規のグループを作成し、リストされているユーザーをそのグループに追加します。既存のグループにユーザーを追加するときも、このエントリを使用できます。

```
[ADDUSERTOGROUP]
NAME=< グループ名 >
USER=< グループに追加するユーザー名 >
USER=< グループに追加するユーザー名 >
```

### グループからのユーザーの削除：

リストされているユーザーを指定したグループから削除します。

```
[REMOVEUSERFROMGROUP]
NAME=< グループ名 >
USER=< グループから削除するユーザー名 >
USER=< グループから削除するユーザー名 >
```

### アクセス権の作成：

新規の ACL を作成します（この ACL が既存のものでない場合）。この ACL を作成した後、すべての既存ユーザーが削除され、リストされているユーザーがその ACL に追加されます。既存の ACL にユーザーを追加する場合は、[GRANTACCESS] を使用する必要があります。

ユーザーやグループにアクセス権を作成する構文は、次のとおりです。

```
[ACL]
APPLICATION=<ACL を作成するアプリケーション名 >
ROLE=< ユーザーのロール。DEFAULT ROLE または ADMINISTRATIVE ROLE を設定 >
USER=< ユーザー名 >
ACCESS=< アクセス・ステータスを ENABLED に設定 >
ROLE=< ユーザーのロール >
USER=< ユーザー名 >
ACCESS=< アクセス・ステータスを ENABLED に設定 >
ROLE=< グループのロール >
GROUP=< グループ名 >
ACCESS=< アクセス・ステータスを ENABLED に設定 >
```

### アクセス権の付与：

このエントリは、（この ACL が既存のものでない場合）新規の ACL を作成し、リストされているユーザーをその ACL に追加します。

```
[GRANTACCESS]
APPLICATION=<ACL を追加するアプリケーション名 >
ROLE=< ユーザーのロール >
USER=< ユーザー名 >
ACCESS=< アクセス・ステータス。ENABLED または DISABLED >
```

ROLE=< グループのロール >

GROUP=< グループ名 >

### アクセス権の取消し：

このエントリは、リストされているユーザーを指定した ACL から削除します。

[REVOKEACCESS]

APPLICATION=<ACL を取り消すアプリケーション >

ROLE=< ユーザーのロール >

USER=< ユーザー名 >

ACCESS=< アクセス・ステータス >

ROLE=< グループのロール >

GROUP=< グループ名 >

### レジストリの作成：

レジストリを作成する構文は、次のとおりです。

[REGISTRY]

APPLICATION=< アプリケーション名 >

NAME=< レジストリ変換名 >

VALUE=< 変数値 >

### スナップショット変数の作成：

スナップショット変数を作成する構文は、次のとおりです。

[SNAPSHOTVAR]

NAME=< パブリケーション項目名 >

PLATFORM=< パブリケーション項目のプラットフォーム >

VIRTUALPATH=< パブリケーション項目が属しているアプリケーションの仮想パス >

USER=< アプリケーションに登録するユーザー名 >

VAR=< データ・サブセッティング・パラメータ名、パラメータの値 >

USER=< アプリケーションに登録するユーザー名 >

VAR=< データ・サブセッティング・パラメータ名、パラメータの値 >

GROUP=< アプリケーションに登録するグループ名 >

VAR=< データ・サブセッティング・パラメータ名、パラメータの値 >

### ユーザーの削除：

ユーザーを削除する構文は、次のとおりです。

[DROPUSER]

NAME=< ユーザー名 >



## グループの削除：

グループを削除する構文は、次のとおりです。

```
[DROPGROUP]  
NAME=< グループ名 >
```

## アクセス権の削除：

ユーザーやグループのアクセス権を削除する構文は、次のとおりです。

```
[DROPACL]  
APPLICATION=<ACL を削除するアプリケーション名 >  
ROLE=< ユーザーのロール。DEFAULT ROLE または ADMINISTRATIVE ROLE を設定 >  
USER=< ユーザー名 >  
ACCESS=< アクセス・ステータスを DISABLED に設定 >  
ROLE=< ユーザーのロール。DEFAULT ROLE または ADMINISTRATIVE ROLE を設定 >  
GROUP=< グループ名 >  
ACCESS=< アクセス・ステータスを DISABLED に設定 >
```

## レジストリの削除：

レジストリを削除する構文は、次のとおりです。

```
[DROPREGISTRY]  
APPLICATION=< アプリケーション名 >  
NAME=< レジストリ変数名 >  
VALUE=< 変数値 >
```

## スナップショット変数の削除：

スナップショット変数を削除する構文は、次のとおりです。

```
[DROPSNAPSHOTVAR]  
NAME=< パブリケーション項目名 >  
PLATFORM=< パブリケーション項目のプラットフォーム >  
VIRTUALPATH=< パブリケーション項目が属しているアプリケーションの仮想パス >  
USER=< アプリケーションに登録するユーザー名 >  
VAR=< データ・サブセッティング・パラメータ名、パラメータの値 >  
USER=< アプリケーションに登録するユーザー名 >  
VAR=< データ・サブセッティング・パラメータ名、パラメータの値 >  
GROUP=< アプリケーションに登録するグループ名 >  
VAR=< データ・サブセッティング・パラメータ名、パラメータの値 >
```

## スクリプト INI ファイルの実行方法

WSH を使用してスクリプト INI ファイルを実行するには、次のコマンドを使用します。

```
WSH -c <filename.ini> mobileadmin/manager@webtogo.world
```

## 例

この項では、INI 形式のスクリプト・ファイルの例をいくつか示します。

## アクセス権の作成、追加および付与

次の例では、ユーザー、グループ、レジストリ、アクセス権限および snapshotvar テンプレート変数を作成し、グループにユーザーを追加し、ACL にユーザーを追加する方法を示します。

```
[DATABASE]
TYPE=ORACLE

#Creation or modification of users, groups, access privileges, registry,
and snapshot variable entries using the following entries in the INI file:
#[USER], [GROUP], [ACL], [REGISTRY], [SNAPSHOTVAR].

# Create user JOHN
#
[USER]
NAME=JOHN
PASSWORD=john
ENCRYPTED=false
FULLNAME=Sample1 User John
PRIVILEGE=C

#
# Create group 'Sample Users' containing JANE, JOHN, JACK
#
[GROUP]
NAME=Sample Users
USER=JANE
USER=JOHN
USER=JACK

#
# Set the ACL on the sample3 application.
# The following gives John, Jane, and Jack, plus all the users in the
group
# Sample Users access to the application
#
```

```
[ACL]
APPLICATION=/sample3
ROLE=Default Role
USER=JOHN
ACCESS=ENABLED
ROLE=Default Role
USER=JANE
ACCESS=ENABLED
ROLE=Default Role
USER=JACK
ACCESS=ENABLED
ROLE=Default Role
GROUP=Sample Users
ACCESS=ENABLED

#
# Add registry entriy for user JOHN and a default value for the Sample3
application to the Web-to-go Repository
#
[REGISTRY]
APPLICATION=/sample3
USER=JOHN
NAME=USERCODE
VALUE=1111

#
# Add template variables.
# You can specify user/group specific values for these variables
#
[SNAPSHOTVAR]
NAME=RECORDINGS
PLATFORM=WIN32
VIRTUALPATH=/sample3
USER=JOHN
VAR=CODE, 1111
USER=JACK
VAR=CODE, 1111
USER=JANE
VAR=CODE, 2222
GROUP=Sample Users
VAR=CODE, 2222

#
#Add users to a group.
#
[ADDUSERTOGROUP]
NAME=Sample Users
```

```
USER=USER1
USER=USER2

#
#Grant Access to users.
#
[GRANTACCESS]
APPLICATION=/sample3
ROLE=Default Role
USER=USER1
ACCESS=ENABLED
ROLE=Default Role
USER=USER2
ACCESS=ENABLED
ROLE=Default Role
GROUP=Sample Users
```

## アクセス権の削除および取消し

次の例では、ユーザー、グループ、レジストリおよび snapshotvar を削除し、グループからユーザーを削除し、アクセス権を取り消す方法を示します。

```
#Deletion of users, groups, access privileges, registry and snapshot
variable entries using the following entries in
#the INI file:
#[DROPUSER], [DROPGROUP], [DROPACL], [DROPREGISTRY], [DROPSNAPSHOTVAR].

#
# Dropuser JOHN
#
[DROPUSER]
NAME=JOHN

#
# Drop group 'Sample Users'
#
[DROPGROUP]
NAME=Sample Users

#
# Drop the ACL on the sample3 application.
#
[DROPACL]
APPLICATION=/sample3
ROLE=Default Role
USER=JOHN
ACCESS=DISABLED
```

```
ROLE=Default Role
GROUP=Sample Users
ACCESS=DISABLED

#
# Drop registry entriy for user JOHN from Sample3 application.
#
[DROPREGISTRY]
APPLICATION=/sample3
USER=JOHN
NAME=USERCODE

#
# Drop template variables for user JOHN and group 'Sample Users'
#
[DROPSNAPSHOTVAR]
NAME=RECORDINGS
PLATFORM=WIN32
USER=JOHN
VAR=CODE, 1111
GROUP=Sample Users
VAR=CODE, 2222

#
#Remove users from a group.
#
[REMOVEUSERFROMGROUP]
NAME=Sample Users
USER=USER1
USER=USER2

#
#Revoke access.
#
[REVOKEACCESS]
APPLICATION=/sample3
ROLE=Default Role
USER=USER1
ACCESS=DISABLED
ROLE=Default Role
USER=USER2
ACCESS=DISABLED
ROLE=Default Role
GROUP=Sample Users
```



---

## プロキシ・サーバーのバイパス

「管理者」アクセス権を付与されているユーザーは、プロキシ・サーバー経由で **Mobile** サーバーに接続しないでください。**Mobile** サーバーはクライアント・マシンの IP アドレスを参照できないので、「管理者」レベルのアクセスを許可できません。

「管理者」アクセス権を持ち、通常はプロキシ・サーバー経由でネットワークに接続しているユーザーは、**Mobile** サーバーに接続する前にプロキシ・サーバーをバイパスする必要があります。

プロキシ・サーバーをバイパスするようにクライアント・マシンを構成するには、次の手順を実行します。

1. Internet Explorer で、「ツール」メニューから「インターネット オプション」を選択します。「インターネット オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「接続」タブを選択します。「接続」パネルが表示されます (図 4-13)。

図 4-13 「接続」タブ





3. 「接続」パネルの「LAN の設定」ボタンをクリックします。「ローカルエリア ネットワーク (LAN) の設定」ダイアログ・ボックスが表示されます (図 4-14)。

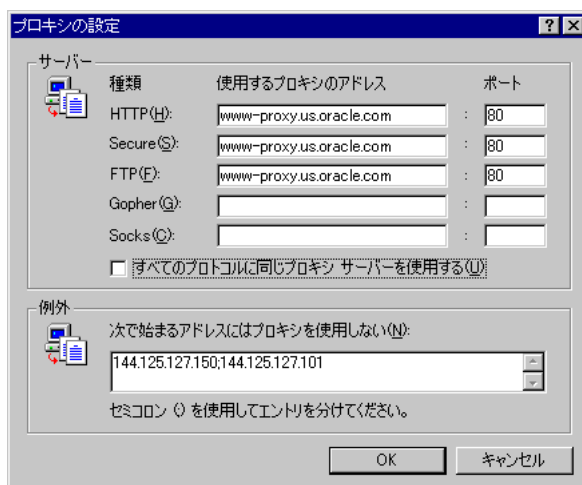
図 4-14 ローカル エリア ネットワーク (LAN) の設定



4. 「ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない」チェックボックスを選択します。

5. 「詳細」 ボタンをクリックします。「プロキシの設定」 ダイアログ・ボックスが表示されます (図 4-15)。

図 4-15 「プロキシの設定」 ダイアログ・ボックス



6. 「例外」 セクションで、「次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない:」 の下のフィールドに、「管理者」 アクセス権があるアカウントのクライアント・マシンの IP アドレスを入力します (図 4-15)。
7. 「OK」 をクリックします。

---

# 用語集

## 3 層 Web モデル (Three-Tier Web Model)

クライアント、中間層およびサーバーを含むインターネット・データベース構成。  
Web-to-Go アーキテクチャは 3 層 Web モデルに準拠しています。

## Apache Server

National Center for Supercomputing Applications (NCSA) から発表されたパブリック・ドメインの HTTP サーバー。

## JavaServer Pages

JavaServer Pages (JSP) とは、開発者がページの基になるコンテンツを変更せずにページのレイアウトを変更できるようにするテクノロジーです。JSP は HTML と Java コードを使用し、動的コンテンツとビジネス・ロジックを結び付けたプレゼンテーションを可能にします。

## Java Servlet Development Kit

Java サーブレットの開発のために JavaSoft 社が提供しているツール。

## Java Web Server Development Kit

Java Web Server Development Kit 1.0.1 は、JavaServer Pages (JSP) と Java サーブレットの開発のために JavaSoft 社が提供しているツールです。

## Java アプレット (Java Applets)

ブラウザで実行される小規模なアプリケーションで、動的コンテンツを追加することにより HTML ページの機能を拡張します。

## Java サーブレット (Java Servlets)

Java で作成されているプロトコルで、プラットフォームに依存しないサーバー側コンポーネント。Java サーブレットは Java 対応のサーバーを動的に拡張し、要求 - 応答方式を使用して作成されたサービスのための汎用フレームワークを提供します。

## **JDBC**

Java Database Connectivity (JDBC) は Java クラスの標準セットで、リレーショナル・データに対してベンダーに依存しないアクセスを提供します。JDBC クラスは ODBC をモデルにしたもので、複数データベースへの同時接続、トランザクション管理、単純問合せ、バインド変数によるコンパイル済み文の操作、ストアド・プロシージャへのコールなどの標準機能を提供します。JDBC では、静的 SQL と動的 SQL の両方がサポートされます。

## **LEAPFROG シーケンス (Leapfrog Sequence)**

Web-to-Go がサポートする 2 つのシーケンスのうちの 1 つで、オフライン・モードの Web-to-Go の Mobile クライアント に対して一意の主キー値を提供するために使用されるもの。LEAPFROG シーケンスの初期値はクライアントごとに異なり、各シーケンスの増分は最大クライアント数より大きい値に設定されます。

## **MIME**

Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME) とは、メッセージの内容を記述するためにインターネット上で使用されるメッセージ形式です。MIME は、HTTP サーバーが配布対象ファイルのタイプを記述するために使用します。

## **MIME タイプ (MIME Type)**

Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME) により定義されているファイル形式。

## **Mobile Development Kit for Web-to-Go**

Mobile Development Kit (Web-to-Go 用) を使用すると、アプリケーション開発者は、Java サブレット、JavaServer Pages (JSP) または Java アプレットで構成される Web-to-Go アプリケーションの開発とデバッグを行えます。

## **Mobile サーバー**

Mobile サーバーは、Mobile サーバー 3 層モデルのアプリケーション・サーバー層に常駐し、Mobile クライアントからの変更要求を処理してデータベース・サーバー内のデータを変更します。

## **Mobile サーバー・リポジトリ (Mobile Server Repository)**

Mobile サーバー・リポジトリとは、Oracle8i に常駐する仮想ファイル・システムです。このリポジトリは、すべてのアプリケーション・ファイルとアプリケーション定義を含む持続リソース・リポジトリです。

## **ODBC**

Open Database Connectivity (ODBC) は Microsoft 社の標準で、様々なプラットフォーム上のデータベース・アクセスを可能にします。Web-to-Go の Mobile クライアント上では、トラブルシューティング用に ODBC サポートを使用可能にします。ODBC サポートを使用すると、ローカルの Oracle Lite データベースに格納されているクライアントのデータを表示できます。

## **Oracle8i**

Oracle8i は、Mobile サーバーのデータベース・コンポーネントです。Web-to-Go の Mobile クライアントがオンライン・モードのときは、アプリケーションとデータは Oracle8i に格納されます。

## **Oracle Lite**

Oracle Lite は、Web-to-Go の Mobile クライアントのデータベース・コンポーネントです。クライアントがオフライン・モードのときは、アプリケーションとデータは Oracle Lite に格納されます。

## **SQL**

Structured Query Language (SQL) は、リレーショナル・データベース・エンジンのほとんどで使用される非手続き型データベース・アクセス言語です。SQL 文はデータ・セットに対して実行される操作を記述します。SQL 文がデータベースに送られると、データベース・エンジンは指定されたタスクを実行するプロシージャを自動的に生成します。

## **Web-to-Go**

Oracle Web-to-Go は、Web ベースのモバイル・データベース・アプリケーションを作成および配置するためのフレームワークです。Web-to-Go には、Web-to-Go の Mobile クライアント、Mobile サーバーおよび Oracle8i で構成される 3 層データベース・アーキテクチャが含まれます。サーバーから一元管理され、Web-to-Go アプリケーションは Web-to-Go がサーバーに接続されたとき（オンライン）またはサーバーから切断されたとき（オフライン）に実行できます。オフラインのときは Web-to-Go はデータをローカルにキャッシュし、オンラインに戻ったときにそのデータをサーバーと同期します。

## **Web-to-Go の Mobile クライアント**

Web-to-Go の Mobile クライアントは、Web-to-Go の 3 層 Web モデルのクライアント層です。Mobile サーバーと Oracle Lite データベースが含まれます。オフライン・モードに切り替わると、Web-to-Go はユーザーのアプリケーションとデータを Oracle Lite にレプリケートします。オンラインに戻ると、Web-to-Go はデータの変更を Oracle8i にレプリケートします。

## **WINDOW シーケンス (Window Sequence)**

Web-to-Go がサポートする 2 つのシーケンスのうちの 1 つで、オフライン・モードの Web-to-Go の Mobile クライアントに対して一意の主キー値を提供するために使用されるもの。WINDOW シーケンスには、一意の値範囲が含まれます。他のクライアントと値の範囲は重複しません。クライアントがシーケンスの範囲内の値をすべて使用すると、Web-to-Go は新しい一意の値範囲を持つシーケンスを再び作成します。

### 一意キー (Unique key)

表の一意キーは、表の各列での一意の列または列グループです。UNIQUE KEY 制約を満たすには、一意キーの値が表の複数の行に出現することはできません。ただし、PRIMARY KEY 制約とは異なり、単一列からなる一意キーは NULL 値を含むことができます。

### 位置づけ DELETE (Positioned DELETE)

位置づけ DELETE 文により、カーソルの現在行が削除されます。書式は次のとおりです。

```
DELETE FROM table
WHERE CURRENT OF cursor_name
```

### 位置づけ UPDATE (Positioned UPDATE)

位置づけ UPDATE 文により、カーソルの現在行が更新されます。書式は次のとおりです。

```
UPDATE table SET set_list
WHERE CURRENT OF cursor_name
```

### オフライン・モード (Offline Mode)

Web-to-Go の Mobile クライアントが Mobile サーバーから切断されている状態。オフライン・モードでは、クライアント・アプリケーションはローカルに実行され、データは Oracle Lite でアクセスおよび格納されます。「[オンライン・モード](#)」も参照。

### オンライン・モード (Online Mode)

Web-to-Go の Mobile クライアントが Mobile サーバーに接続されている状態。「[オフライン・モード](#)」も参照。

### 外部キー (Foreign Key)

外部キーとは表またはビューに存在する列または列グループのことで、その値は別の表またはビューに存在する行を参照します。外部キーには、一般に、別の表の主キー値と一致する値が含まれます。「[主キー](#)」も参照。

### 結合 (Join)

2 つの異なる表またはビューに存在するキー（主キーと外部キーの両方）の間に確立された関係。結合は、リレーショナル・データベース内の重複したデータを排除するために正規化された表のリンクに使用します。結合リンクの一般的なものとしては、1 つの表の主キーを別の表の外部キーにリンクして、マスター・ディテール関連を確立するものがあります。結合は SQL 文の WHERE 句条件に対応します。

### コントロール・センター (Control Center)

Mobile サーバー・コントロール・センターはブラウザ内で実行される Mobile アプリケーションで、これを使用するとアプリケーションとそのユーザーの管理が容易になります。管理者はコントロール・センターを使用して、ユーザーまたはグループに対するアクセス権の付与と取消し、スナップショット・テンプレート変数の変更、Mobile サーバーからのアプリケーションの削除などの機能を実行します。

## サイト (Site)

Web-to-Go は、Web-to-Go の Mobile クライアント上の各ユーザーに対してデータベースを作成します。このデータベースはサイトと呼ばれます。1つのクライアントに複数のサイトを含められますが、サイトは1人のユーザーに1つのみ可能です。ユーザーは、異なるクライアント上に複数のサイトを所有できます。

## 索引 (Index)

表内のそれぞれの行に対する高速アクセスを提供するデータベース・オブジェクト。索引を作成すると、表のデータに対して実行される問合せおよびソート操作を高速化できます。また、索引を使用して、UNIQUE KEY 制約や PRIMARY KEY 制約などの制約を表に対して規定することもできます。

索引はいったん作成されると自動的にメンテナンスされ、データベース・エンジンにより可能なかぎりデータ・アクセスのために使用されます。

## 参照整合性 (Referential Integrity)

参照整合性は、レコードが追加、修正または削除されたときにメンテナンスされるマスター・ディテール関連内の表間のリンクの精度として定義されます。

マスター・ディテール・リレーションを注意深く定義しておくことにより、参照整合性が高まります。データベース内の制約によって、データベース（クライアント / サーバー環境でのサーバー）レベルの参照整合性が規定されます。

参照整合性の目的は、孤立したレコード（マスター・レコードとの有効なリンクを持たないディテール・レコード）が作成されないようにすることです。参照整合性を規定する規則により、結果として孤立したレコードを作成するような、マスター・レコードの削除や更新、またはディテール・レコードの挿入や更新を予防できます。

## シーケンス (Sequence)

順次数を生成するスキーマ・オブジェクト。シーケンスを作成した後は、これを使用してトランザクション処理用の一意の順次数を生成できます。これらの一意の整数には、主キー値を含むことができます。トランザクションで順序番号が生成される場合、トランザクションをコミットしたかロールバックしたかにかかわらずシーケンスが即時増分されます。

[「WINDOW シーケンス」](#)および[「LEAPFROG シーケンス」](#)も参照。

## シノニム (Synonym)

表、ビュー、シーケンス、スナップショットまたは別のシノニムに対する代替名（エイリアス）。

## 主キー (Primary Key)

表の主キーは、表内の各行を一意に識別するのに使用される1つの列または列グループです。主キーを使用すると表のレコードにすばやくアクセスできます。また主キーは2つの表またはビューの間の結合の基礎として頻繁に使用されます。それぞれの表に対して主キーは1つしか定義できません。

PRIMARY KEY 制約を満たすには、主キー値が表の 2 つ以上の列で使用されたり、主キーの一部の列に NULL 値が含まれないようにします。

### **スキーマ (Schema)**

表、ビュー、索引、シーケンスなどを含む、名前の付いたデータベース・オブジェクトの集まり。

### **スナップショット (Snapshot)**

スナップショットとは Web-to-Go が Oracle データベースからリアルタイムで取得するアプリケーション・データのコピーで、オフラインになる前にクライアントにダウンロードされます。スナップショットは、データベース表全体のコピー、または表の行のサブセットのコピーです。ユーザーが初めてオンラインからオフラインに切り替えるとき、Web-to-Go はクライアント・マシン上にスナップショットを自動的に作成します。その後、オンラインまたはオフラインに切り替えるたびに、Web-to-Go はスナップショットの複雑さに応じて、スナップショットを最新のデータでリフレッシュするか、全体を再作成します。

### **整合性制約 (Integrity Constraint)**

表の 1 つ以上の列に入力できる値を制限する規則。

### **接続 (Connected)**

サーバーに接続されているユーザー、アプリケーションまたはデバイスを指す一般的な用語。Web-to-Go の Mobile クライアントは、オンライン・モードのときに接続されています。

### **切断 (Disconnected)**

サーバーに接続されていないユーザー、アプリケーションまたはデバイスを指す一般的な用語。Web-to-Go の Mobile クライアントは、オフライン・モードのときに切断されています。

### **データベース・オブジェクト (Database Object)**

データベース・オブジェクトとは、表、ビュー、シーケンス、索引、スナップショットまたはシノニムなどの名前の付けられたデータベース構造体です。

### **データベース・サーバー (Database Server)**

Mobile サーバーの 3 層 Web モデルの 3 番目の層。アプリケーション・データを格納します。

### **同期 (Synchronization)**

Web-to-Go が Web-to-Go の Mobile クライアントと Oracle8i の間でデータをレプリケートするために使用するプロセス。Web-to-Go は、ユーザーがオフライン・モードに切り替えたときにユーザーのアプリケーションおよびデータを Oracle Lite にレプリケートします。オンラインに戻ると、Web-to-Go はデータの変更を Oracle8i にレプリケートします。



## トランザクション (Transaction)

リレーショナル・データベース内の選択されたデータに対して加えられる一連の変更。トランザクションは通常、ADD、UPDATE、DELETE などの SQL 文を使用して実行します。トランザクションは、コミットされた（変更が永続的になる）とき、またはロールバックされた（変更が破棄された）ときに完了します。

トランザクションの前に問合せが実行されることがよくあります。問合せを使用して、変更対象の特定のレコードをデータベースから選択しておきます。「SQL」も参照。

## パッケージ・ウィザード

パッケージ・ウィザードを使用すると、開発者は新規または既存の Mobile サーバー・アプリケーションを定義およびパッケージできます。

## ビュー (View)

1 つ以上の表（または他のビュー）から選択されたデータをカスタマイズして表したもの。ビューは「仮想的な表」のようなもので、複数の表（実表と呼ばれます）およびビューからのデータを関連させ、組み合わせることができます。ビューは表示されるデータの選択条件を指定できるため、一種の「格納された問合せ」といえます。

ビューは、表のように、行と列に編成されます。ただし、ビューには、データそのものは含まれません。ビューを使用すると、複数の表またはビューを 1 つのデータベース・オブジェクトとして扱うことができます。

## 表 (Table)

行と列に編成されたデータを格納するデータベース・オブジェクト。上手に設計されたデータベースでは、各表に単一のトピックに関する情報（たとえば、従業員や顧客の住所など）が格納されます。

## マスター・ディテール・リレーション (Master-Detail Relationship)

1 つの表またはビュー（ディテール表またはビュー）の複数行が、別の表またはビュー（マスター表またはビュー）の単一のマスター行に関連付けられている場合に、マスター・ディテール・リレーションがデータベース内の表またはビューの間に存在すると言います。

マスター行およびディテール行は通常、ディテール表またはビュー内の外部キー列と一致するマスター表またはビュー内の主キー列により結合されます。

主キーの値を変更した場合、アプリケーションでは、外部キーの値が主キーの値と一致するように一連の新しいディテール・レコードを問い合わせる必要があります。たとえば、EMP 表内のディテール・レコードが、DEPT 表内のマスター・レコードと同期される場合、DEPT 内の主キーは DEPTNO で、EMP 内の外部キーは DEPTNO にします。「主キー」および「外部キー」も参照。

## モードの切替え (Switching Modes)

Mobile クライアント for Web-to-Go がオフラインに切り替えたりオンラインに戻るために使用するプロセス。クライアントがオフライン・モードに切り替わると、オフラインで作業するために必要なすべてのアプリケーションとデータが Oracle Lite にダウンロードされます。クライアントがオンラインに戻ったときに、Oracle Lite に対するデータ変更を Oracle8i と同期します。

## レジストリ (Registry)

レジストリには、Web-to-Go の一意の名前と値のペアが含まれます。レジストリの名前はすべて一意である必要があります。

## レプリケーション (Replication)

分散データベース・システムを構成する複数のデータベース内で、データベース・オブジェクトをコピーしメンテナンスするプロセス。1つのサイトに適用された変更が取得されローカルに格納されてから、各リモート・サイトに転送され適用されます。レプリケーションは、共有データに対する高速のローカル・アクセスをユーザーに提供し、データ・アクセスの代替オプションを提供してアプリケーションの使用を保護します。1つのサイトが使用不可になっても、残りのサイトに対して問い合わせたり更新できます。

## レプリケーションの競合 (Replication Conflict)

レプリケーションの競合は、同一のデータに対して矛盾する変更が加えられたときに発生します。データの正しいサブセット化によって、レプリケーションの競合を回避できます。パッケージ・ウィザードを使用すると、開発者は競合の対処方法についての規則を指定できます。

## ワークスペース (Workspace)

Mobile サーバーのワークスペースとは、Web-to-Go アプリケーションに対するアクセスをユーザーに提供する Web ページです。Web-to-Go は、ユーザーが Web-to-Go にログインした後に、ユーザーのブラウザ内にワークスペースを生成します。ワークスペースは、ユーザーが使用できるすべてのアプリケーションのアイコン、リンクおよび説明を表示します。アプリケーションを使用できるようになるのは、管理者がアプリケーションを Web-to-Go システムにパブリッシュし、ユーザーに対してアクセス権を付与した後です。

# 索引

## A

AT AppendixTitle

段落タグ

AT AppendixTitle, F-1

## M

Message Generator and Processor (MGP)

起動と停止, 3-56

Mobile サーバー

基本機能, 2-4

ステータスの表示, 3-51

操作の一時停止, 3-53

操作の再開, 3-54

Mobile サーバー・コントロール・センター

「アプリケーション」タブ, 3-14

概要, 3-2

「サイト」タブ, 3-14

データ同期ジョブのスケジュール, 4-17

「ユーザー」タブ, 3-14

ユーザーとアプリケーションの検索, 3-13

アプリケーション管理, 3-10

「サーバー」タブ, 3-15

「ジョブ」タブ, 3-15

データ同期ジョブのスケジュール, 3-58

「ヘルプ」タブ, 3-15

ログオン, 3-10

## W

Web-to-Go

基本構造, 2-2

コントロール・センターからのログオフ, 4-6

Web-to-Go クライアント

インストール手順, 4-2

コンポーネントと基本機能, 2-3, 2-4

ソフトウェア要件, 4-2

ハードウェア要件, 4-2

## あ

アクセス・コントロール・リスト, 3-2

アプリケーション

Mobile サーバー・リポジトリへのアップロード,  
3-43

一時停止, 3-41

グループ・アクセスの取消し, 3-25

グループへのアクセス権の付与, 3-25

グループ・レベル・アクセスの変更, 3-26

再開, 3-42

削除, 3-40

パブリックで使用するアプリケーション・ファイル  
の選択, 3-30

プロパティの変更, 3-37

ユーザー・アクセスの取消し, 3-25

ユーザーおよびグループのアクセス, 3-24

ユーザーへのアクセス権の付与, 3-25

アプリケーションの設定

コントロール・センター, 4-10

アプリケーションへのグループ・レベル・アクセス,  
3-26

ユーザーの除外, 3-27

ユーザーの包含, 3-27

## か

---

外部認証, 3-8

環境設定

    コントロール・センターでの構成, 4-8

## こ

---

コントロール・センター

    アプリケーションの切替え, 4-22

    「ログオフ」タブ, 4-6

## さ

---

サイト, 3-6

    Web-to-Go からの削除, 3-49

    管理, 3-6

    詳細の表示, 3-50

サイト詳細の表示, 3-50

## す

---

スナップショット

    概要, 3-3

    完全リフレッシュ方法による更新, 3-4

    更新可能, 3-4

    高速リフレッシュ方法による更新, 3-4

    テンプレート, 3-5

    読取り専用, 3-3

## て

---

データ同期

    データ同期ジョブの削除, 3-61, 4-21

    同期ジョブの作成, 3-59, 4-19

    同期ジョブの編集, 3-61, 4-21

## と

---

同期, 2-5

## は

---

パスワード

    外部認証による検証, 3-8

    コントロール・センターでの変更, 4-12

## ひ

---

表

    SQL 文を使用した作成, 3-4

## ふ

---

ブックマーク

    システム・ブックマークのアイコンの作成, 3-46

    システム・ブックマークの削除, 3-47

    システム・ブックマークの編集, 3-46

    新規システム・ブックマークの作成, 3-44

    プロトコル・アイコンの編集, 3-47

    ユーザー定義ブックマークの削除, 4-15

    ユーザー定義ブックマークの作成, 4-13

    ユーザー定義ブックマークのためのカスタム・イメージの作成, 4-14

    ユーザー定義ブックマークのプロトコル・アイコンの編集, 4-15

    ユーザー定義ブックマークの編集, 4-15

    ワークスペースを使用したアクセス, 4-16

## ゆ

---

ユーザー

    Web-to-Go からの削除, 3-19

    アプリケーション・ロールの取消し, 3-28

    アプリケーション・ロールの付与, 3-28

    プロパティと権限の変更, 3-19

    ユーザー・サイトの表示, 3-20

    ユーザーの作成, 3-15

    レジストリ・エントリの変更, 3-35

ユーザー・グループ

    Web-to-Go からの削除, 3-23

    アプリケーション・ロールの取消し, 3-30

    アプリケーション・ロールの付与, 3-30

    作成, 3-21

    ユーザーの削除, 3-23

    ユーザーの追加, 3-23

## わ

---

ワークスペース

    アプリケーション設定の構成, 4-10

    「アプリケーション」タブ, 4-4

    一般的な機能, 2-4

    環境の構成, 4-8

「構成」タブ, 4-5

「同期」タブ, 4-5

パスワードの変更, 4-12

「ブックマーク」タブ, 4-16

